

ORIGAMI

TANTEIDAN

折紙探偵団

M A G A Z I N E

定価 **635円**
(本体605円)

クローズアップ Close-up

折紙作家の創作現場—ジョセフ・ウーの場合—

A Workroom of an Origami Designer : Joseph Wu

報告: 松浦英子 Reporter: Matsuura Eiko

展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

サメ 宮島 登

Shark

Miyajima Noboru

折り図 Diagrams

猫 川畑文昭

Cat

Kawahata Fumiaki

ちびフクロウ2

Owlet 2

勝田恭平

Katsuta Kyohei

新連載 New Serials

知子の部屋

Tomoko's Room

布施知子

Fuse Tomoko

折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of
the JOAS Library

羽鳥公士郎

Hatori Koshiro

つまみおり Information

第13回 折紙探偵団

コンベンション参加募集開始

Registration Information on
the 13th Origami Tanteidan Convention



通巻 **103** 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
- 3 The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING

 谷折り線 Line indicating valley fold	 山折り線 Line indicating mountain fold	 手前に折る Fold paper forwards	 後ろへ折る Fold paper backwards	 折り筋をつける Making a crease line	 段折り Pleat fold
 裏返す Turn paper over	 引き出す Pull out	 図の見る位置が変わる Rotation	 図が大きくなる A magnified view	 見えないところ A hidden line	 押す、押しつぶす Push paper in
					 切る Cut

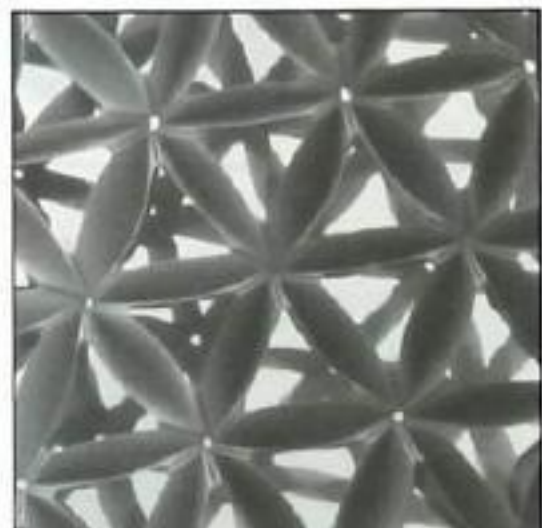
表紙解説

ジオスフィア
作:川村みゆき (P.38)
GEOSPHERE
by Kawamura Miyuki (P.38)

■関西コンベンションに持ち込まれた巨大作品は、1890枚ものパーツから構成され、3日かけて制作・組み上げたとのこと。うねるような部品連結の流れにまず圧倒されますが、繊細に配置されたグラデーションも要注目ポイント。本誌101号に折り図が掲載されています。

(解説:北條高史) Comments : Hojyo Takashi

No. **103**



GEOSPHERE : Kawamura Miyuki

クローズアップ／Close-up

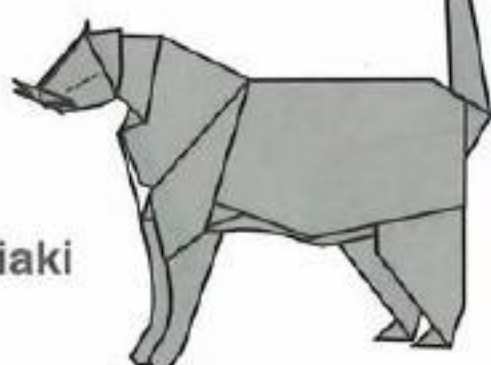
P.11 折紙作家の創作現場
- ジョセフ・ウーの場合 -
 A Workroom of an Origami Designer:
 Joseph Wu

報告：松浦英子
 Reporter: Matsuura Eiko

折り図／Diagrams and Crease Pattern

P.22 猫
 Cat

川畑文昭
 Kawahata Fumiaki



P.30 ちびフクロウ2
 Owlet 2

勝田恭平
 Katsuta Kyohei

P.34 展開図折りに挑戦!
 Crease Pattern Challenge!

サメ
 Shark

宮島 登 Miyajima Noboru

カラーページ／Color

P.20 オリガミ・フォトギャラリー
 Origami Photo Gallery

解説・北條高史
 Comments : Hojyo Takashi

折り図／Thematic Series with Diagrams

P.4 知子の部屋
 Tomoko's Room
 花巻きボックス
 Flowered Box

布施知子
 Fuse Tomoko

P.8 おりがみ我楽多市
 Origami Odds and Ends
 ハバリータ・はばはばたくとり
 Bigajarita, Flapping "Big" Bird

やまぐち真
 Yamaguchi Makoto

読み物／Articles

P.14 過去の折り紙に学ぶ
 Learning from the Paperfolding of the Past
 ドイツとその周辺
 Germany and its Neighbors

ジョアン・サラス
 Joan Sallas

翻訳：アニャ・ドレウス、羽鳥公士郎
 Translator : Anja Drews, Hatori Koshiro

P.16 折紙図書館の本棚から
 From the Bookshelves of the JOAS Library
 『折り紙による幾何学演習』
 Geometric Exercises in Paper Folding

羽鳥公士郎
 Hatori Koshiro

P.18 折紙散歩右往左往
 Origami-Sampo to Unexpected Directions
 なぜか埼玉
 Saitama for Some Reason I Won't Tell

前川 淳
 Maekawa Jun

コラム／Columns

P.7 折り紙の周辺
 Origami and Its Neighbors

布施知子
 Fuse Tomoko

P.32 おりすじ
 Orisuzi ("Fold-Creases")

人見 亨
 Hitomi Toru

P.33 折紙三昧
 Origami-Zanmai (This Origami and That)

西川誠司
 Nishikawa Seiji

情報／Information

P.35 つまみおり Rabbit Ear

第13回折紙探偵団コンベンション参加募集開始
 Registration Information on
 the 13th Origami Tanteidan Convention

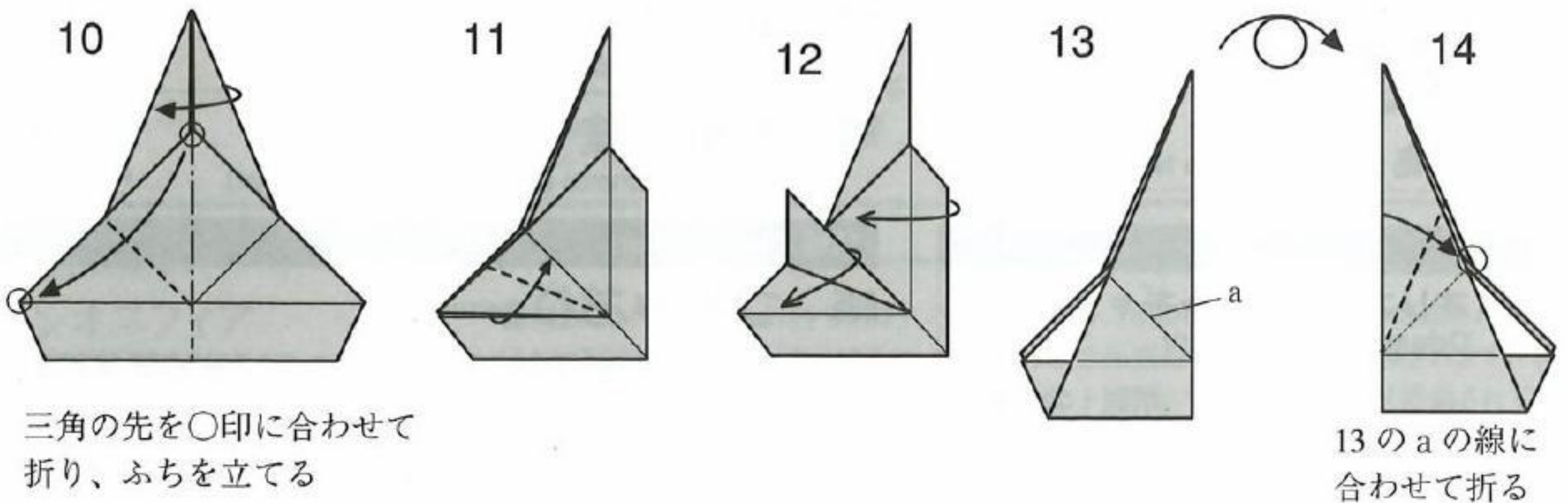
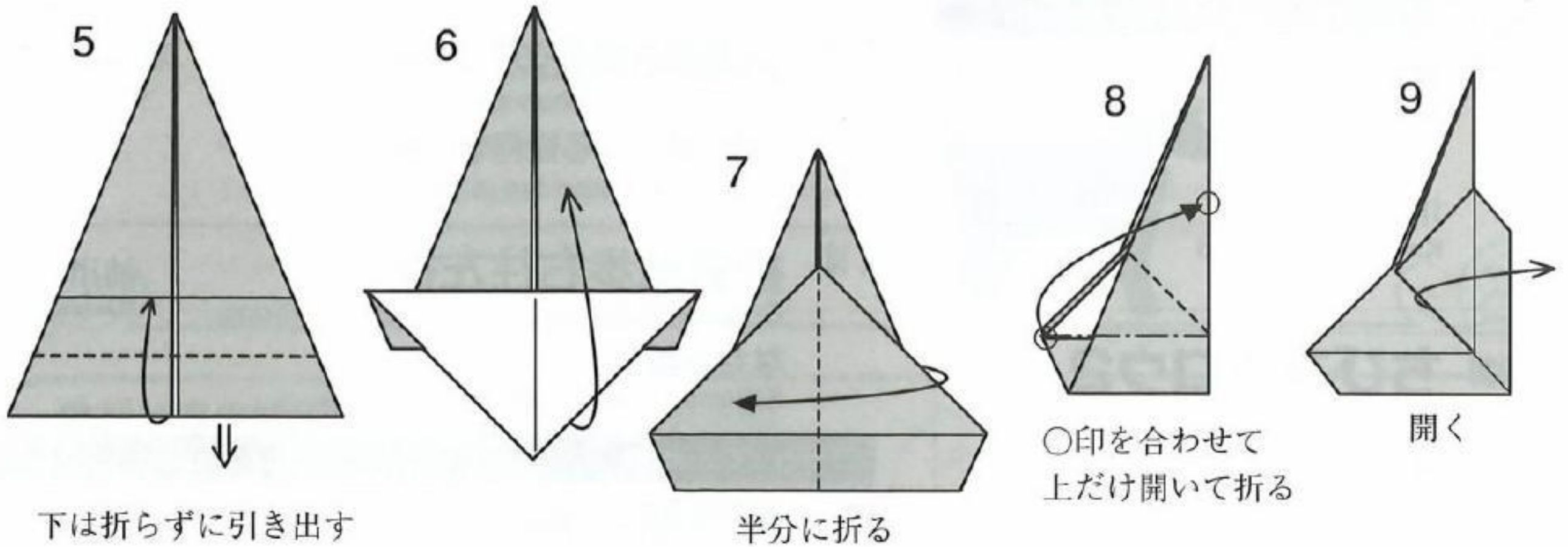
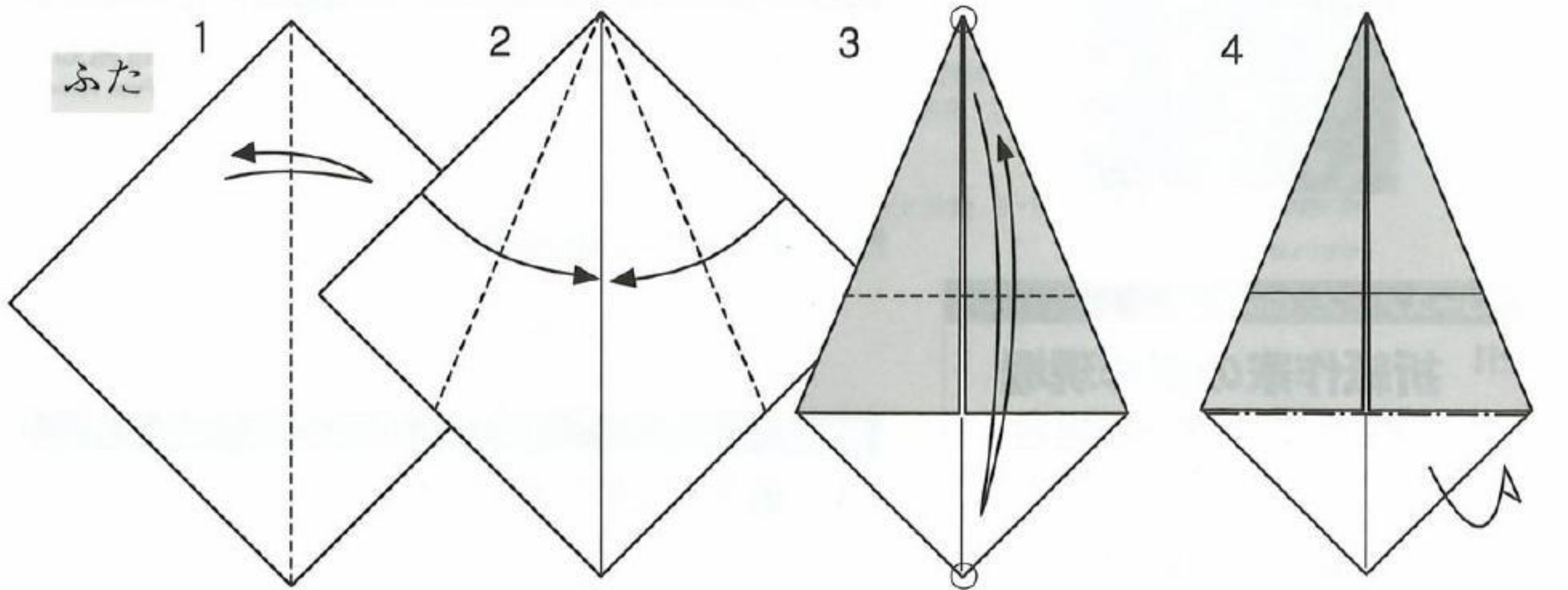
花巻きボックス

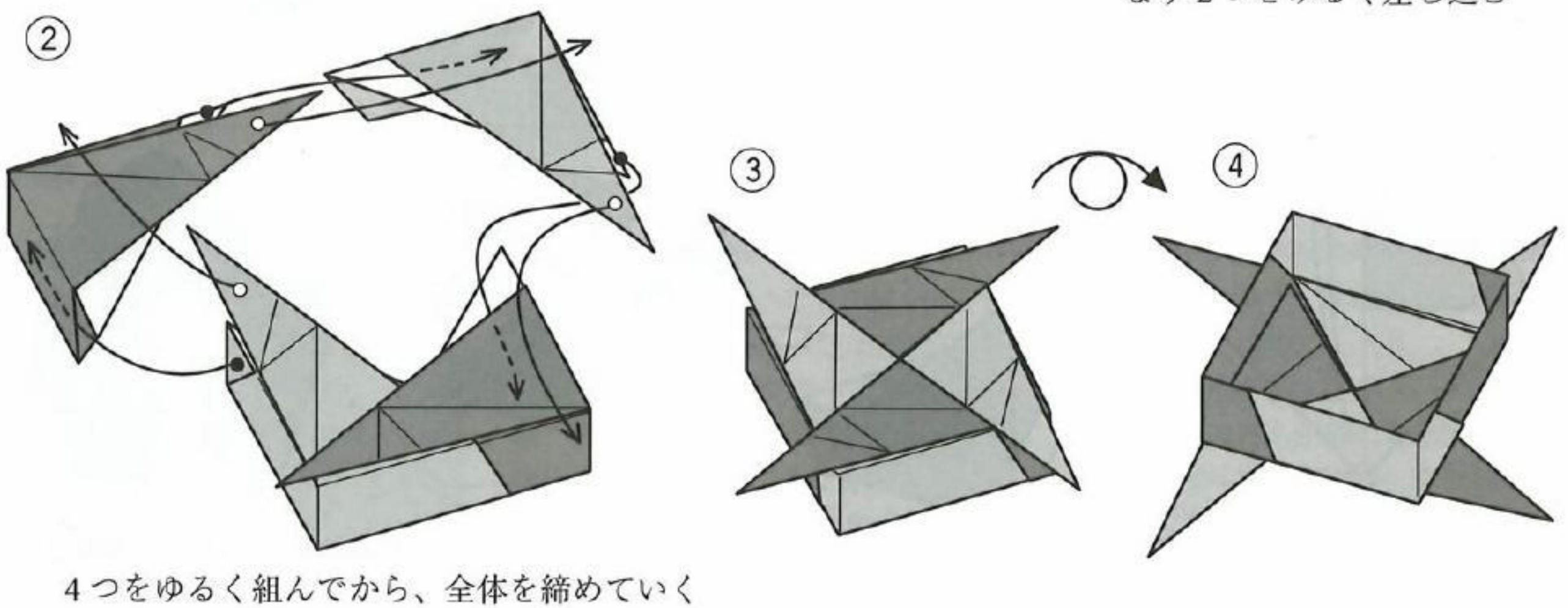
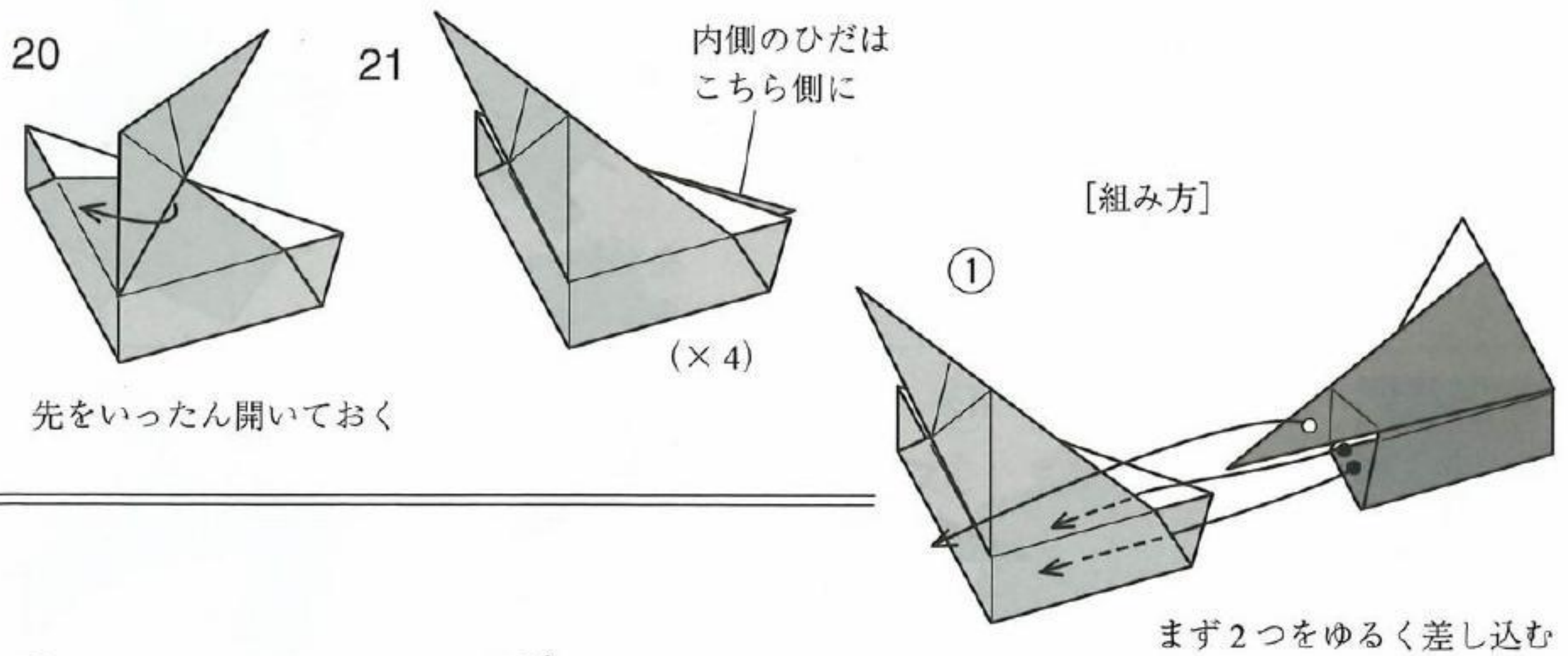
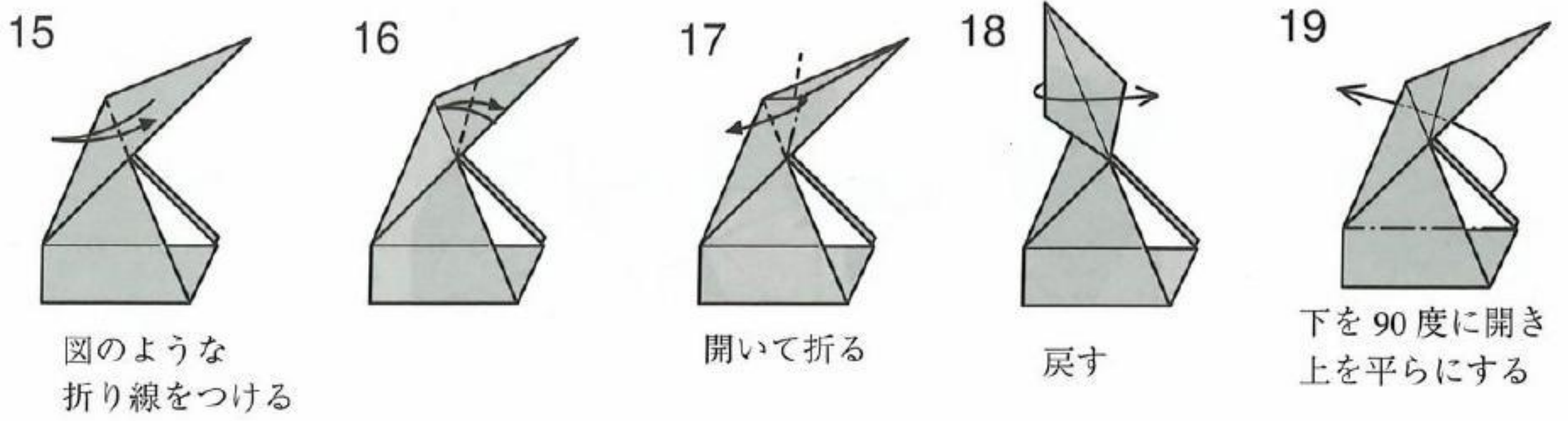
Flowered Box

布施 知子

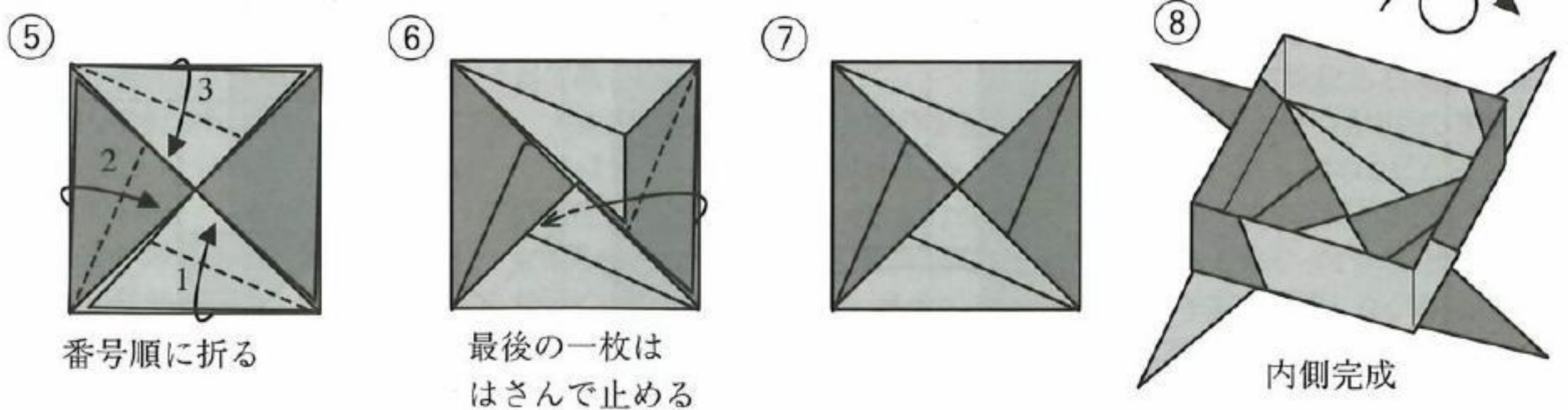
Fuse Tomoko

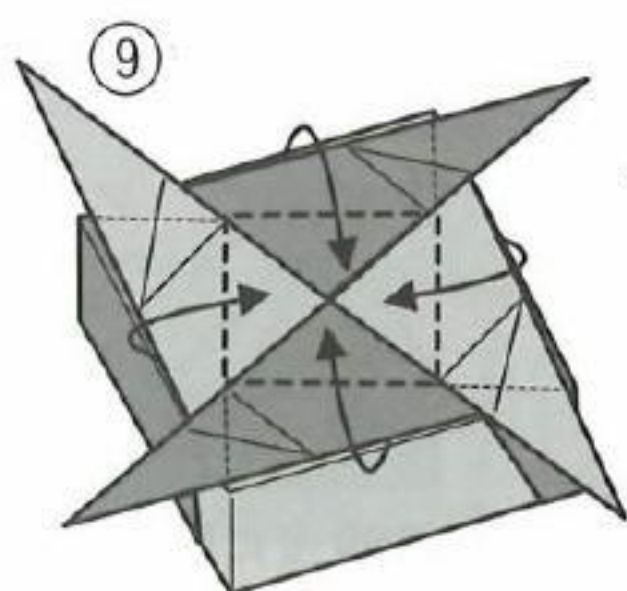
再び連載の機会をいただきました。一回おきの連載です。
ユニットの箱と立体の新作を発表していきます。
初回の箱はバリエーション豊富。花びらのカールの仕方
で表情が変わります。



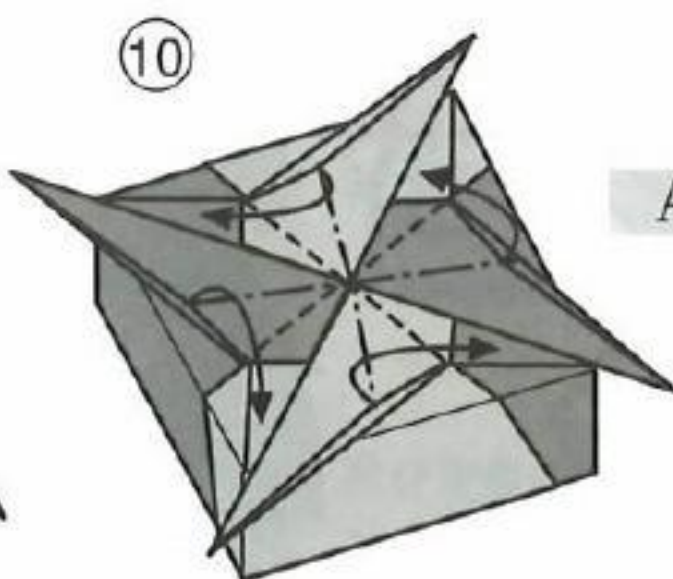


<内側を真上から見た図>

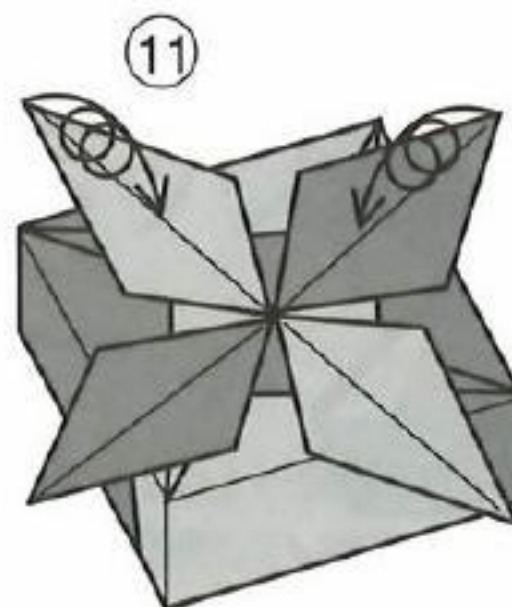




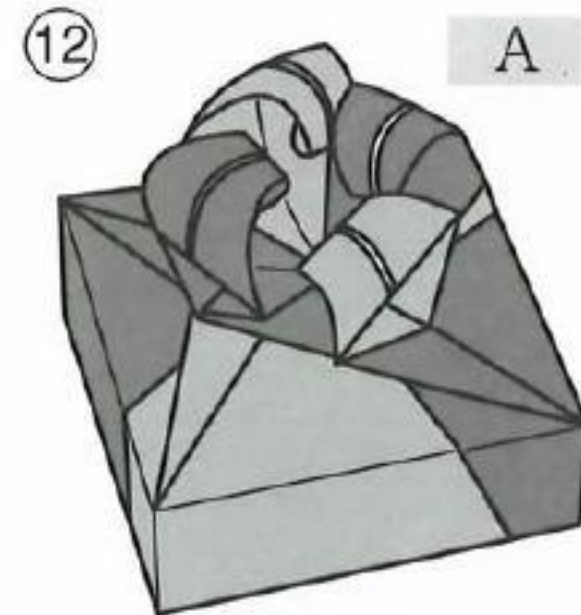
⑨
ついている線で20の状態に折り戻す



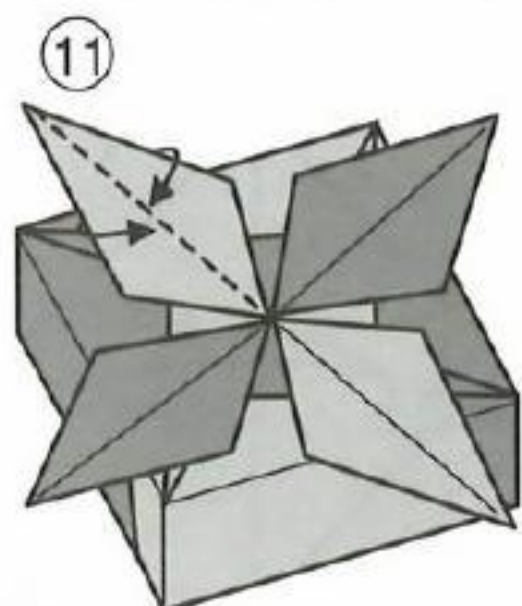
⑩
4つの先を開く



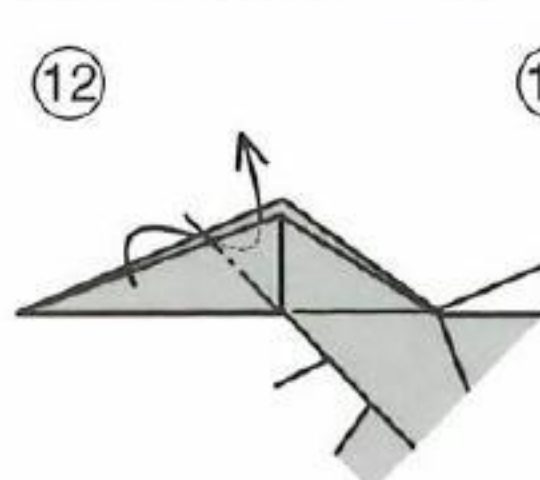
⑪
先をカールし形を整える



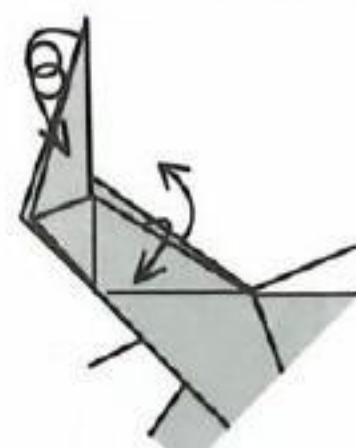
A



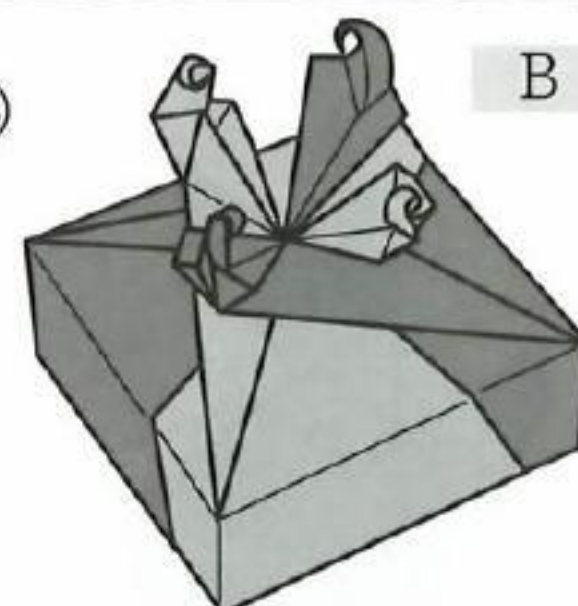
B



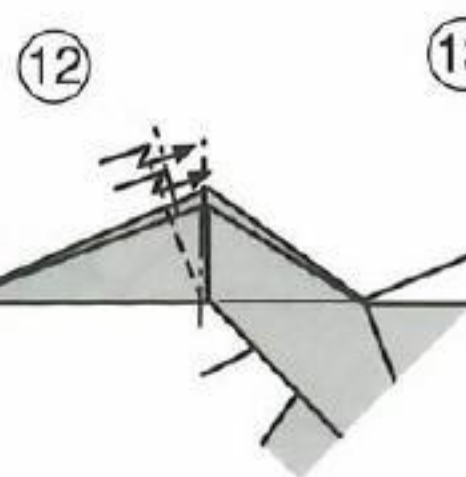
⑫
中割り折り



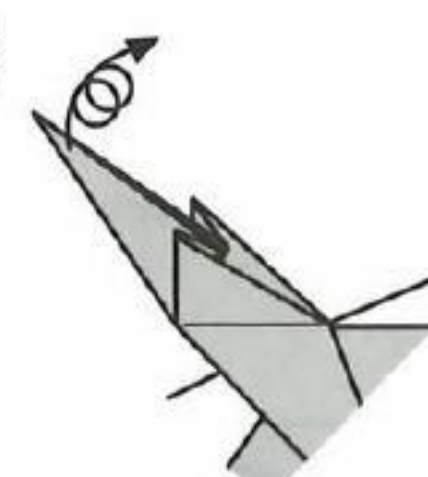
⑬
先をカールしたら両脇を軽く開く



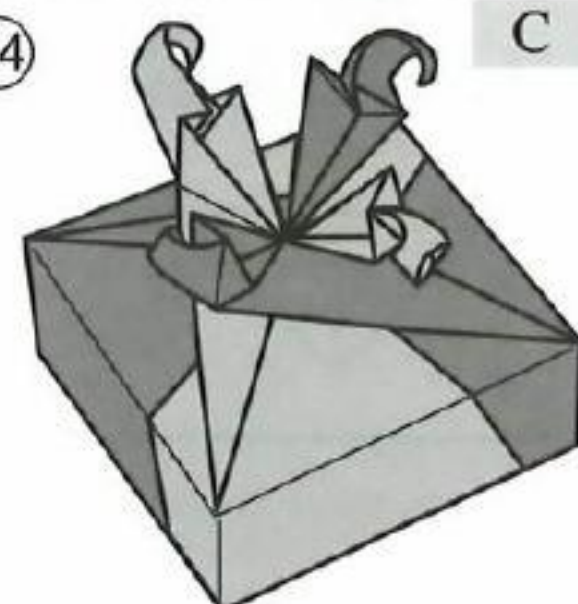
B



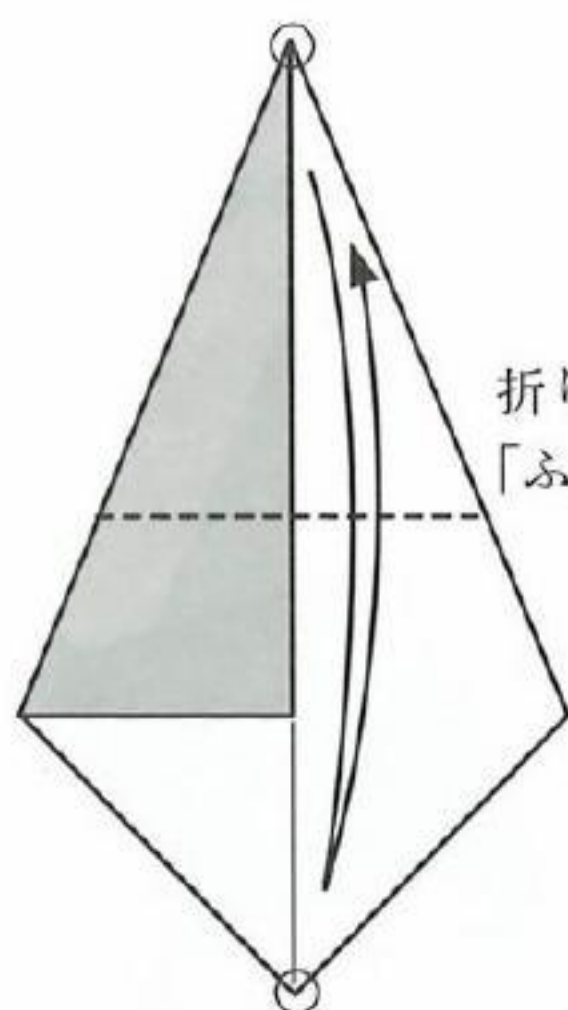
⑫
内側に押し込む



⑬
先をカールする

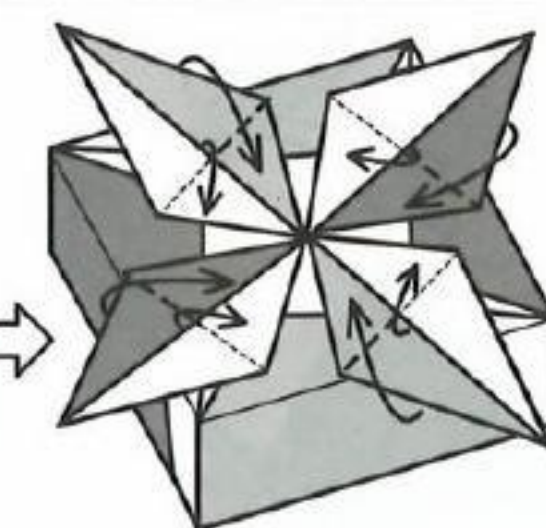
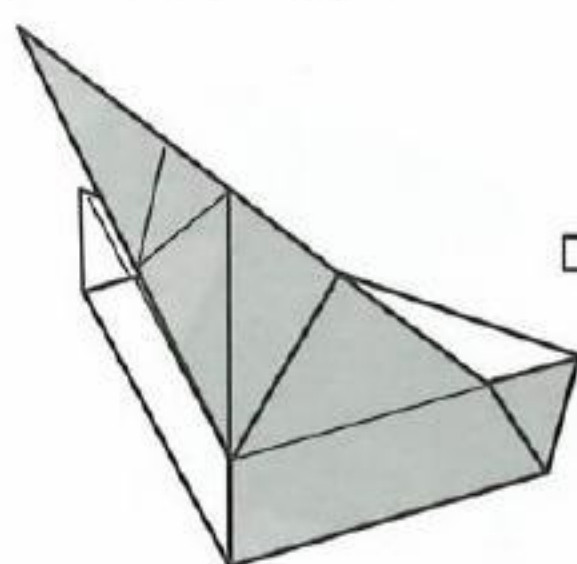


C

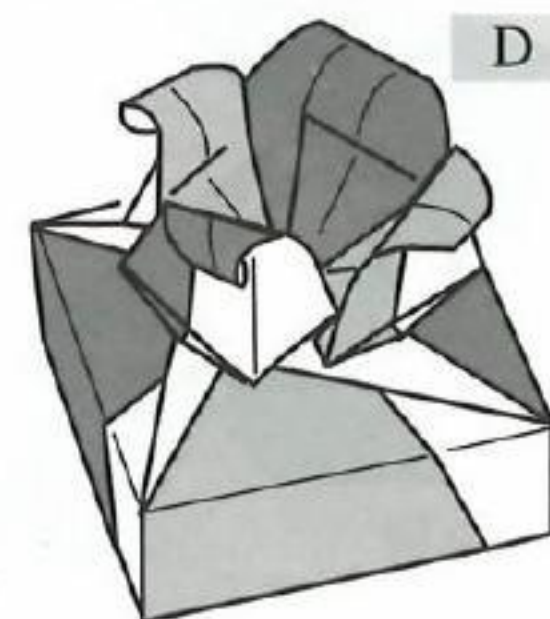


D: 色変わり

折り方も組み方も「ふた」の4からと同じ



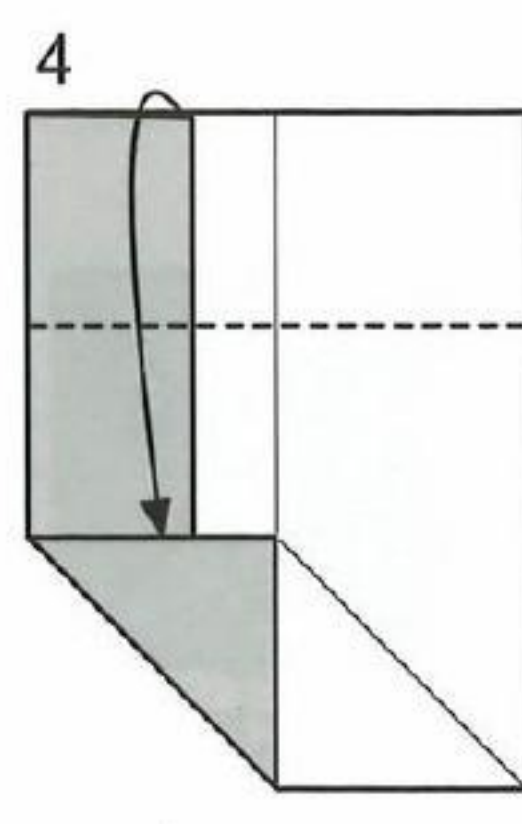
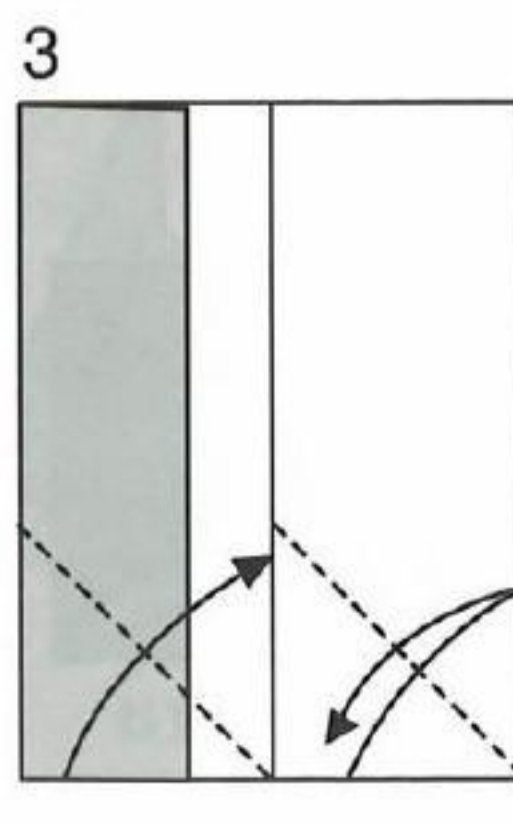
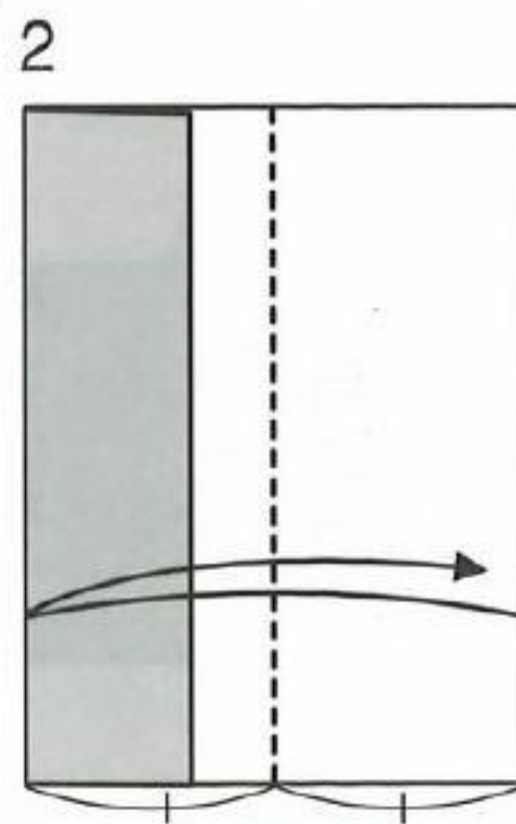
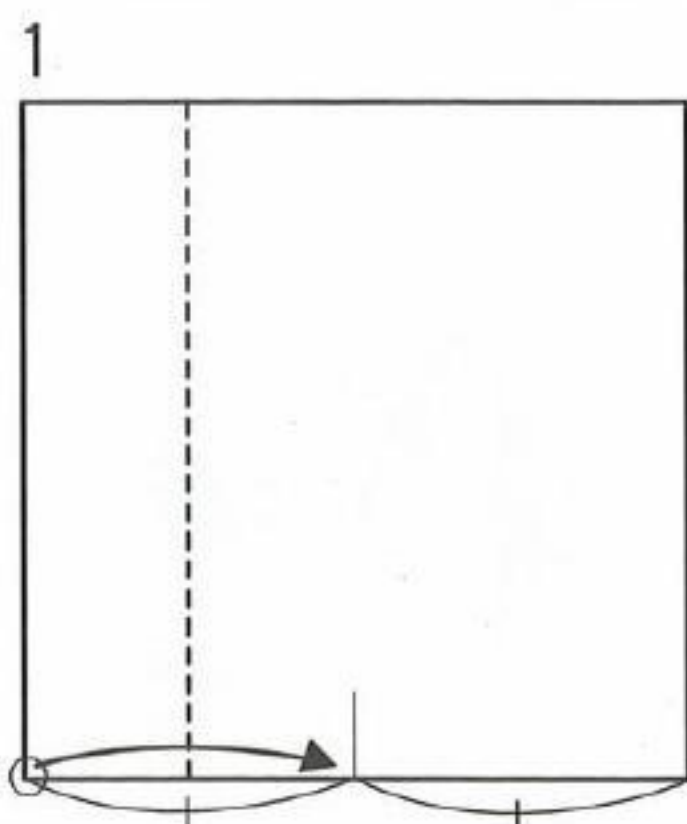
内側を開き先をカールする

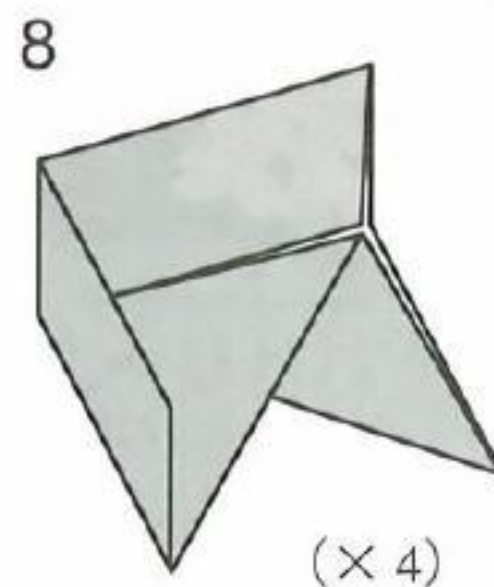
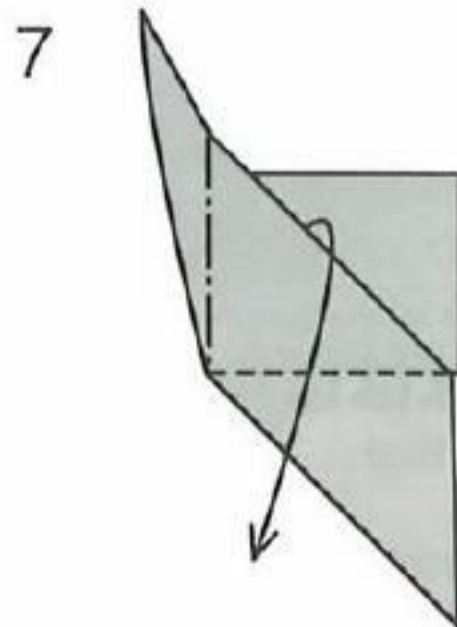
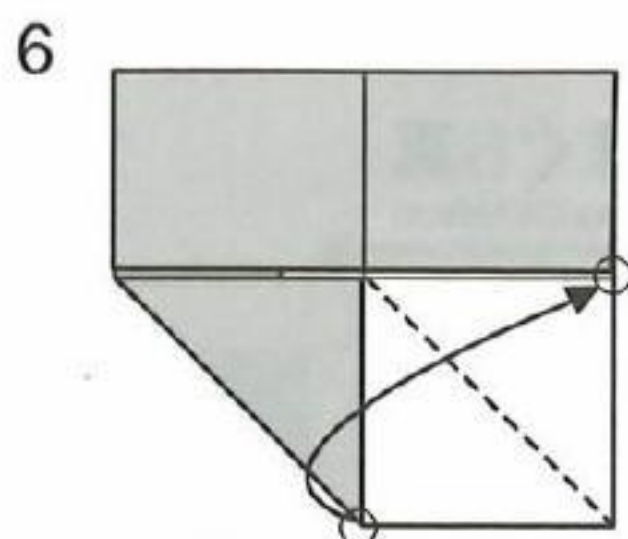
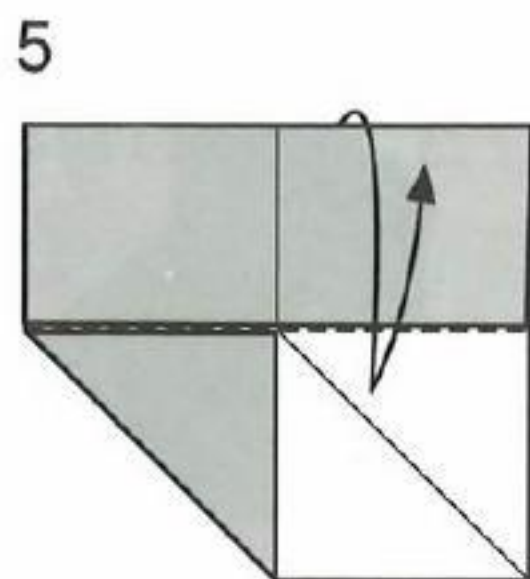


D

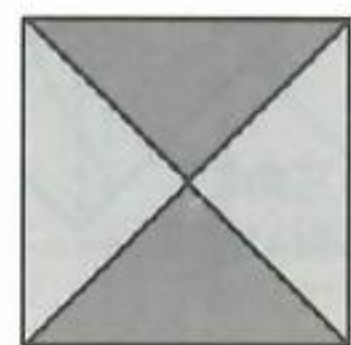
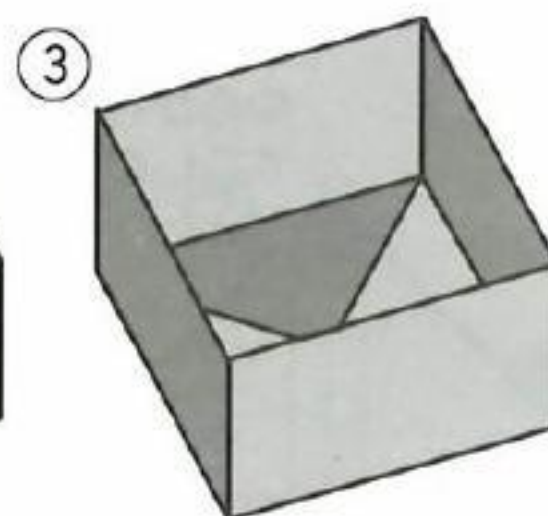
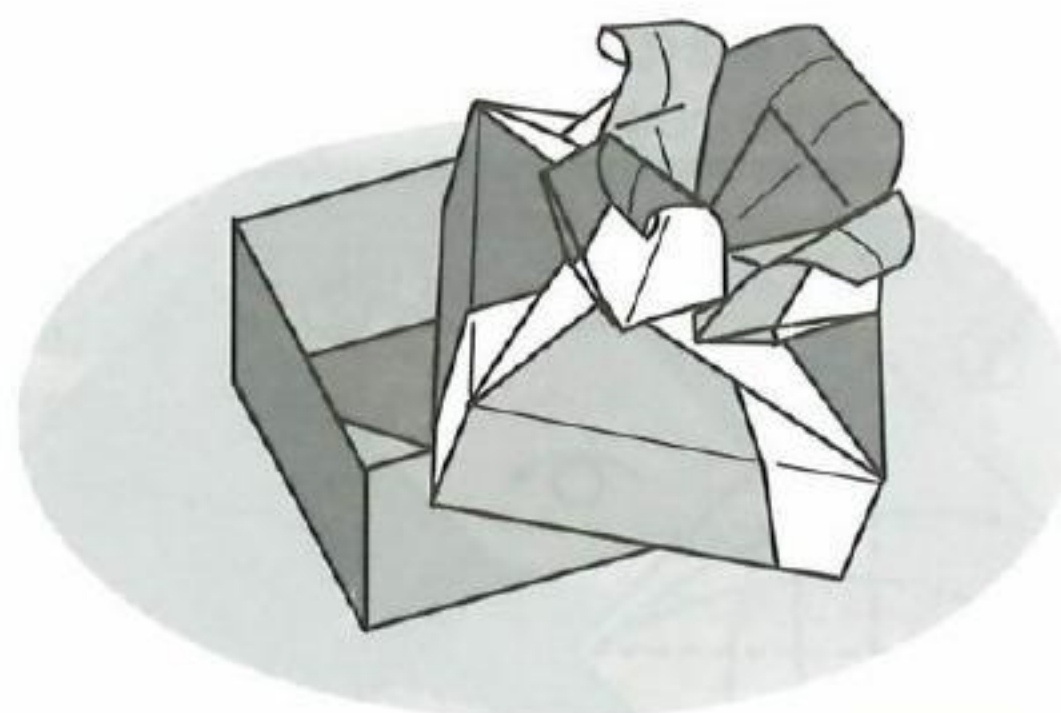
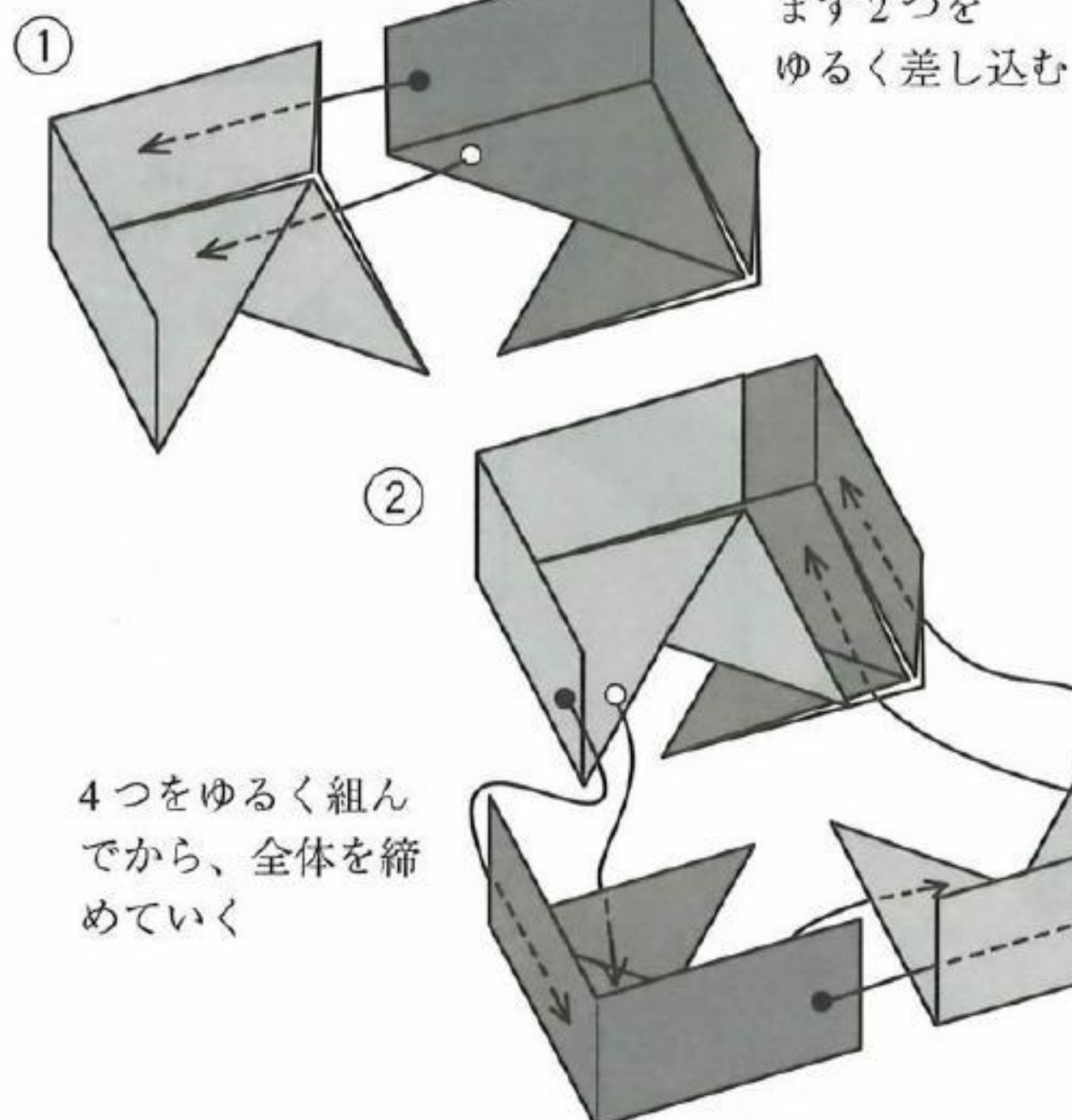
本体

1の折りの部分は切り落としても良いが、このままの方がふたとの重さのバランスがとれる





[組み方]



底の外側

折り紙の
周辺

第23回
もったいない
MOTTAINAI

Origami and
Its Neighbors

布施知子 Fuse Tomoko

新しい折り方を考える。折り図に起こす。紙を選んで折る。作品が出来上がるまでの流れの中で、個人的にどこが一番楽しいかと言え、最後の紙を選んで折る所。新しい折り方を考えるのは楽しいというより夢中という方があたっている。

この一文がみなさんの目に触れる頃にはすでに放映済みだと思うが、NHK教育テレビ『美の壺』という番組の「江

戸千代紙」特集で、いせ辰の紙を使って作品製作の依頼があった。出演料はないが材料は提供、思いきって下さいとの事。いせ辰の千代紙は好きで何度も使っているが、それならと普段なら買っても折る気にならない一枚5000円くらい(千代紙のサイズはB4より少し大きい)の紙で箱をいくつか折った。値段もさることながら、手刷りの版画。「これで折るのですか?」このあとに続くもったいないという言葉を読み込んで、お店の人は言った。「色が流れるかもしれないので、当て紙をして下さいね」

大きさや模様の出方など試作を重ねて、いよいよ本番の紙を手にする。色ごとに何度もバレンを経たせいか、紙は強靱な柔らかさとも言おうか。張りも合わせ持っている。色の厚みもあり、多少ざらつく表面の感触を味わいながら気持ちよく

折った。指の正月。華やかに輝く千代紙は折り紙の箱にぴったり。

値の張る紙で折るとき、もったいないという気持ちが働く。もったいないと思いながら折る緊張感。贅沢感。仕上がりに対する期待感。これぞ折り紙の醍醐味のひとつ。

いつか使おう。でも今はもったいない。ととってある紙。どんどん使おうと思った。死蔵される紙の方がもったいない。

35年以上前に河合豊彰先生からいただいた紙が数枚ある。今その紙には茶色のぼつぼつが出て、本番には使えそうもない。糊のカビだろうか。保存が悪かったのだろうか、残念だ。

また春がめぐってきた。ときどき目を上げて季節を呼吸しながら、心身やわらかく紙に向っていこう。

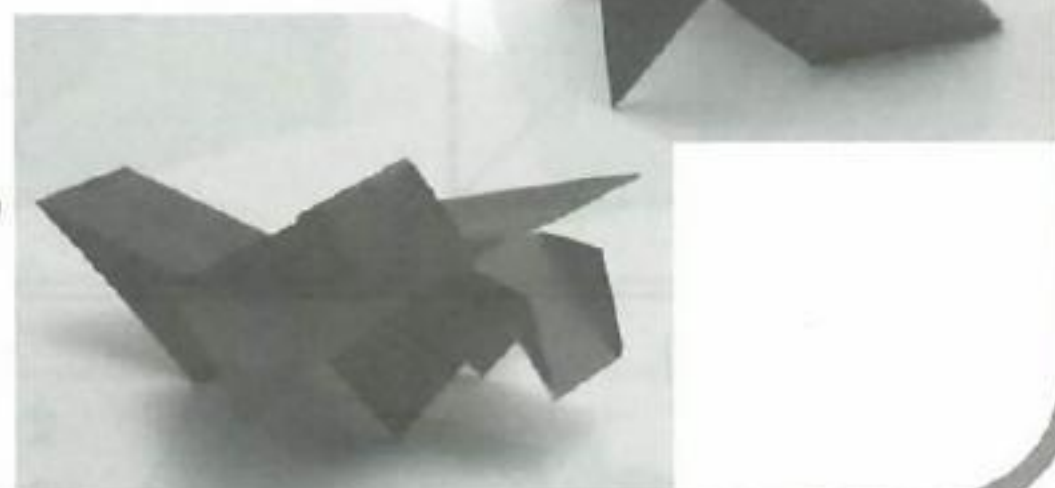
第24回 ハバリータ・はばはばたととり

Bigajarita, Flapping "Big" Bird

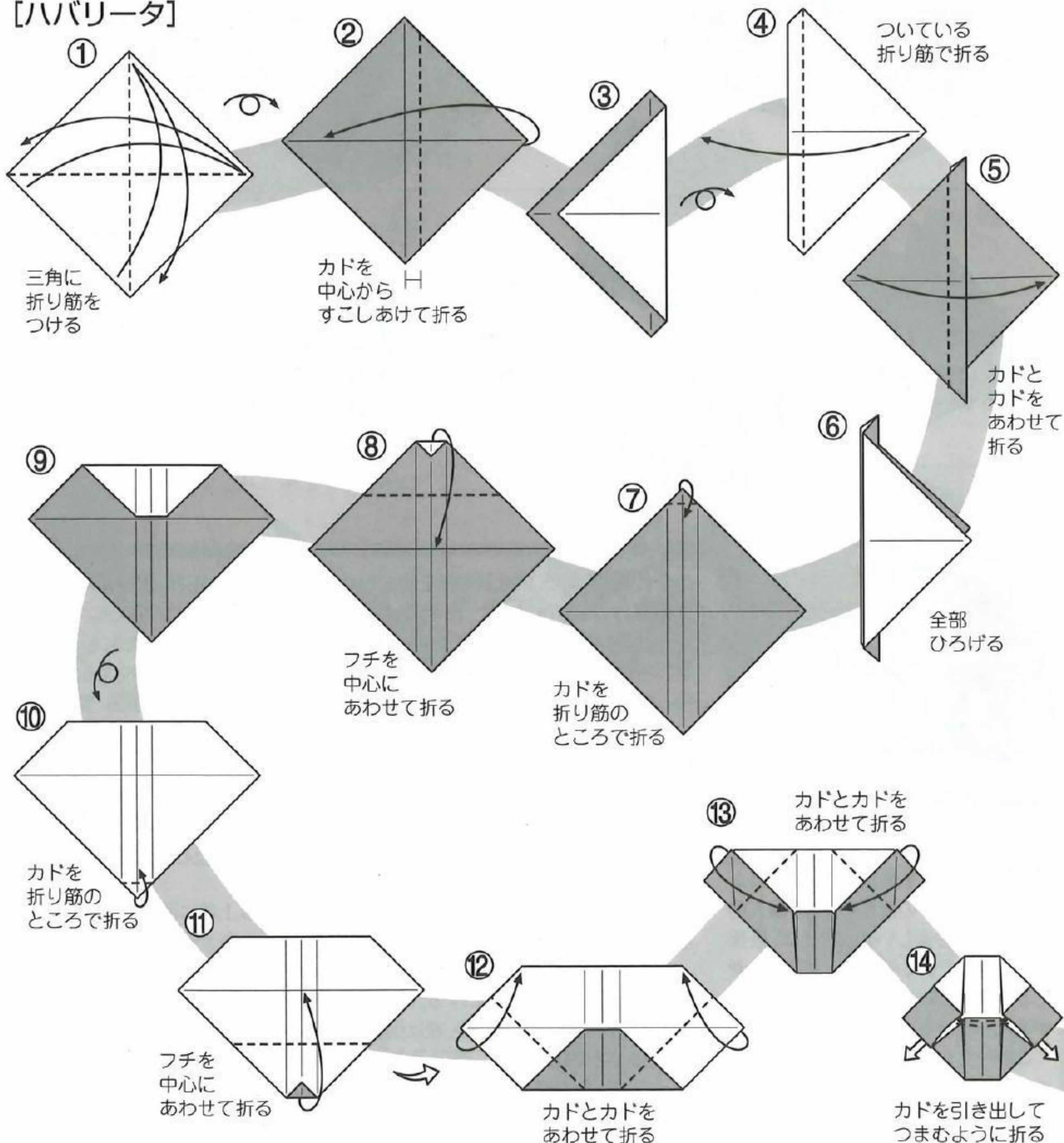
アレンジ: 田中将司、小松英夫

Arranged and Remodeled by Tanaka Masashi, Komatsu Hideo

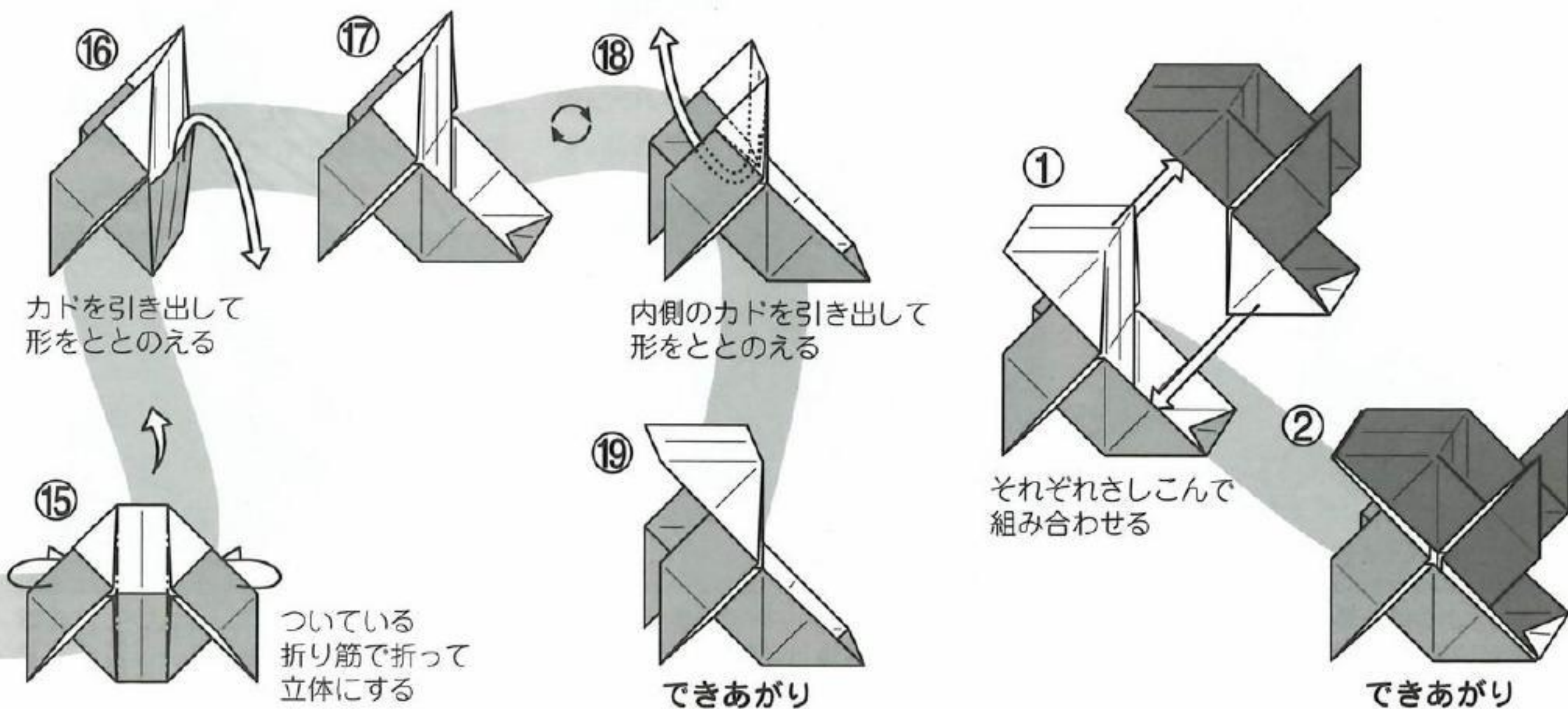
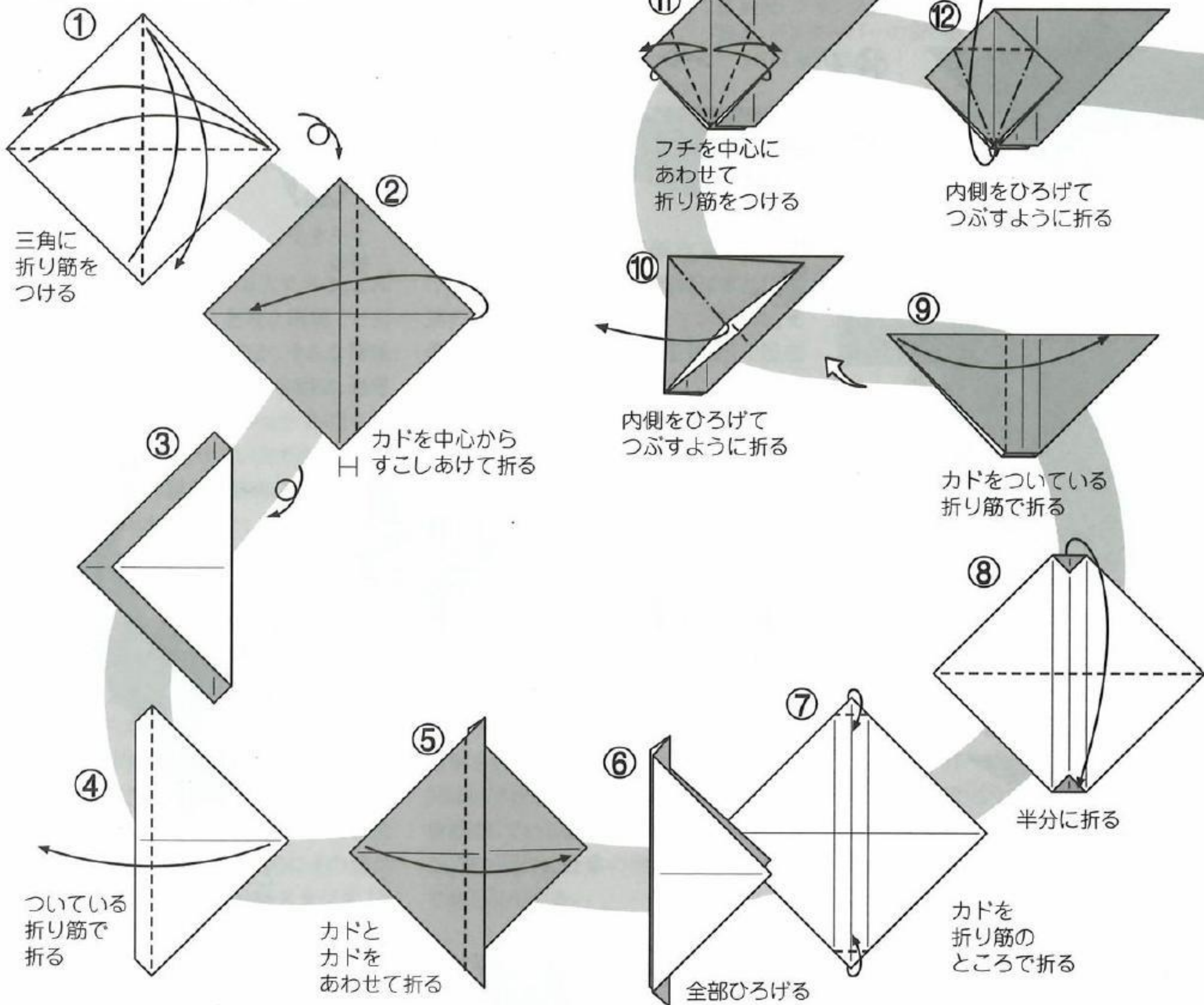
第8回折紙探偵団関西コンベンションにて、田中将司氏のアイデアで「ハバリータ」ならぬ「ハバリタ」が出現。この「ハバ折り」に乗ったのが小松英夫氏をはじめ若手組や新世代の面々。つぎからつぎに生まれるハバ折り伝承作品、その中から少しだけ紹介しよう。

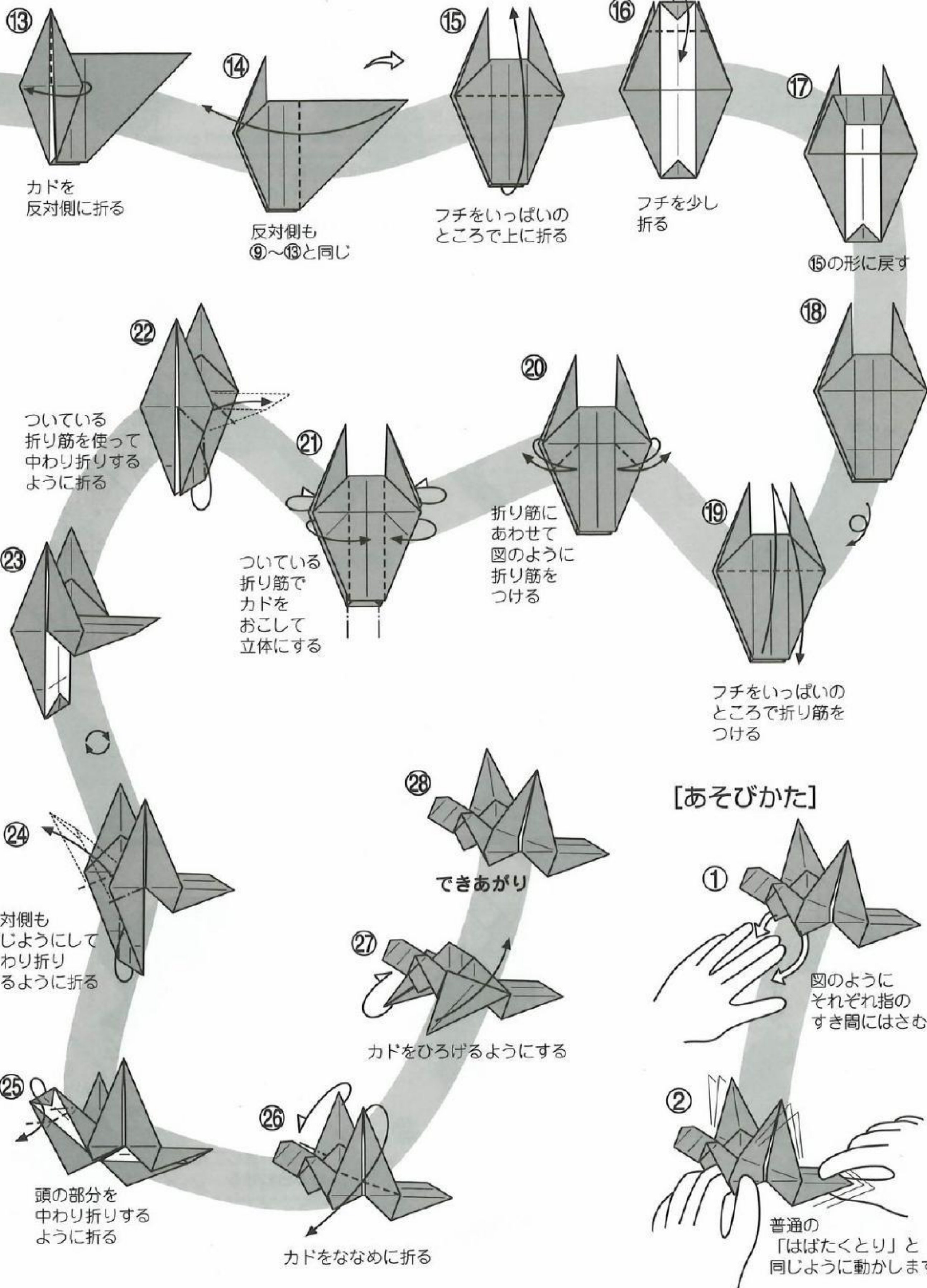


[ハバリータ]



【はばはばたくり】





折紙作家の創作現場

—ジョセフ・ウー氏の場合—

A Workroom of an Origami Designer: Joseph Wu

報告：松浦英子 Reporter: Matsuura Eiko

Joseph Wu (ジョセフ・ウー) = 1970年香港生まれ。1979年にカナダに帰化。英語をメインに、広東語、フランス語、日本語を操る。バンクーバーの折り紙クラブPALM代表。



■はじめに

折り紙の創作をしている人たちは、どんなものを見て何を考え、どんな環境でどんなものを作り出しているのか。そんな興味を抱く人も少なくないだろう。今回は、世界で活躍する折り紙作家、ジョセフ・ウー氏のスタジオを見学させていただくことができた。スタジオの様子と同時に、その創作スタイルについても紹介したい。



バンクーバーの国道から1ブロック奥に入った住宅街にウー氏の家はあった。おしゃれな落ち着いた色彩の、庭付き一戸建て。庭とガレージから直接入ることができる半地下スペースが、ウー夫妻の仕事場だ。庭側のドアから入ると、グラフィックデザイナーである夫人のナンシーさんの机とパソコンがあり、その右奥に上階の住居スペースに上がる階段。さらにその奥がジョセフ・ウー氏の「折り紙スタジオ」となっていた。

トイレを挟んで右側が4畳半くらいの部屋で、パソコンデスク、紙棚、折り紙の資料がびっしり入った本棚が置かれている。左側は6畳ほどの広さで、大きな液晶スクリーンの前にはソファとローテーブル。壁面には、箱に入れられた折り紙作品の試作が、ジャンル別に分けて積み上げられていた。(写真1~3)



写真1. デスクトップにノートパソコン、カメラ。スケジュール管理用にPDAも使用。右側の引き出しは紙入れ。種類別に収納している

ウー氏がプロの折り紙作家としてデビューしたのは1996年。当時はまだIT関連の会社に勤めるサラリーマンだった。その後徐々に折り紙の仕事を増やし、現在は折り紙の仕事だけで生活している。彼の主な仕事は広告。広告のビジュアルとして彼の折り紙作品が使われている。その他にもウィンドウディスプレイの制作や折り紙イベントのコーディネーター、本の執筆など、折り紙に関するあらゆるジャンルを手がけている。

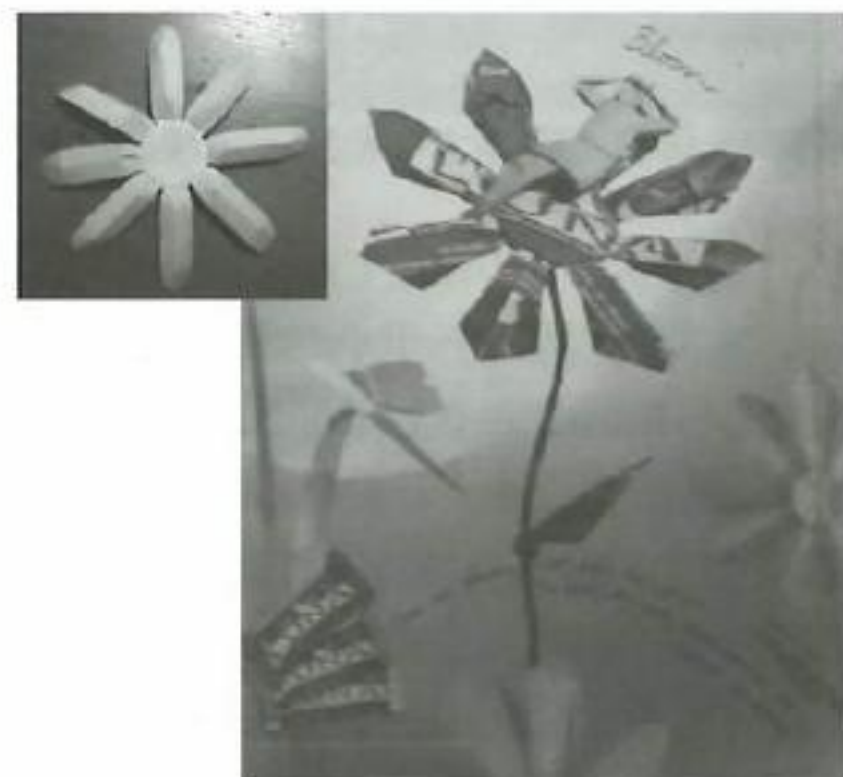
ウー氏には、2歳になる愛息マイケル君がいる。彼の様子が地下にいてもわかるように、ベッドのそばにはベビー・モニターが、ウー夫妻の作業場にはスピーカーが設置されている。ナンシー夫人は平日昼間は外で仕事をしているので、その間彼の世話をしているのは主にウー氏なのだそう。彼が受けた仕事の殆どは、この家の中で進行している。

一仕事の依頼はどのようにして受けているのでしょうか？一

私の広告の仕事を見たりウェブサイトを見たりした依頼主が、メールや電話で連絡をします。そこで依頼内容や期限について相談し、仕事に取りかかります。私の場合、広告の仕事をする人たちの多くがそうであるように、クライアントと



写真2. 左側のスペース。ソファとローテーブルと超大型液晶テレビがある。折り筋付けをしながらスポーツ中継を観戦することも



▲雑誌に掲載されたお菓子の広告と、花の初期段階の試作品

の連絡は殆どメールや電話だけで、直接会うことはあまりありません。依頼を受け、試作を作り、写真を撮ってそのデータをメールで送ります。担当者に見てもらって電話やメールで打ち合わせをし、修正の必要があればもう一度試作をしてまた相談します。OKが出たら完成品を作って依頼主に発送します。たまに写真撮影に立ち会うこともありますが、滅多にありません。ですから、私はクライアントの顔を殆ど知りません(笑)。

一依頼を受けて、その都度作品を作っているんですか？一

そうです。他の作家の創作スタイルを良く知っているわけではありませんが、



写真3. 液晶テレビの横に積まれているプラスチックケースは試作箱。普通の段ボールに入ったものもある

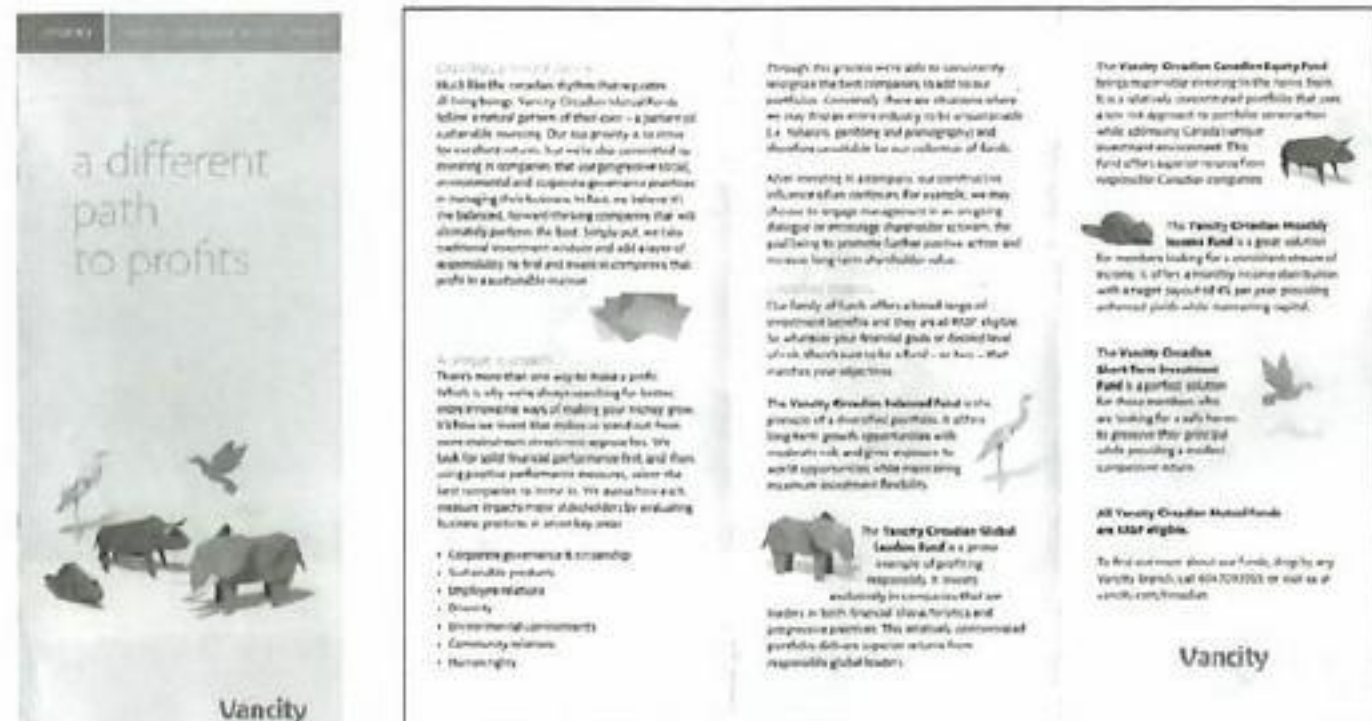
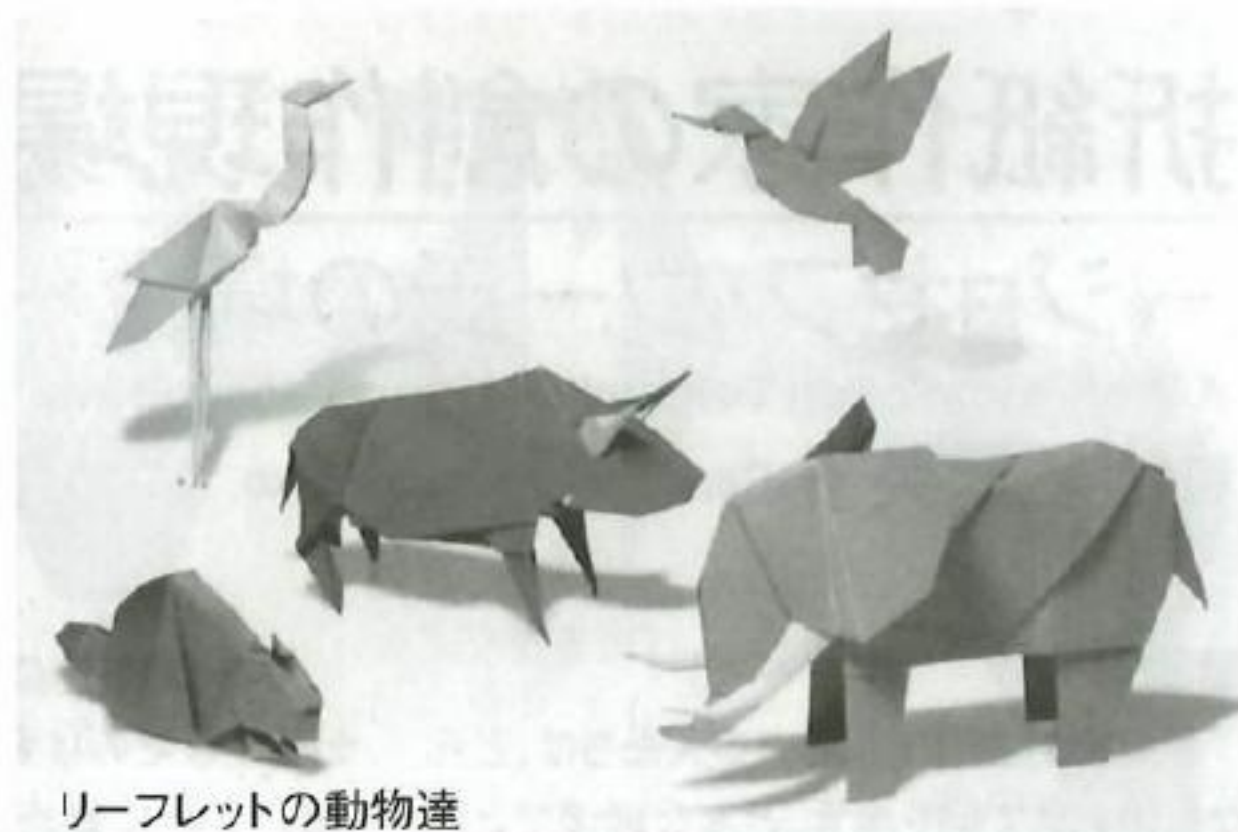


写真4. 6日で完成させたという5種類の動物達が使われたリーフレット



リーフレットの動物達

私の創作スタイルはとてもユニークだと思います。作品のデザインは「1分」で完成してしまいます。といっても、そのデザインは私の頭の中だけにしかないのです、依頼主に分かるように実際に折らなければなりません。そのために多くの時間を費やします。しかしそれも、最初の試作で90%は仕上がります。残り10%を作る為にもう少し時間が必要となりますが。

思い浮かんだデザインを実現するためには、実際に紙を折って指が動くのに任せます。設計理論を意識して使うことはありません。コンピュータで展開図を先に完成させるような方法は、私にとっては遠回りな作業です。例えるなら自転車を後ろ向きに漕ぐような感覚ですね。

一折ったことや見たことのないものを依頼されたらどうしていますか？

よく知らない動物をリクエストされたら、ネットで検索したり図鑑を見たりして

情報を集めます。時には実物を見て観察することもあります。しっかり理解できたらデザインに着手します。そこからの時間はやはり1分です。

私の頭の中では常に2人の「私」が存在します。私が何か作業している間も、意識せずに何かを考えている自分がもう1人いるように思うのです。テーマに向き合っている時だけが考えている時間ではないんです。ですから、デザインが浮かばなかったことは殆どありません。

一ウーさんは、複合作品を多く作っていますね。一

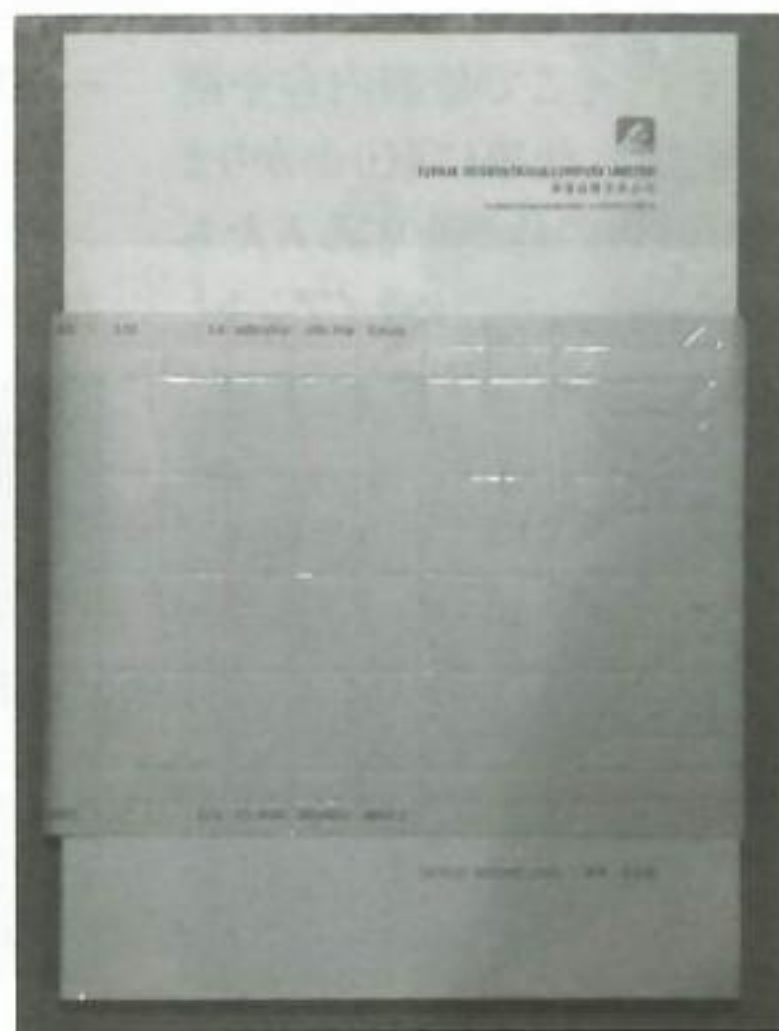
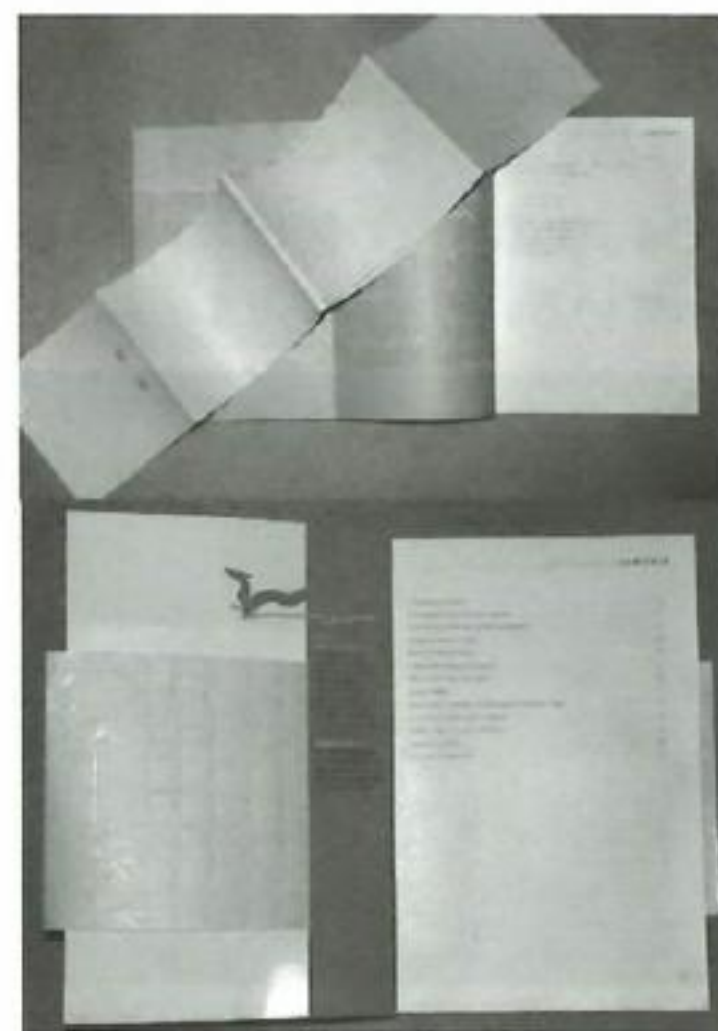
私のところへ来る依頼主は「折り紙らしい造形」を必要とします。折り紙を良く知っている訳ではないので、それが1枚かどうかは気にしません。それどころか例え1枚でリアルに作っても、折り紙らしくなければOKをもらえません。広告の仕事は納期がとても短いので、私のデザイ

ンを短時間に完成させ、依頼主を満足させる為に、複合は有効な手段です。後々、1枚で折る方法を考える場合もあります。また複合にするなら、基本的には「組み合わせて」仕上がるように作っています。依頼主に送る完成作品は、壊れないようにのり付けしますけどね。

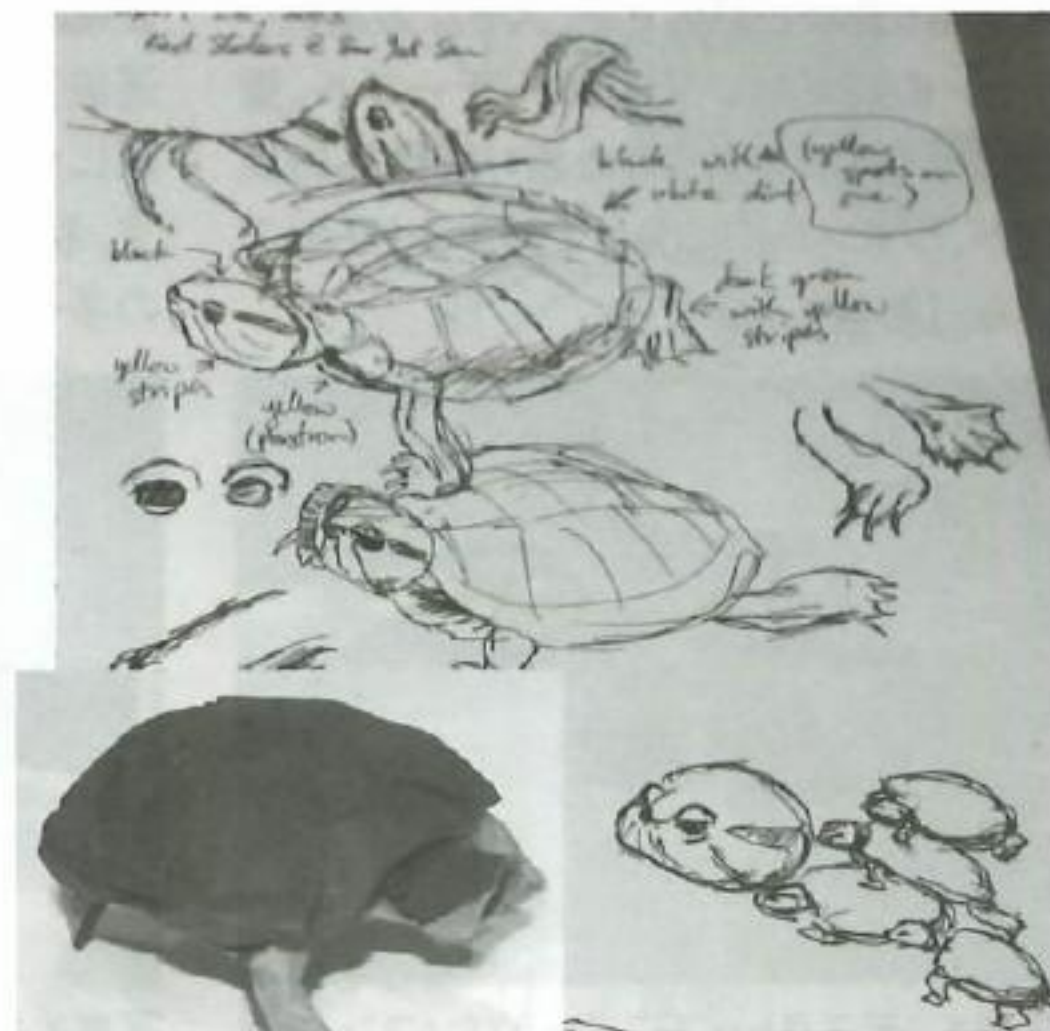
一このリーフレット(写真4)の仕事はどのように進められたのですか？

この依頼を受けたとき、私は他に2つの仕事を抱えていました。いつも複数の仕事を同時進行でこなしますが、その中でもこれは特に納期が短く、5種類の動物を6日間で完成させました。一番最後に受けた仕事を、一番最初に仕上げたんです。

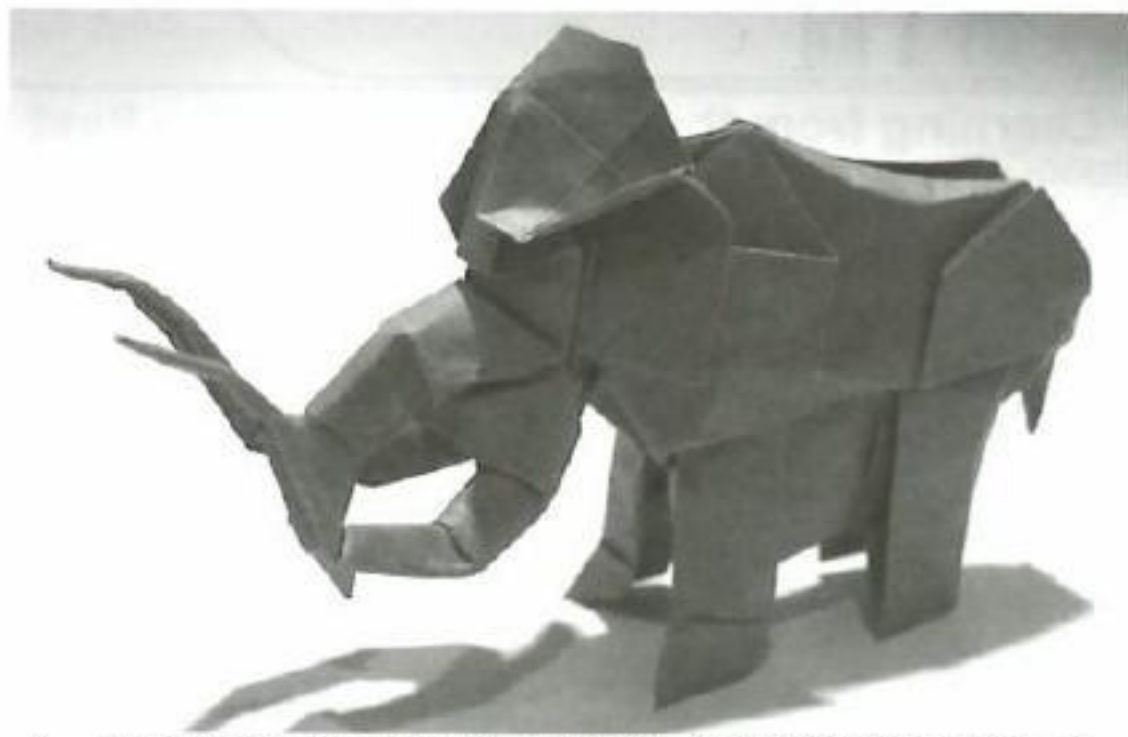
動物の種類は依頼主の指定で、ビーバーはデザインしたことがありませんでした。ですから、形を考える前にリサーチを必要としました。またゾウはシンプルな



▲紙メーカーのパンフレット。帯にドラゴンの展開図が型押しされていて、折り紙になるという豪華品。折り図はパンフレットの見返しに掲載されている



▲カメのスケッチとその観察によって生まれた作品



▲一枚折りのマンモス。仕上げてみたら神谷哲史氏のマンモスと展開図がほぼ同じことに気付いてがっかりしたとか



▲大人の色気漂うハイヒール



▲ハート型ボックス。実用作品もお手のもの

がらも「ゾウらしさ」が求められるので一番苦労しました。試行錯誤の末、これは4枚の複合にして仕上げました。しかし、この仕事は依頼主が最初から明確なイメージを持っていたので、比較的やりやすい仕事だったと言えます。相手の持つ作品イメージと私の作る形をどう近づけるかの作業だけだったので、少しの修正だけで最終モデルを作ることができました。もし依頼主がイメージを決めかねていたら、この期間では終わらせられなかったでしょう。

一仕事の創作と自分自身の為の創作に違いはありますか？

殆ど一緒です。仕事の場合はテーマをもらう、自主制作は自分でテーマを決める。それだけの違いです。仕事では自分では思いつかないような課題をもらうことがあります。それが自分の創作の幅を広げてくれる場合もあります。ユニット

作品などは、自分では作ろうと思いませんが、依頼があれば作ります。

一方で自分の為の制作は、締め切りが無いので放置することができ、その間に同じテーマで良い作品を他の人に作られてしまったり、アイデアそのものが具現化されないまま消えていくこともあります。例えばジョエル・クーパー氏の平織りによるマスク、私も同じことを考えて随分前にいくつか作品を作っていました。しかしアイデアが完成しないまま時間が過ぎ、その間に彼が良いデザインを作ってしまった。そういうこともあります。

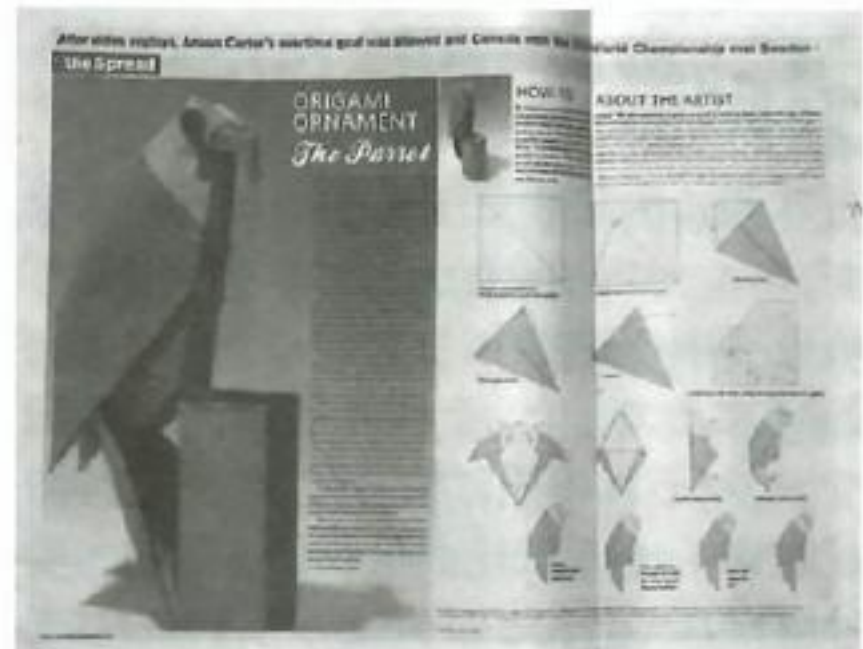
しかし仕事も自主制作も、楽しんで取り組んでいます。依頼主が原因で仕事が嫌になることはあっても、折り紙が原因で仕事が嫌になることはありません。かつて私が折り紙を仕事として始めたとき、山口真さんは「好きなことを仕事にすると大変だよ」と言いました。でも私は、今も両方を楽しんでいます。

■取材を終えて

まずは、このコーナーで2回分書けるくらいの、充実した取材をさせていただいたジョセフ・ウー氏に感謝したい。

見せていただいた試作の数々は興味深く、氏の創作の幅広さと折り紙に対する愛情は、計り知れないものがあった。

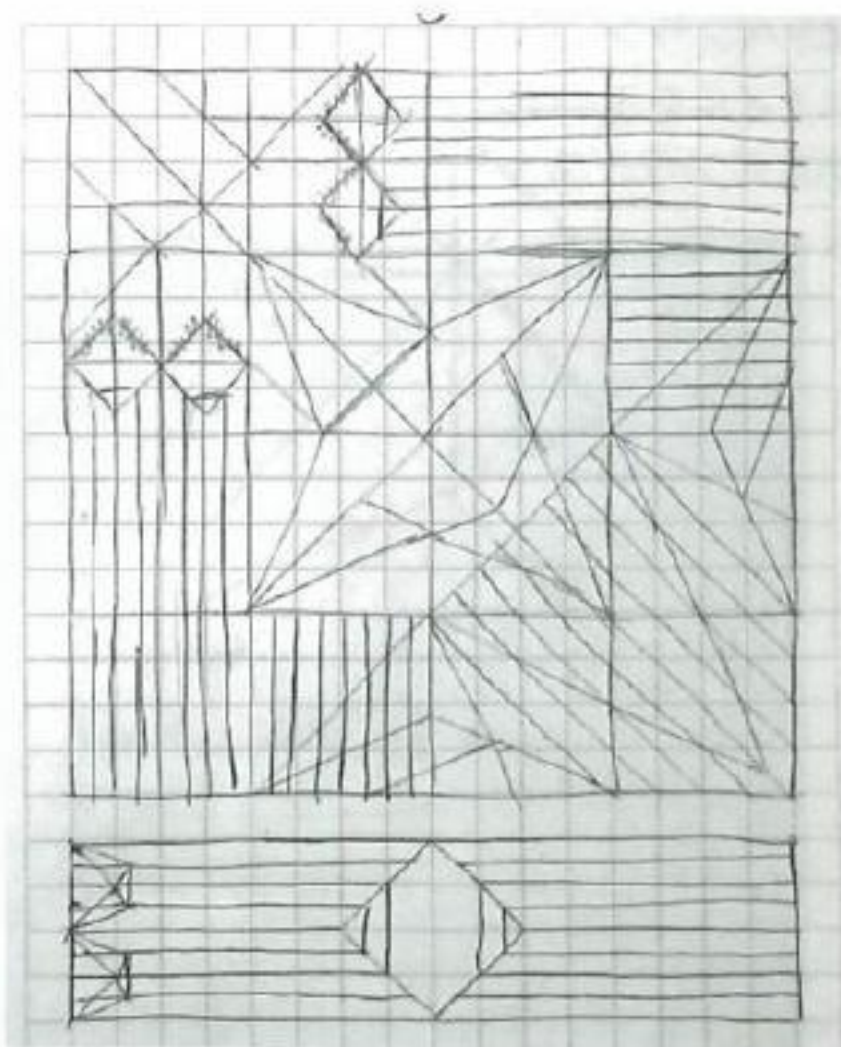
吉澤章氏のような、心を表現した作品を生み出すのが目標とのこと。ここに掲載しきれなかった話や作品は、また是非どこかで紹介させてもらいたいと思う。



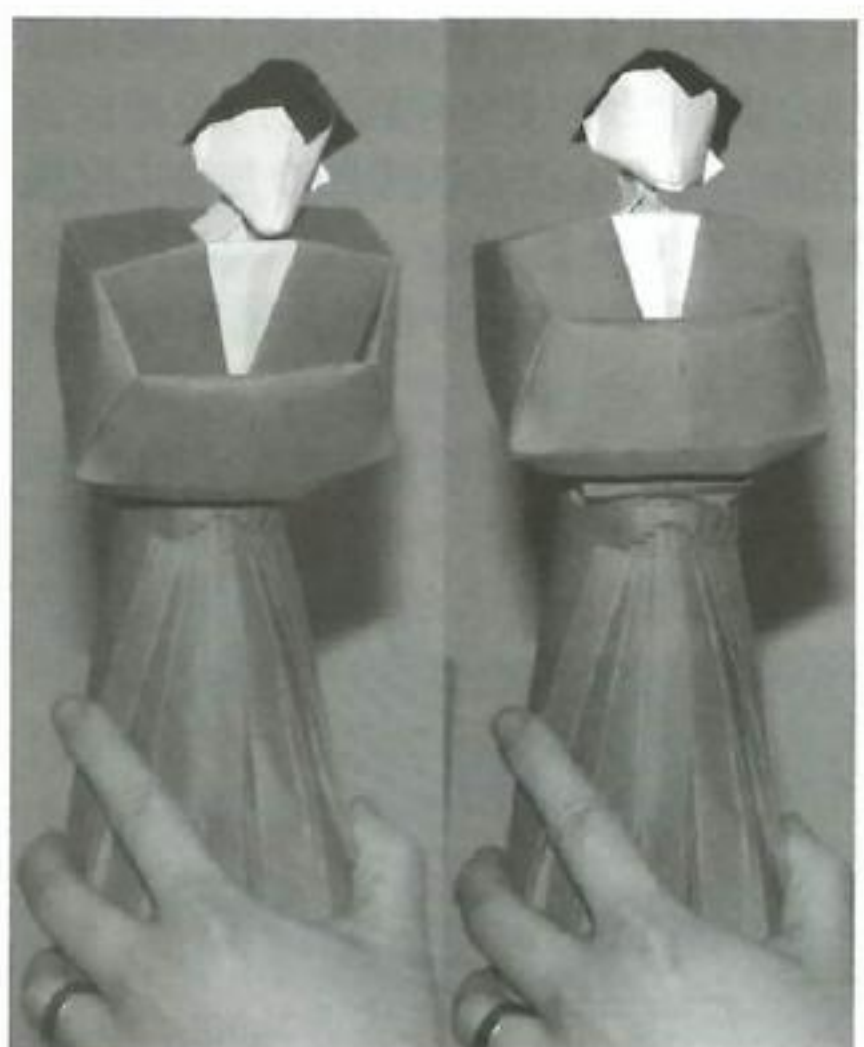
▲数は少ないが、作品の折り図を描くことも。ソフトはやはりFreeHandが一番とのこと



▲前川淳氏の「悪魔」の作品写真を見せられて「これを(広告に)使いたい」と依頼されて作った作品。雰囲気似せつつも、完全なオリジナルに仕上がっている。複合作品



▲P.20にカラー写真掲載の「フェニックス」の展開図。下の長方形が足の部分



▲おじぎをする中国人風のパペット。複合作品。ウー氏に作れないものはない?!

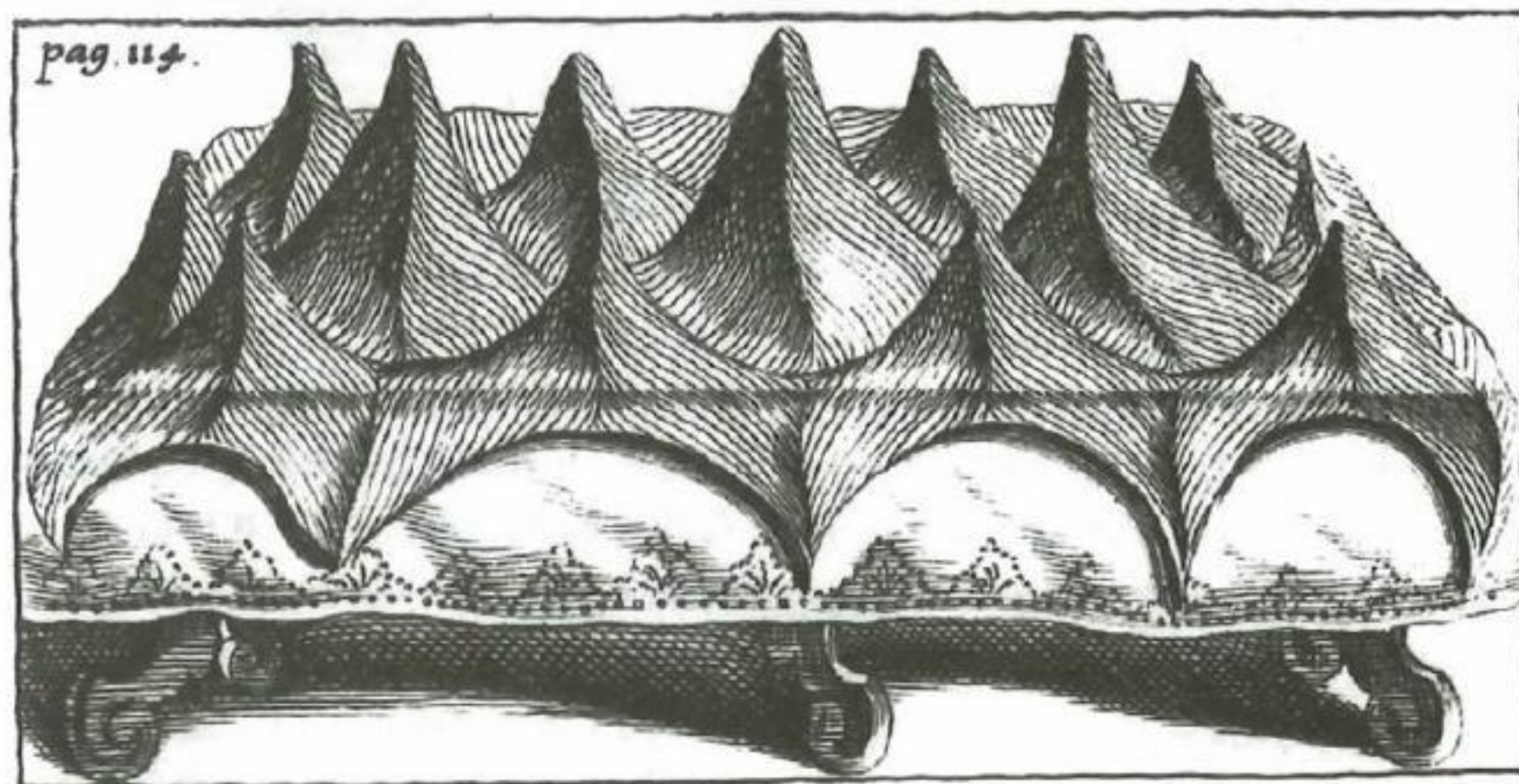
過去の折り紙に学ぶ 第1回

Learning from the Paperfolding of the Past

ジョアン・サラス
Joan Sallas

訳: アニャ・ドレウス、羽鳥公士郎
Translator: Anja Drews, Hatori Koshiro

ドイツとその周辺 Germany and its Neighbors



▲16世紀か17世紀にフロデュール風の折り技法があった?

折り紙の起源が日本だけにあるという誤解が生まれたのは、1950年代、日本語に由来する「origami」という言葉が、ニューヨークを始点として、英語をはじめ世界中のさまざまな言語に導入された時のことでした。それ以前は、多くの国で、それぞれの国に独自の伝統的な折り紙があり、その伝統が世代から世代へ受け継がれていたということが広く知られていました。

実際、特にヨーロッパの多くの国に、日本に劣らず長く豊かな折り紙の伝統が存在します。それぞれの国で折りの技法が独自に発達し、また国際的な知識の交換も行われていました。

西洋では、少なくとも16世紀までに、素

材は必ずしも紙とは限りませんが、折りの技法が芸術の1つとして認められるようになっていました。そのような芸術家を作る作品には、高価な値段がつけられるものもありました。17世紀の記録には、布で折られた何メートルもの長さの蛇(習作は紙で折られていました)などが見られます。

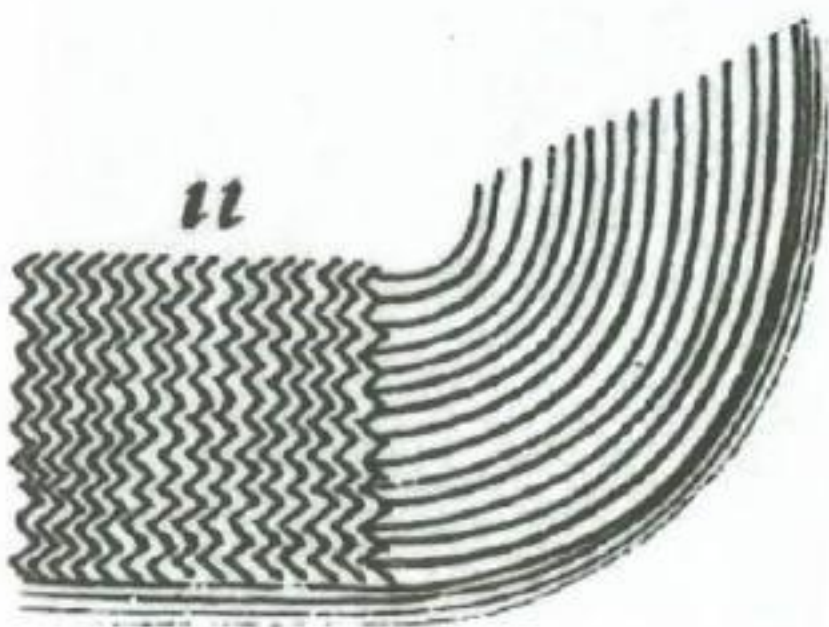
そのほかにも、1677年にドイツ・ニュルンベルクで出版されたアンドレアス・クレット著『Neues Trenchier- und Plicatur-Buechlein(新しい切りと折りの小冊子)』には、バンサン・フロデュールの「揉み紙」スタイルを思い起こさせるような技法や、トキ・エンの曲線折りによく似た折りが見つ

かります。

当時、このように布や紙で折られた作品は、何か具体的なものの形を表すというのではなく、見る人を熟考させるような象徴的意味を担っている抽象作品が多くありました。18世紀初頭には、オランダの折り紙作品を集めた展覧会がパリで開催されたという記録もあります。

西洋の工芸の分野でも、折り紙が使われているのを見ることができます。たとえば、15世紀終わりのフィレンツェ周辺で制作されていた服では、動きやすい形を保つために、布の裏地として紙を折ったものを使っていました。この技法は、少なくとも17世紀中ごろまで続いていました。レオナルド・ダ・ビンチが1500年頃に描いた有名な『モナリザ』の服のしわも、折り紙で裏打ちされているのかもしれません。

折りの向きを「山折り」や「谷折り」という言葉で表現するのも、17世紀の記録に見られます。また、今日のように山折りを一点鎖線(二点鎖線)で、谷折りを破線で表す方法は、吉澤章が使っていたものが1950年代以降世界中に広がったものですが、1920年代の西洋のペーパークラフトの説明図にも、それと同じ山折りと谷折りの記号が使われています。図に示したものは、1933年にオランダで出版された厚紙細工の本からとったものです。



▲1677年のドイツにトキ・エン風の曲線折りがあった?



▲1500年頃のフィレンツェで「蛇腹」が折られていた?

○Joan Sallas(ジョアン・サラス)=スペイン・カタロニア生まれ、現在はドイツ・フライブルク在住。ドイツの折り紙の史料を収集・研究し、2004年にはパドレ図書館内にSociety of Documentation and Research of Origamiを設立した。知られざる折り紙関連の史料を数多く発掘している。



西洋の折り紙は、芸術や工芸の分野だけでなく、教育の分野で特に独自の発展をみせています。折り紙の伝統は一般に世代から世代へ受け継がれていたのですが、それとは別に、17世紀のイタリアやドイツで、高等教育の中で折り紙が教えられたことがありました。大学や私的な折り紙教室で、人々は折りの「科学」を学ぶことができました。

子供向けの折り紙教育については、19世紀に始まるフレーベル式折り紙がよく知られていますが、それ以前にも、ドイツの学校教育で折り紙が使われることがありました。アウグスト・ヘルマン・フランケが作った1705年の学校のカリキュラムに、折り紙が含まれていることが記録に残っています。

皆さんもご存知の通り、その頃の日本はおよそ200年にわたって、世界のほかの国から経済的・政治的に切り離されていました。それでも、西洋と日本との交流がまったくなかったわけではありません。たとえば、18世紀には、日本の紙漉きについての本がドイツ語で出版されています。また、フランスのデザイナーが、インドで印刷された紙を使った女性向けのサマードレスを制作し販売しましたが、その紙はもともと日本や中国で作られたものでした。

ドイツ語圏の国々では、折り紙の伝統が、主に折り方を記述するという形で広がってゆきました。秩序と正確さを重んじるとい

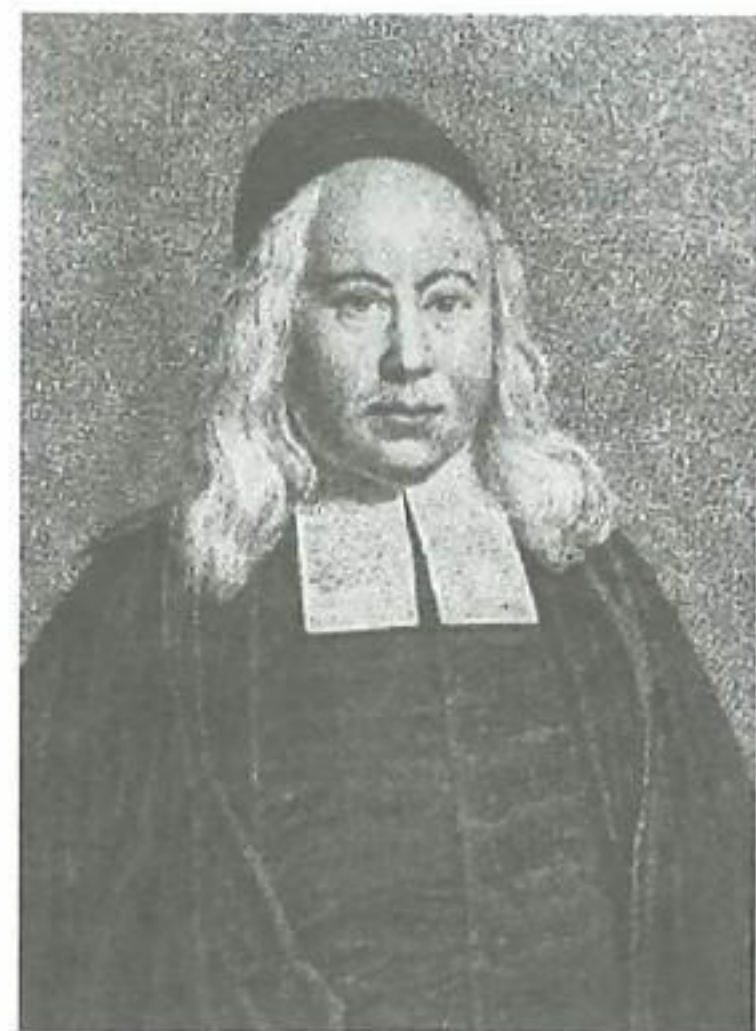
う、ドイツ人を特徴づける気質を考えれば、それも驚くには当たらないでしょう。折り紙の遺産が史料としてこれほど多く残っている国は、西洋ではドイツだけです。

ドイツの折り紙の伝統は、ほかの国からの影響を受けてますます豊かになり、技法の発達や折り紙の普及が促進されました。同様に、ドイツからの移民やドイツと周辺諸国との交流によって、ドイツの折り紙の伝統が他国に伝わり、同様の効果を生みました。知識の交換は活発に行われていました。

2つの折り紙の伝統、つまり西洋の折り紙と東洋の折り紙との相互の影響関係を詳しく調べてみると、両者がお互いに完全に独立して発展したという考えには異議を唱えざるをえません。

折り紙の過去の発展を知ることなしには、折り紙の現在の状況を十分に理解することはできません。伝承作品を折ることを娯楽として楽しむ人もいでしょうし、伝承作品を単に物珍しいものと見なす人もいでしょうが、過去の折り紙を知ることには重要な意義があるのです。折り紙の技術や表現が今日のような洗練されたレベルに到達できているのも、過去の折り紙が基となってはじめて可能になったという事実を忘れてはなりません。

折り紙におけるさまざまな問題に直面したのは、私たちが最初ではありません。過

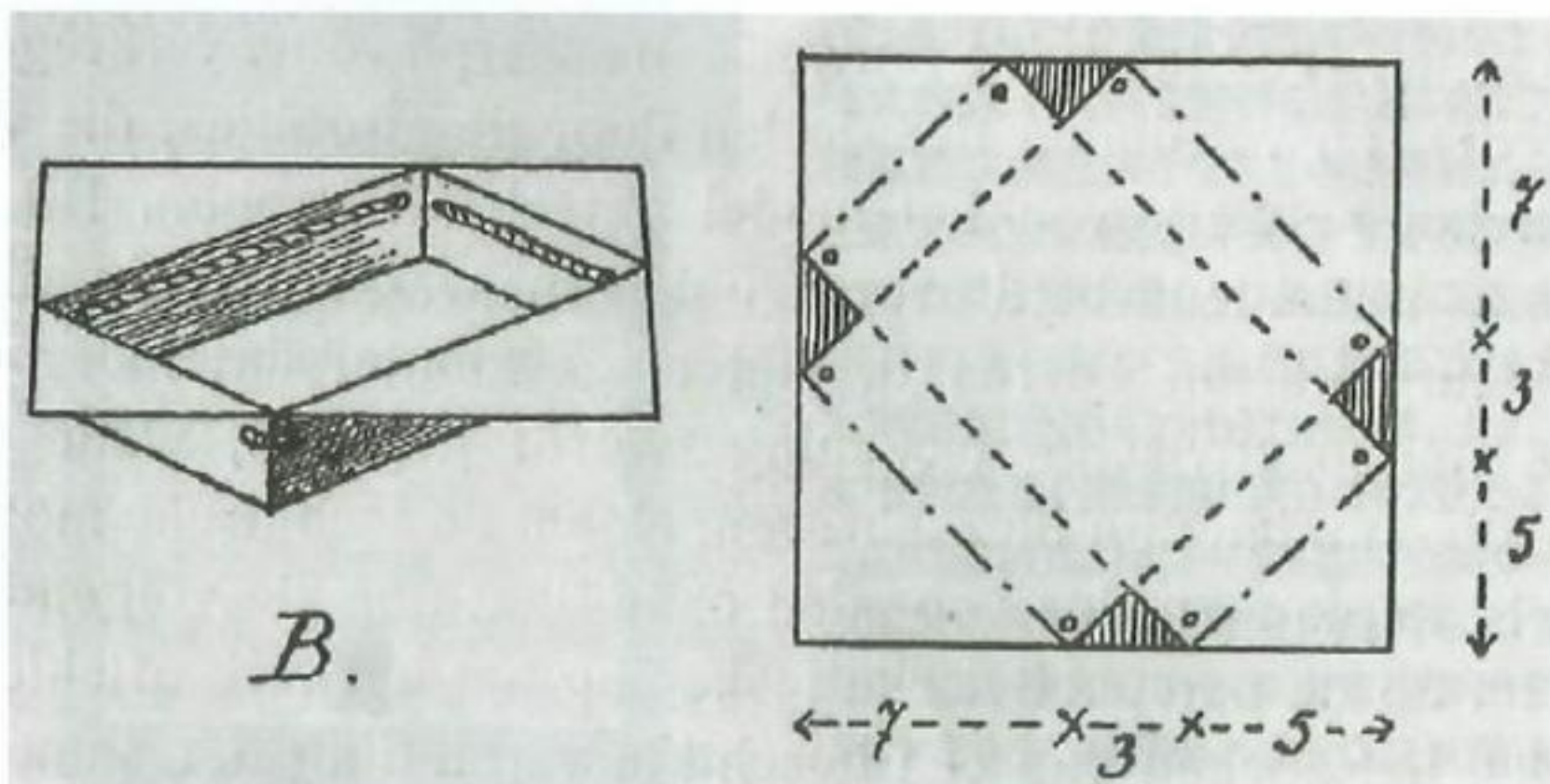


▲アウグスト・ヘルマン・フランケ: 1705年ドイツの学校にフレーベル流の折り紙?

去の人たちも、そのような問題を解こうとして頭を悩ませ、自然を観察することで、問題を解決したり新しい方向性を得たりしていました。今日の折り紙における「発見」の多くが、実際は何世紀も前から存在していたことの「再発見」であり、私たちが考えているほど新しくはないということを知るのはよいことです。

過去から学ぶためには、まず第一に、折り紙の歴史が記された古い記録を徹底的に調査することが絶対に必要です。そのような記録は、図書館や博物館、公文書館、個人のコレクションなど、さまざまなところで見つけることができます。

さらに、折り紙の歴史の調査に時間を割き、研究の成果を的確に伝える人物が、これまで以上に必要です。将来的に、そのような人がもっと増えることを期待します。折り紙愛好家、折り紙講師、プロのアーティスト、編集者、科学者、折り紙団体の会員やあらゆる種類の熱意を持った人々が、折り紙を折り、創作し、教え、研究し、広めるだけでなく、折り紙の文化を受け継ぎ、次の世代のために保存することを望みます。そうすれば、社会にとっても利益となるに違いありません。



▲1933年オランダの厚紙細工に吉澤システムの山折りと谷折り?

折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

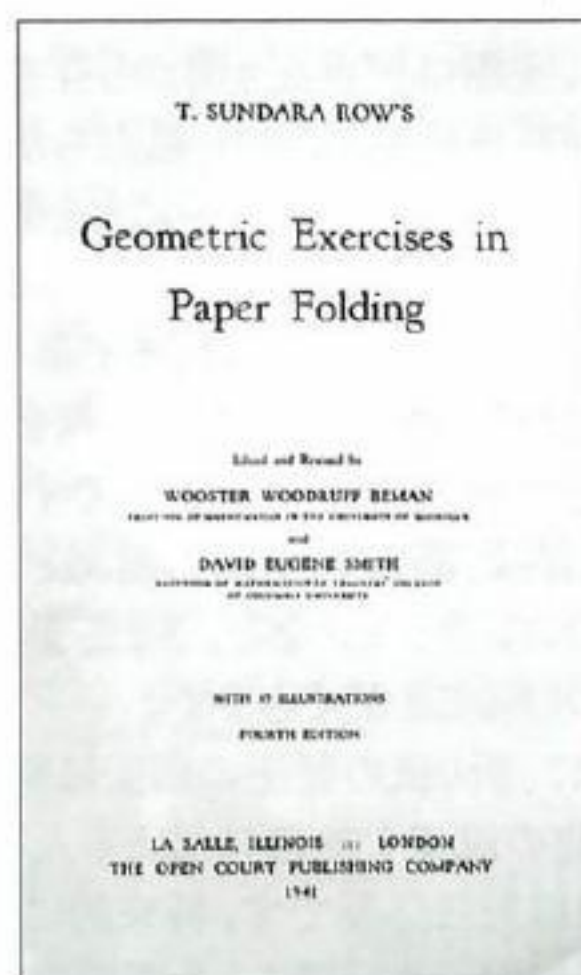
羽鳥公士郎 Hatori Koshiro

1冊目『折り紙による幾何学演習』

Geometric Exercises in Paper Folding

➤ の連載では、折紙学会図書館に所蔵されている資料の中から、興味深いものを選んでご紹介いたします。折紙図書館の蔵書は、折紙探偵団ホームページから検索できます。検索ページへのリンクや、図書館の利用方法などについては、<http://www.origami.gr.jp/Libra/>にアクセスしてください。

最初に紹介するのは、タンダラム・スンダラ＝ラオ著『Geometric Exercises in Paper Folding (折り紙による幾何学演習)』という本です(この本にはT. Sundara Rowと記載されていますが、Tandaram Sundara Raoが正しいようです)。折紙学会図書館に所蔵されているのは、ミシガン大学教授ウースター・ウッドラフ・ビーマンとコロンビア大学教授デビッド・ユージーン・スミスによって編集・改訂され、1941年にアメリカのThe Open Court Publishing Companyから出版された第4版を、さらにKessinger Publishingが再版したものです。



▲The Open Court Publishing第4版の表紙

ビーマンとスミスによる改訂版の初版は1901年に出版されていますが、スンダラ＝ラオによる前書きの末尾には「Madras, India, 1893」とあり、オリジナル版が書かれたのが1893年であることが分かります。同じ年にイギリスのAddison & co.から出版されたという記録があります。編集者の前書

きによれば、改訂版におけるオリジナル版からの変更点は限定的で、証明をわずかに修正したこと、脚注を加えたこと、線画を写真に置き換えたことです。

今から100年以上前に折り紙の幾何学の本が書かれたという事実には、驚かれるかもしれません。私の知る限り、当時の日本にはまったく例がありませんが、実は欧米では、幼稚園向けの教科書で折り紙の幾何学が取り上げられることは、珍しくありませんでした。幼稚園の「恩物」に折り紙が含まれていることはよく知られている通りで、日本の幼稚園では折り紙を使って幾何学を教えることはあまりなかったようなのですが、欧米の幼稚園では折り紙を使って基本的な幾何学を教えていました。

スンダラ＝ラオも、前書きに、「幼稚園恩物第8-折り紙」に示唆を得てこの本を着想したと書いています。しかし、この本は、当時の幼稚園で教えられていた内容にとどまらず、「小学校から大学までの」幾何学を扱っており、しかも学校の授業で教科書として使われることを意識して書かれています。また、パズル的な問題なども取りあげられており、数学に興味を持つ一般の人が読んでも楽しめます。その意味で画期的な本であり、その後半世紀にわたって版を重ねたことから見ても、他に類を見ない本だといえるでしょう。

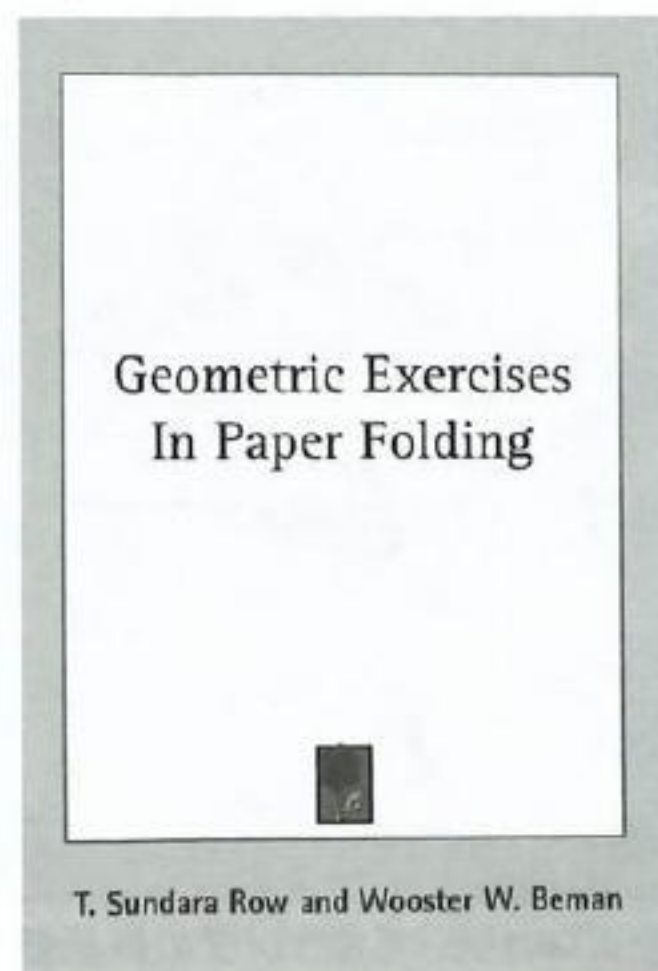
しかし、取りあげられている作図を詳しく見ると、必ずしも折り紙を使う必然性があるものばかりではないことに気付きます。ここでは、折り紙は定規とコンパスの代用の域を出ていません。折り紙を使うことで作図が簡単になるものも確かにありますが、定規とコンパスで作図したほうがかえって

簡単なものもあります。

紙を折って円を描くことはできませんが、円やさまざまな曲線の上の点を折り紙で作図することは可能であることが指摘されています。しかし、定規とコンパスだけではできない作図が折り紙で可能であることは、この本が書かれたときにはまだ知られていませんでした。そのため、ここでの折り紙は、すでに知られているさまざまな幾何学上の問題や定理を紹介するための手段として使われています。

ところで、スンダラ＝ラオは前書きの中で、折り紙用紙についても少し触れています。そこには「この恩物は、200色ものさまざまな色の正方形の紙と、折るための道具、折り方の説明図からなる。紙は片面に艶のある色がつけられている」とあり、そのような恩物が「任意の学校用具業者から購入できる」と述べているので、1893年のインドのマドラス(現チェンナイ)で折り紙用紙が入手可能であったことが分かります。

内容を順に紹介すると、まずI章からIX章までは正多角形の作図が主に扱われます。ただ作図をするだけでなく、いろいろな線分の長さや面積を求めています。これは、学校の授業で使われることを想定しているためでしょう。



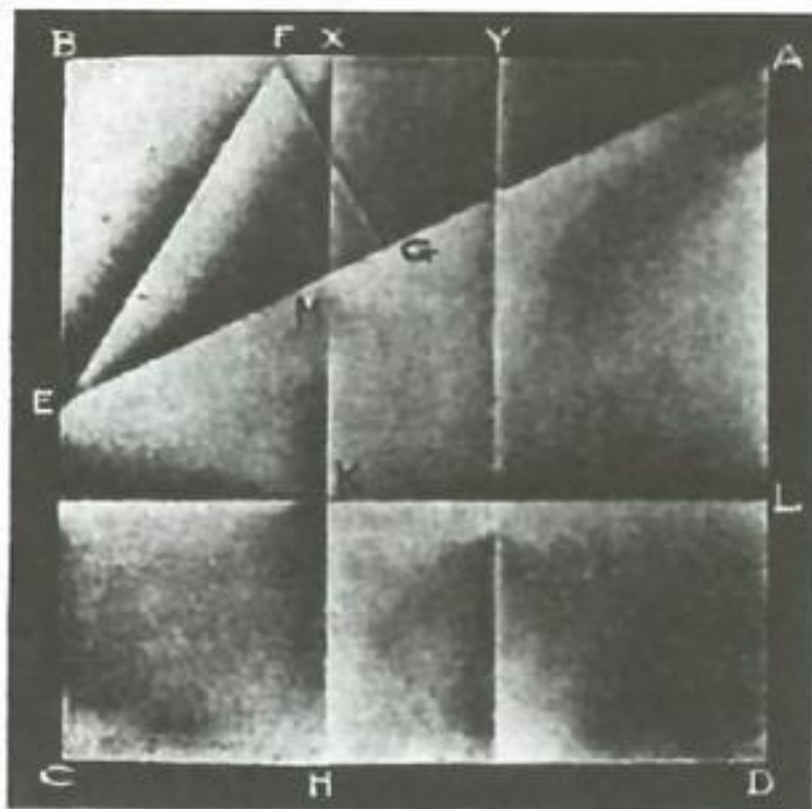
▼Kessinger Publishing版の表紙

○羽鳥公士郎(はとり・こうしろう)＝
日本折紙学会評議員・図書館担
当。主に図書の管理・検索システム
を構築している。本職はウェブディ
ベロッパ／翻訳家。



I章は正方形の作図から始まります。その後、正方形を16の直角二等辺三角形に分割したり、座布団折りをすると面積が半分になることを示したりするところまでは、幼稚園向けの教科書でも一般的でしたが、座布団折りを繰り返すことで、 $1/2 + 1/4 + 1/8 + \dots$ が1であることを説明しています。

続くII章では正三角形を作図し、角の二等分線が内心で交わることを示します。これは、紙を折って自然にできる形を利用しているといえます。III章では、前半でピタゴラスの定理を証明していますが、こちらは、紙の上に鉛筆で線を引く代わりに折り目をつけただけのものです。後半では黄金比の作図を取りあげ、さらにそれを使って直角の五等分を作図しています。そしてIV章では、黄金比を使って正五角形を作図しますが、これもコンパスを使ったほうが簡単そうです。



▲黄金比の作図

V章では正六角形を作図し、VI章では正八角形を2通りの方法で作図しています。作図自体はよくある方法といいでしょう。ただし、正六角形や正八角形の作図方法は、この本で紹介されているもののほかにもあり、この本の作図方法よりも大きな正六角形・正八角形も作図することができます。その方法を考えてみるのも面白いでしょう。

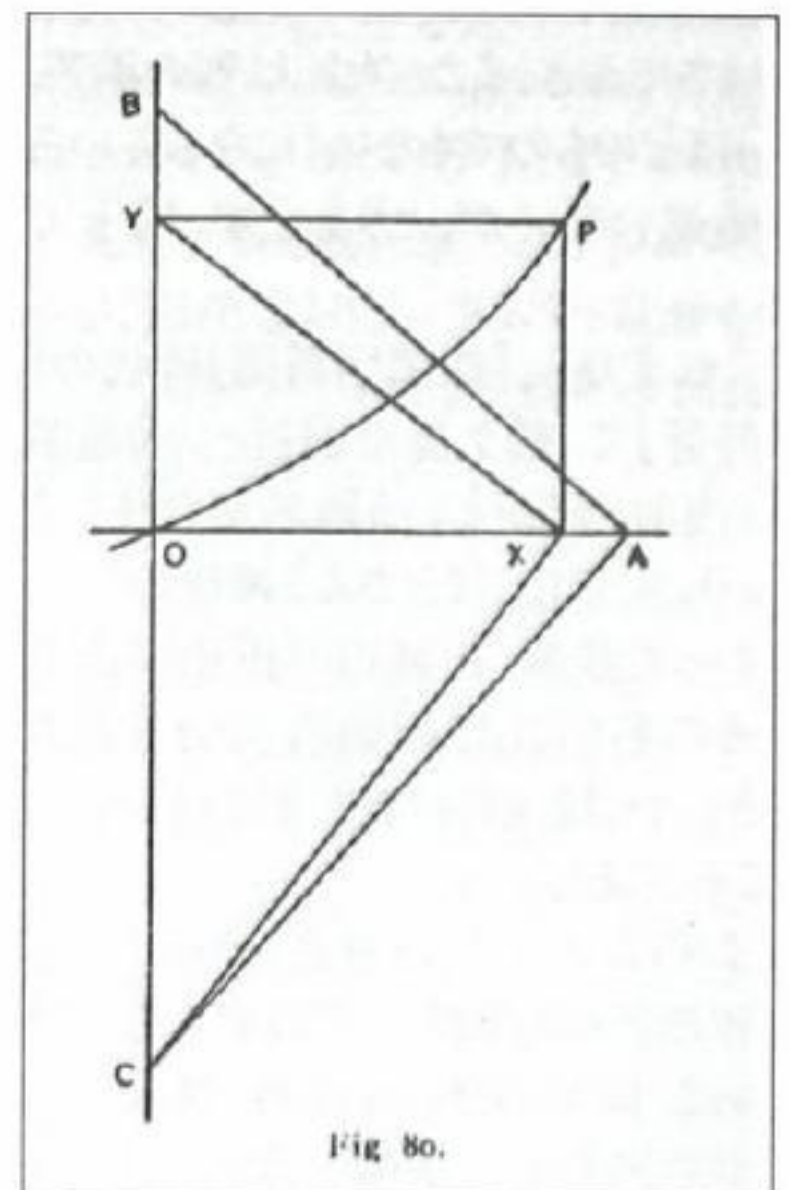
VII章では正九角形を作図しますが、目分量で角を三等分しています。「折り紙ではかなり正確に角の三等分ができる」と述べられており、それはその通りなのですが、任意の角の三等分が折り紙でできることを知っている現代人からすると、物足りないところです。VIII章では、正五角形から正十角形を、正六角形から正十二角形をそれぞれ作図し、黄金比を使って正十角形を作図します。そしてIX章では、正三角形と正五角形から正十五角形を作図しています。

X章では、さまざまな数列や級数を幾何学的に扱っていますが、その中で、任意の比の三乗根を求めるという問題を取り扱っているのに興味を引かれます。今日では、1枚の紙を折るだけで三乗根の作図ができることが知られていますが、当時はまだ、定規とコンパスで作図できる以上のことが折り紙で作図できることが知られていませんので、スンダラ＝ラオも、折るだけで三乗根を作図することは不可能であると述べています。そこで、2枚の長方形の紙を定規代わりに使うことで作図する方法を示しています。

XI章の前半では、正方形からはじめて正八角形、正十六角形と中心角を半分に折ってゆき、円周率の近似計算をしています。後半では正十七角形の作図をしていますが、これは折り紙からだいぶ離れてしまっています。XII章は合同や対称、等分などの概念を解説していますが、折り紙を使ったことで効果を生んでいるのは、三角形の内角の和が二直角であることを示しているところぐらいでしょうか。

XIII章は円錐曲線、XIV章はシッソイド(疾走線)やコンコイド(螺獅線)などのさまざまな曲線を扱っています。もちろん、紙を折って曲線自体を作図することはできないのですが、紙を折ることによって曲線上の点をプロットする方法が説明されていま

す。このような作図は、今日ではコンピュータを使うところでしょうが、紙をたくさん折っているうちに曲線が現れてくるというのは楽しい体験だろうと思います。ただし、この本の作図ではコンパスを使っているものが多くあります。



▲三次放物線の作図

以上見てきたように、この本は、折り紙を高度な幾何学の授業で使おうとする野心的な試みで、これが今から100年以上前に書かれたというのは驚くべきことですが、必ずしも成功しているとは言いきれないところがあります。当時はまだ、折り紙独自の幾何学が知られていませんでしたので、それもしかたのないことでしょう。

その後、折り紙の幾何学を主題とする本は、日本でも伏見康治や芳賀和夫、川崎敏和などによって書かれていますが、この本のように、大学レベルの数学の授業で教科書として使うことを想定した本が書かれるのは、2006年のトーマス・ハル著『Project Origami』まで待たなければなりません。この本もいずれ紹介したいと思います。

折紙散歩

Origami-Sampo
to Unexpected Directions

前川 淳

Maekawa Jun

第1回 なぜか埼玉

Saitama for Some Reason I Won't Tell

折紙散歩も9シーズン目突入である。よく飽きないもので、今回は埼玉篇である。毎回1県を特集すれば、あと47回は続けられる。続ける意味はあるのかはさておき、また、次回は別の構想(というほどのものでもない)になっているのは間違いないが、とりあえず、埼玉である。

これまでも、『探偵団新聞』時代の『折紙時評』で、鶴ヶ島市羽折という地名の謎(浅羽と脚折という地名が合体したらしい)、宝登山(ほどさん)神社のちょっと変わった畳紙、川越市の折箱製造業者でその名も「山口折鶴店」などを紹介してきたが、埼玉にはまだまだ紹介したいところがある。

まずは、わたし自身最も使うことが多い和紙折り紙用紙の産地である小川町である。同町の15cm折り紙用紙は、厚過ぎず薄過ぎず、しかも一度折った折り目が安定し、じつに折りやすい。両面同色で染色されているのでインサイドアウト

作品には使えないが、ふつうの折り紙用紙のように色剥げを気にすることもなく、15cm用紙で悪魔なども折れる。

その小川町には何度か行っているが、4年前の小春日和の日、武蔵の小京都という呼び名もある落ち着いたその町を、一日かけて歩いたこともある。和紙が町の誇りとなっていることは各所で感じた。たとえば、図書館。和紙の意匠が各所に使われ、和紙見本架もあり、照明も折り紙風だった。なお、初めて訪れるひとは、上記の折り紙用紙も購入できる町内の埼玉伝統工芸館に行くといいたいだろう。和紙を特産とし、それを町(村)おこしに使っている埼玉の他の自治体では、小川町の西に隣接する東秩父村もある。

まだ探索が完了していない埼玉の折り紙物件には、入間市の「ORIZURU」なるものもある。柱の形が折鶴の首状になっている建築で、渡邊尚彦さんが見つけた建築雑誌に載った情報なのだが、写真を見る限り、どこが折鶴なのかは判然としないし、具体的な地番もわからない。

そして、先日、以前から行こうと思っていた所沢の航空公園に行ってきた。日

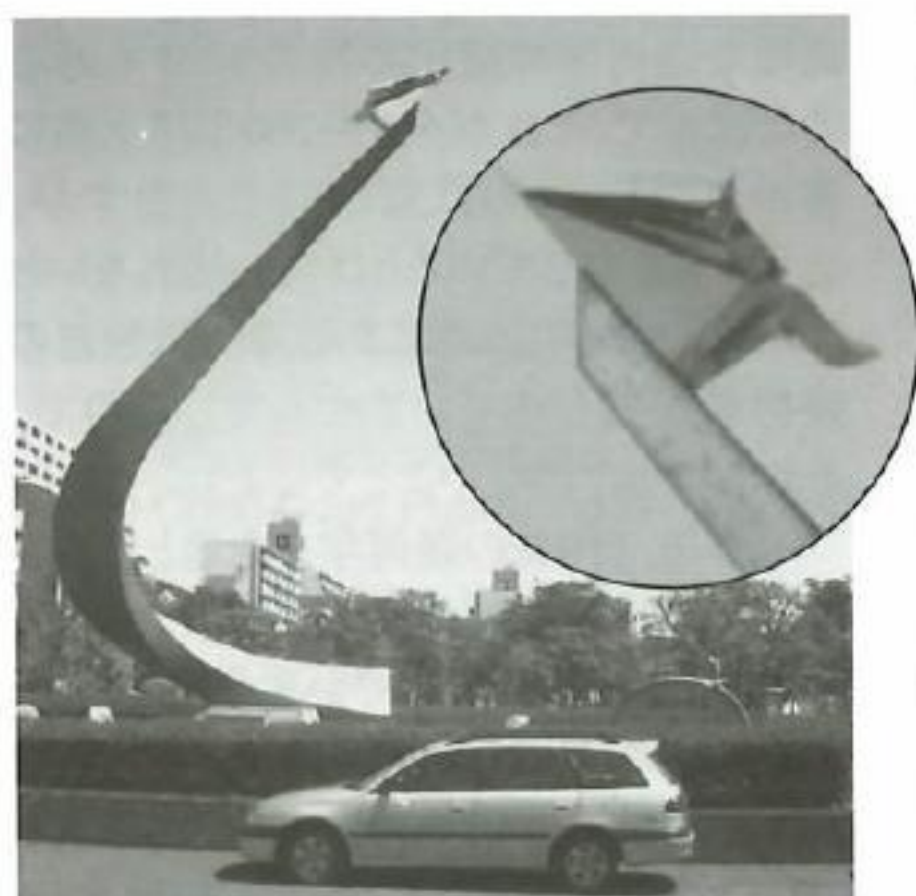
本初の飛行場だった場所で、ここに、数点の折り紙物件がある。

西武新宿線の航空公園駅を降りると、目の前に紙飛行機のモニュメントがある。細部は正確ではないが、紙飛行機彫刻としては、日本で十指にはいるものと言えよう。なんて、紙飛行機彫刻が日本に10個以上あるのかどうかは知らない。隣りには、「イマジネーションカーペット」(児玉由美子作)と題された造形物もあり、これも折り紙的だ。

航空と折り紙と言えば、折り紙ヒコーキの第一人者である広島県福山市の戸田拓夫さんが運営する「紙ヒコーキ博物館」(土曜のみ開館)にも行ってみたい。

また、2年前にこの散歩シリーズで紹介したように、中部国際空港のターミナルが折鶴のかたちをしているということも、折り紙&航空関連の話題である。そして、同空港には「SKY RELATION」(清水六兵衛作)と、ずばり「ORIGAMI」(橋本京子作)という、折り紙的なパブリックアートが2点あるという情報もある。これは、昨年の名古屋コンベンションのさいに足を伸ばして調査に行ったのだが、残念ながら、セキュリティーエリアの中にあることが判明して、見ることはかなわなかった。名古屋コンベンションにはジャン・ポーリッシュさんとメッテ・ペデルソンさんが参加し、同空港を利用したのだが、彼女たちも気がつかなかったということだ。いずれ、羽田でも成田でもなく同空港を利用して、調査を敢行する所存である。

さて。所沢の航空公園には、もうひとつ、折り紙彫刻がある。「未来飛行」と題



西武新宿線航空公園駅前モニュメント
The Monument of Koku-Koen (Aviation Park) station



「イマジネーションカーペット」(児玉由美子作)
"Imagination Carpet" by KODAMA Yumiko at Koku-Koen

Let me introduce the Saitama prefecture in the north of Tokyo. In the town of Ogawa-Machi in the center of the prefecture, washi-manufacturing has been a tradition for about 1,300 years, inheriting traditional methods. I personally like the origami sheets produced there. At the site which was Japan's first airport, in Tokorozawa in the south of Saitama, we find origami sculptures which look like paper airplane and flying carpet. The Monument at the front gate of Saitama University reminds us of origami, too.

された石黒光二氏の彫刻で、少年と少女が紙飛行機を飛ばそうとしている像だ。望遠レンズで確認したところ、この紙飛行機はかなり正確だった。いわゆる「へそ飛行機」で、へそ(折り返し)もちゃんと造形されている。ただ、彫刻としてのバランスによるのだろうが、子供にくらべて紙飛行機はかなり大きい。A4判ではなく、A3判であろう。これをうまく飛ばせるか、銅像の彼らは永遠にそれを飛ばすことはないだろうが、心配である。

航空機関連で話をつなげよう。わたしの自宅から直線距離1kmのところに、荒井由美さんの『中央フリーウェイ』で「調布基地」と歌われた調布飛行場がある。当時すでに米軍から返還され、基地ではなかったはずで、現在は、大島や神津島に準定期便の飛ぶ通勤ター空港となっている。近くには、かつて、日本最大の航空機メーカーであった旧中島飛行



「未来飛行」(石黒光二作)
"Mirai Hiko" (The Flight of Tomorrow) by
ISHIGURO Koji at Koku-Koen

機(現富士重工業)の研究所があり、国立天文台の本部も隣接し、近辺は、いわば空を見上げてきた土地である。

そう言えば、彼女のデビューアルバムも『ひこうき雲』で、同アルバム内には、『紙ヒコーキ』という曲も収録されている。『中央フリーウェイ』にも「やがて滑走路」なる歌詞があり、彼女の中に、滑空感、飛翔感などの感覚が強くあるのだろうと思わせる。なお、わたしは、彼女のデビューの鮮やかさを現役で体験している年代で、当時、いわゆる四畳半フォークは嫌いだったが、経済的な豊かさが背景にあり、それを確信犯的に肯定している彼女の曲の数々に対して、「こうした曲が好きになるような軟弱者であってはいけない」と自分に言い聞かせていた。所属していた高校のサークル・放送研究会の後輩が『返事はいらない』って、よくわかる」などと言っているのを苦々しく思っていたのである。

なんてことを連想し、この話をどうまとめようと思っていたら、ザ・ブルーハーツのメンバーがつくったザ・クロマニヨンズの新譜も『紙飛行機』であることがわかった。いましがたこれを買ってきたのだが、ジャケットに「きりとりせん、やまおり、たにおり」などと書いてあり、コピーをとって紙飛行機を折ってみましょうというデザインになっていた。折紙者としてうれしい趣向である。わたしは、ブルーハーツ世代というには歳をくっているが、双方隠れたCMソングの大御所にしても、ユーミンよりブルーハーツのほうに共感する。この歳になっても、あの日に帰るより、見えない自由がほしいのである。

と、この連載は、音楽の趣味を話しま



昨年のおごろから、近年になく、折り紙度の高い日々になっています。

○前川 淳(まえかわ・じゅん)＝折紙創作・研究家。折鶴モノのコレクター。東京生まれで東京在住だが、1年の約1/3は、天文台の仕事のため長野・山梨で過ごす。好きなもの：阪神タイガース、星空、書店、喫茶店、幾何学的調和。

しょうというものではなく、折り紙の連載である。最後に、埼玉大学のモニュメントを紹介して締めくくろう。これは、ウェブで「黄疸に罹った折鶴」という、なんともはやなコメントがあることで知ったもので、正式な題を「地ニノゾミ、知ヲマトウ」(高須賀昌志作?)という。パブリックアート界の第一人者である脇田愛二郎氏の彫刻に似るが、形状はよりランダムで、記号や字などの穴も開いている。学問の多面性を象徴しているようだ。

しかし、埼玉大学って、なんであんなに駅から遠いのだろう。休日の朝早く行ったので、バスも運行していないし、与野本町の駅から30分以上歩いた。まあ、駅前から途中の芸術劇場までの間に、妙なパブリックアートが多かったし、もともと散歩なんだからいいんだけどね。



埼玉大学正門前モニュメント
The Monument at Saitama University

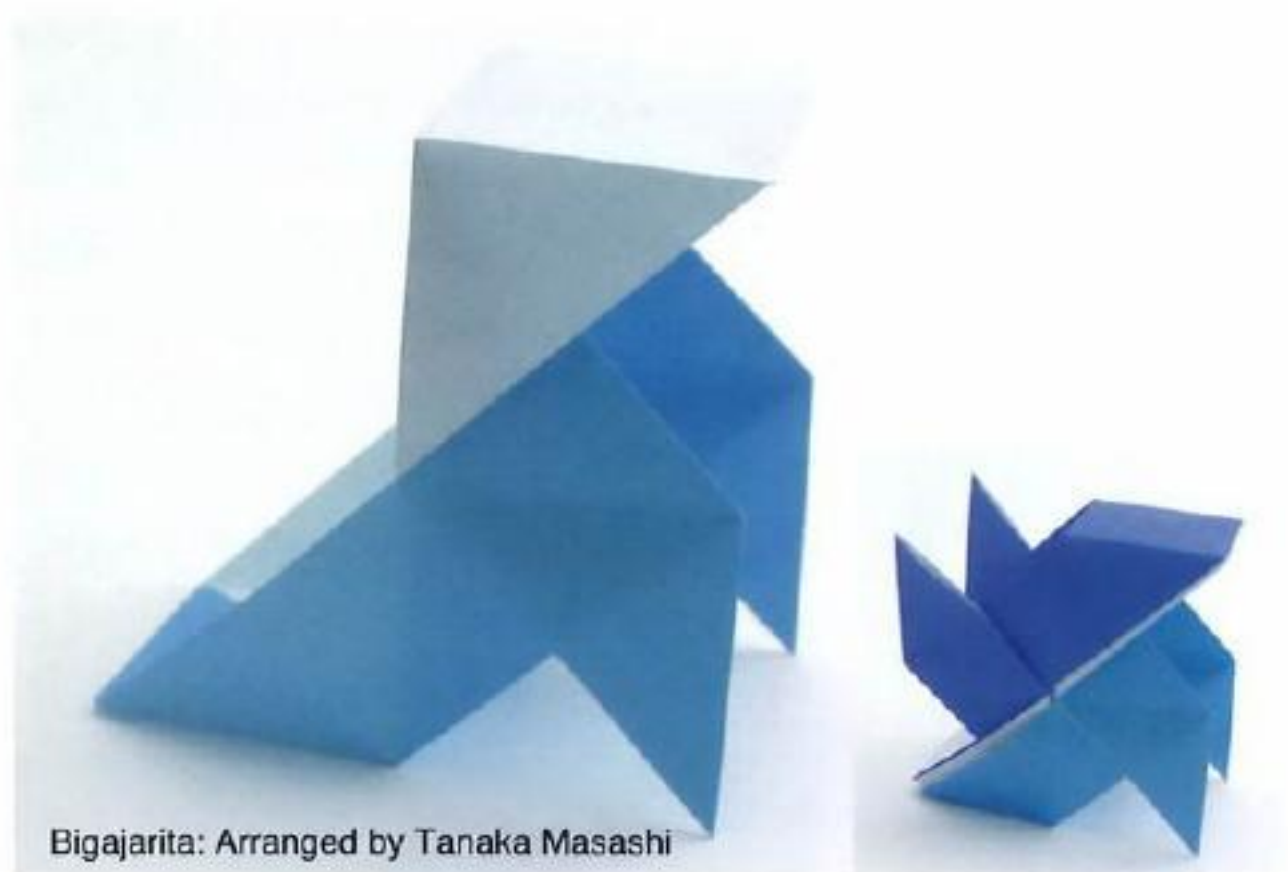
■関西コンベンションが無事終了。次は東京、少々気が早いようですが準備は着々と進んでいます。全国の折紙者の熱気に圧倒されないように、今から基礎体力をしっかりとつけてゆきましょう。



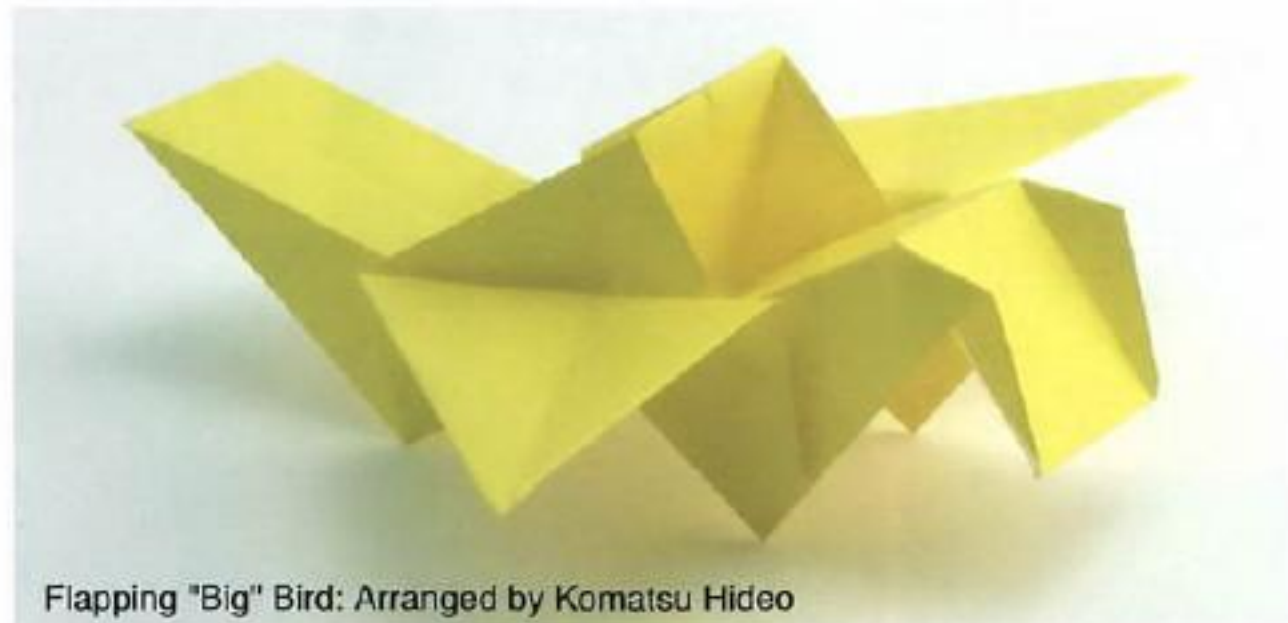
「花巻きボックス」
作：布施知子 (P.4)

Flowered Box: Fuse Tomoko (P.4)

■硬質でありながらも優美で、金属の装飾を付けた宝石箱を思わせるような巻き加工。ひとつひとつの作業をきっちり確実にこなし、仕上げではバランスの良い部品配置に気を遣うことによって、完成度が格段にアップします。講習会に参加して作者や他の参加者の「意気込み」・「集中ぶり」を肌で感じるのも、上達への近道ですよ！



Bigajarita: Arranged by Tanaka Masashi



Flapping "Big" Bird: Arranged by Komatsu Hideo

「ハバリータ」「はばはばたくとり」
アイデア：田中将司、小松英夫 (P.8)

Bigajarita, Flapping "Big" Bird:
Arranged by Tanaka Masashi, Komatsu Hideo (P.8)

■とてもなじみ深い伝承作品が、たったひとつの観点からの加工によって、まさかここまで奇妙奇天烈な変身を遂げてしまうとは。関西コンベンション会場だけでもさまざまなバリエーションが生み出されましたが、今後まだまだ、更なる新作群(笑)が期待できそうな分野です。



「フェニックス」 作：ジョセフ・ウー (P.11)
Phoenix: Joseph Wu (P.11)

■伝説やファンタジーに登場するモンスターを、正確で凛とした折り目によって描き出すのは、Wu氏の最も得意とするところ。本作は神谷作品からの改造とのことですが、言われるまではそうとは気付かないほどの変貌ぶり。複合部品による脚部も、適材適所で異なる技術を使いこなし、全体のデザインバランス統合を確実にこなって初めて実現できるものだと思います。



Blakiston's Fish Owl

Owlet 2

「シマフクロウ」
「ちびフクロウ2」(P.30)
作：勝田恭平

Blakiston's Fish Owl, Owlet 2 (P.30)
: Katsuta Kyohei

■本誌101号表紙作品が大幅パワーアップ。翼が延長されたことでポーズの自由度が高まり、獲物に襲いかかる瞬間もこのとおり。蛇腹のヒダを展開した羽毛表現も、さらに輪をかけて豪華になっています。かたや、すっきりとまとまったデフォルメ版も非常にかわいらしい。さまざまな色調で量産すれば、そのまま絵本のような情景になりそうです。



「猫」作：川畑文昭(P.22)

Cat: Kawahata Fumiaki (P.22)

■使っている用紙の質感と、仕上げの曲面的な加工が相まって、柔らかい筋肉や毛のような雰囲気全身にまんべんなく広がっています。

ちぎった紙を用いた部分的な裏打ちも、まだまだ未開拓の分野。動物作品に新たなエネルギーを吹き込む技法として、今回の川畑作品をきっかけに、多くのかたが研究着手するかもしれません。



「サメ」作：宮島 登(P.34)
Shark: Miyajima Noboru (P.34)

■弾丸のようなボディラインに、各部の鰭を折り出す過程で発生する線が的確に巻き付くデザイン処理がなされています。凶悪なはずの題材であるにもかかわらず、どこことなく親しみやすいユーモラスな表情になってしまっても宮島作品ならではの。

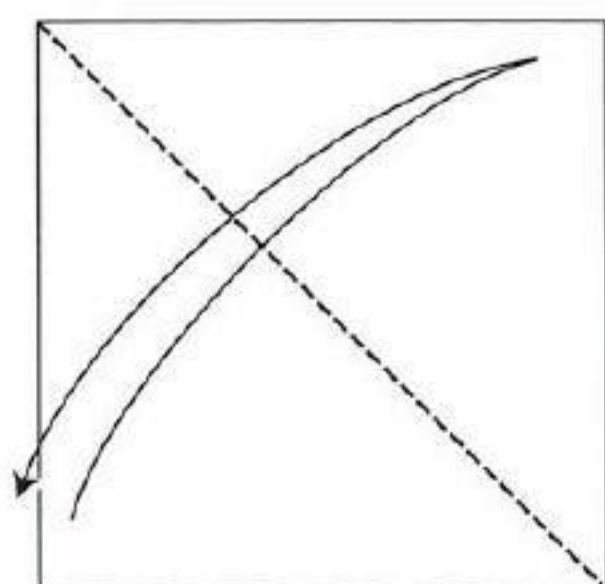
猫

川畑文昭 Kawahata Fumiaki

2007年1月28 日作図

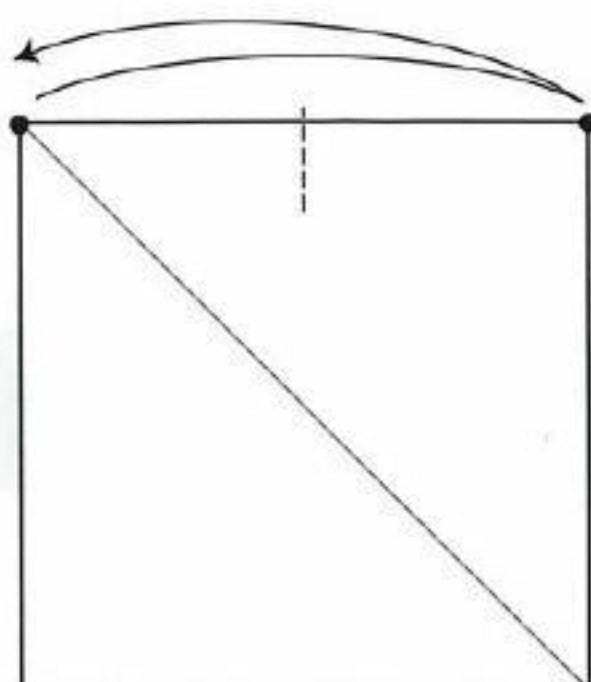
この作品は以前に創作した顔に
新たな胴体をつけたものです。
モデルは我が家のイタズラ猫の
「ミースケ」です。

1



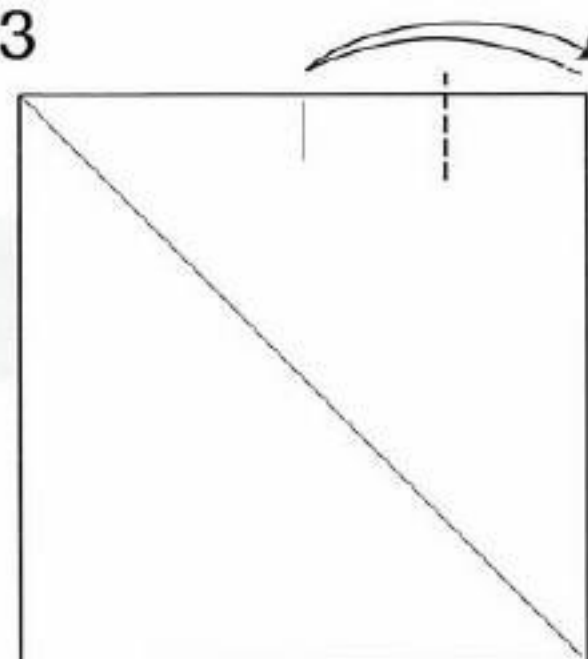
折りすじをつける

2



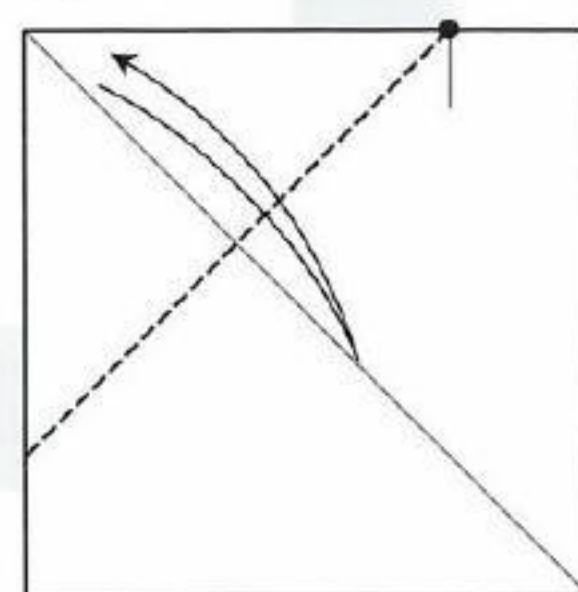
折りすじをつける

3



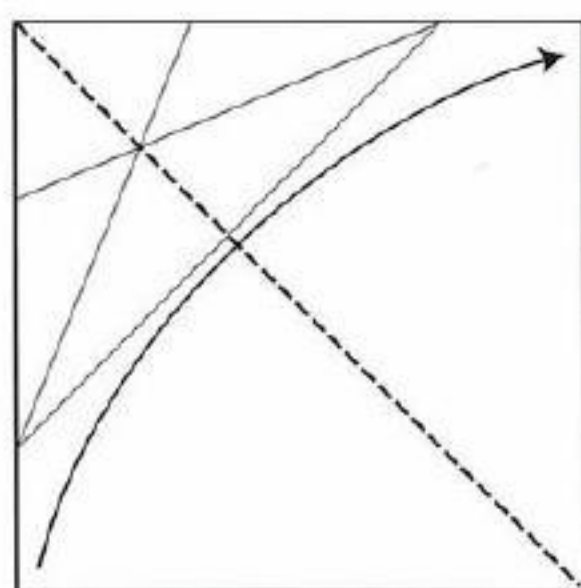
折りすじをつける

4



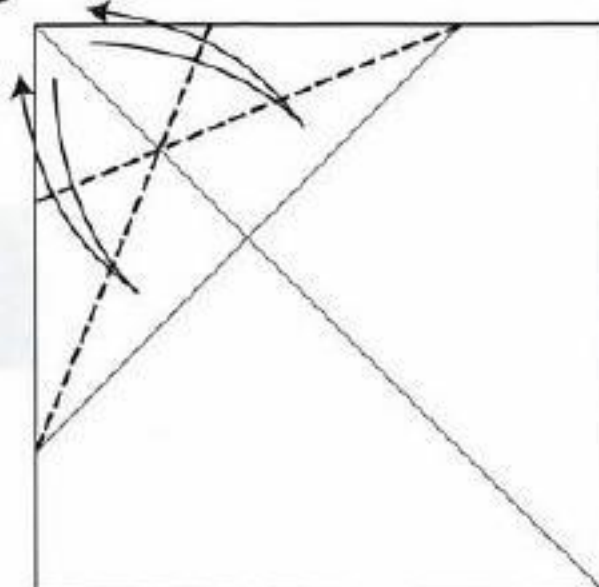
折りすじをつける

6



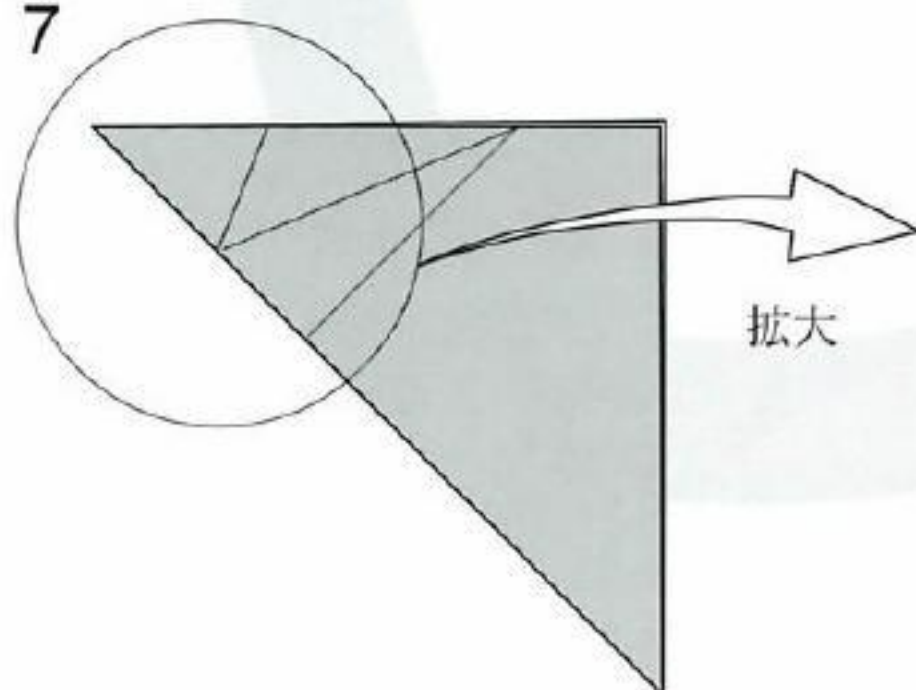
半分に折る

5



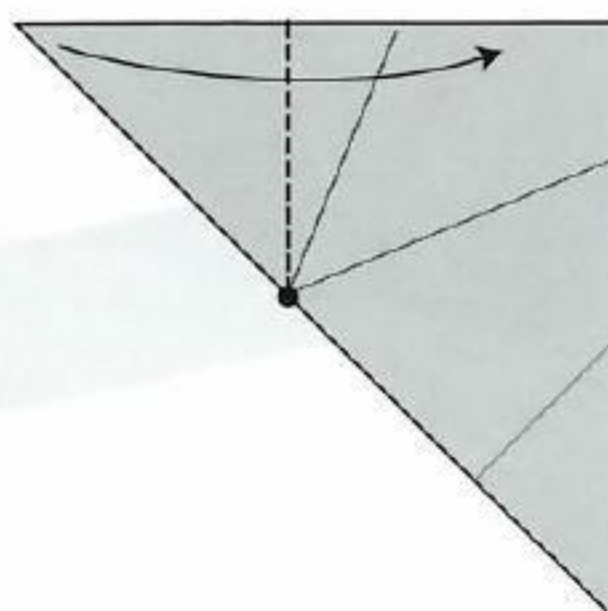
折りすじをつける

7

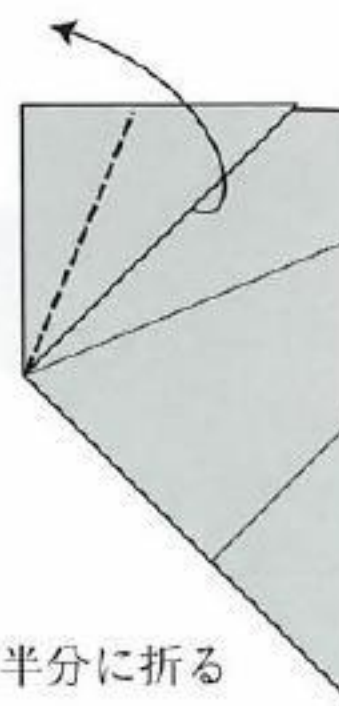


拡大

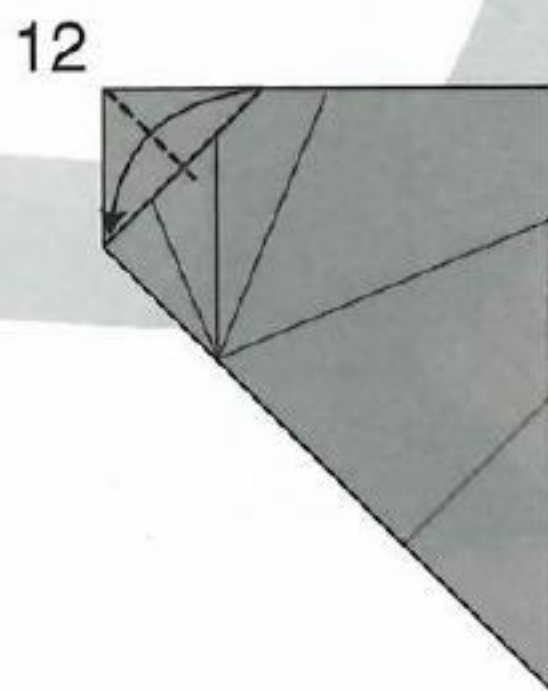
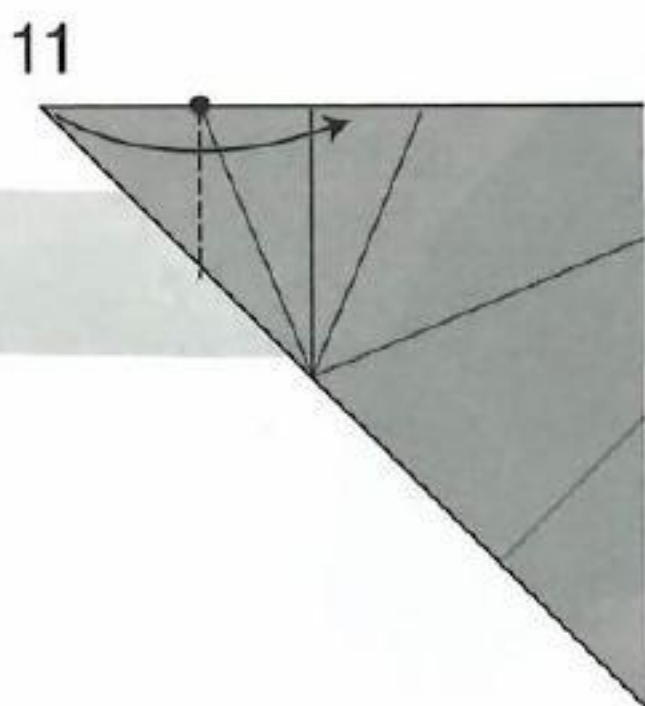
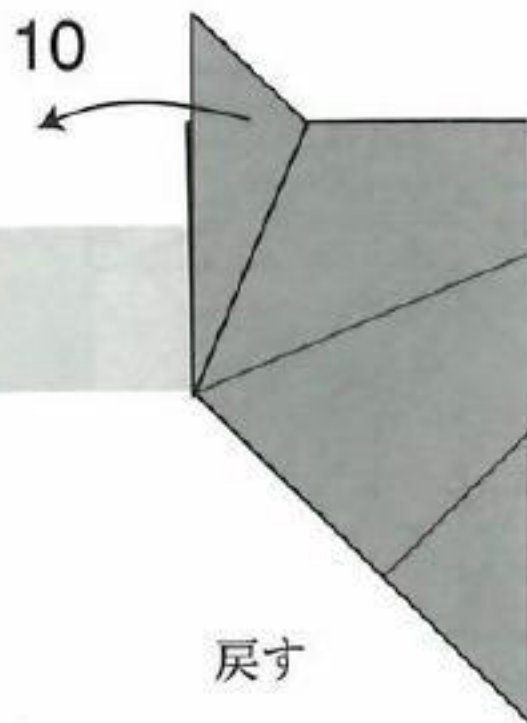
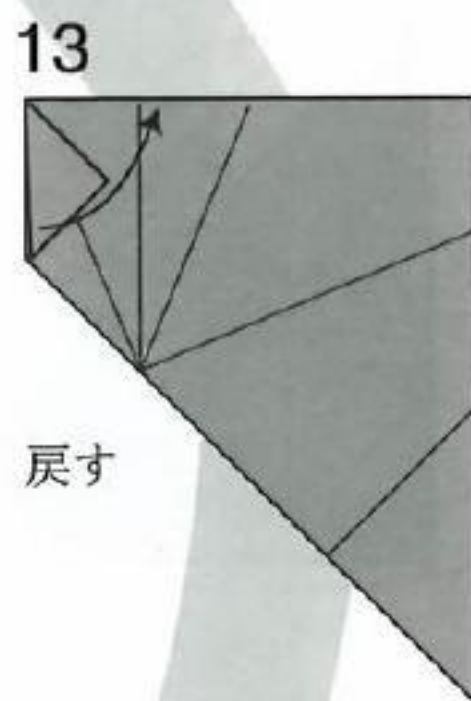
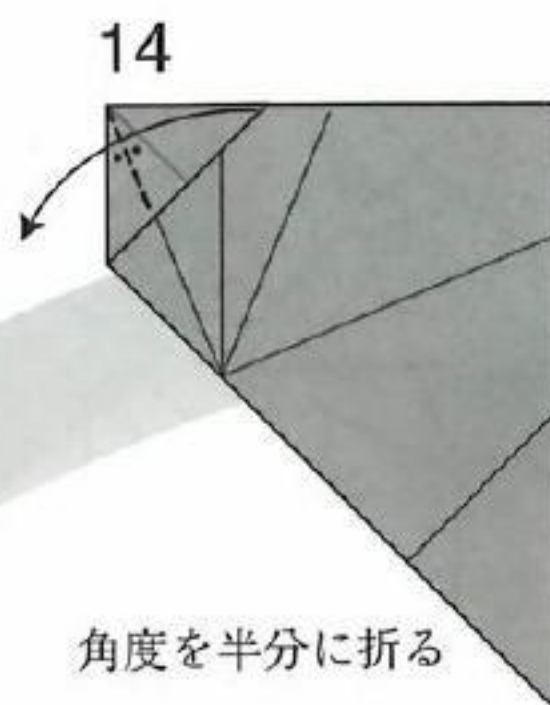
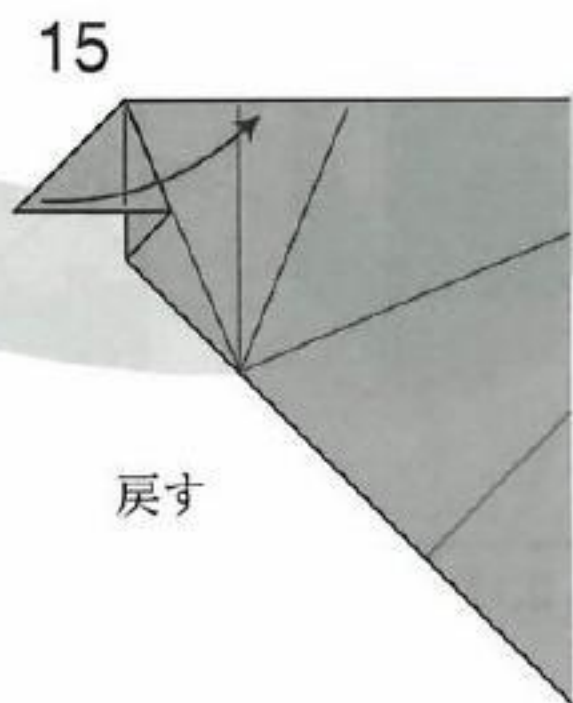
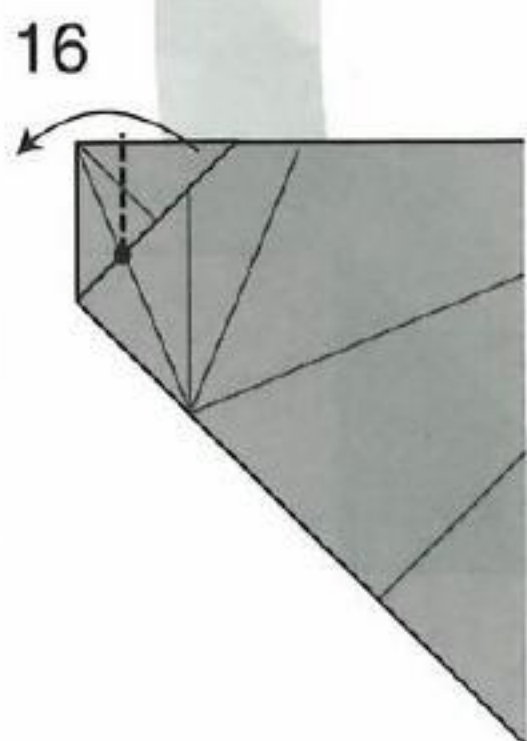
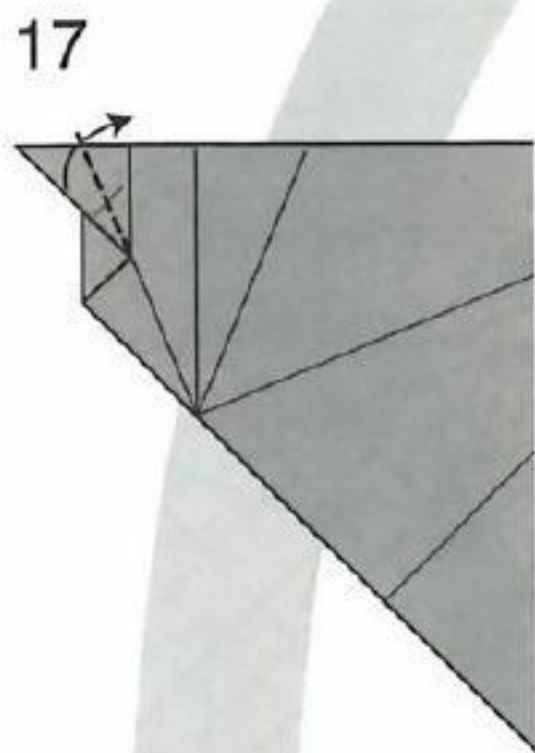
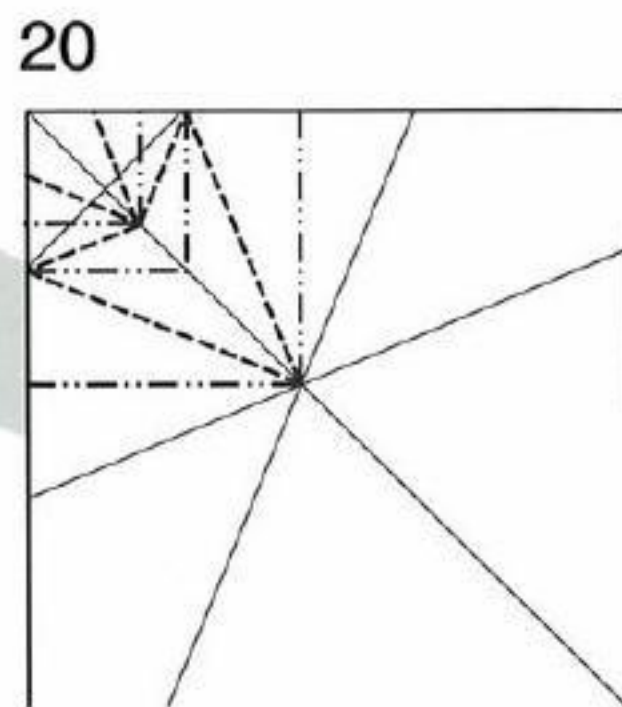
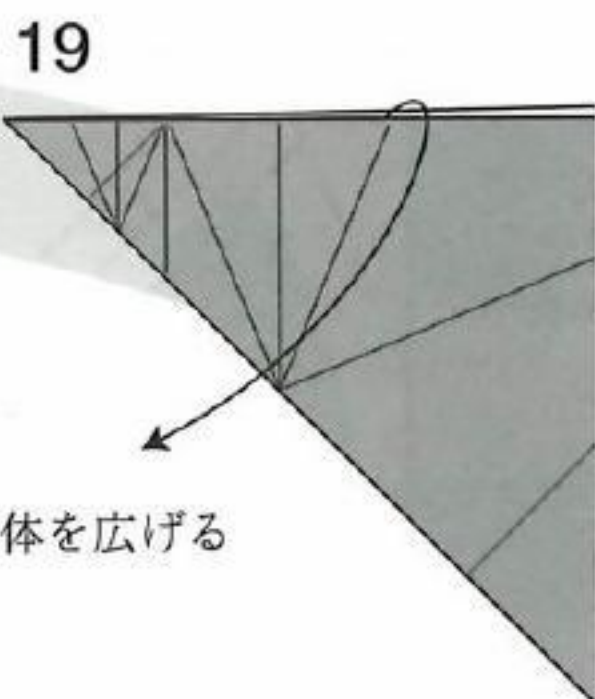
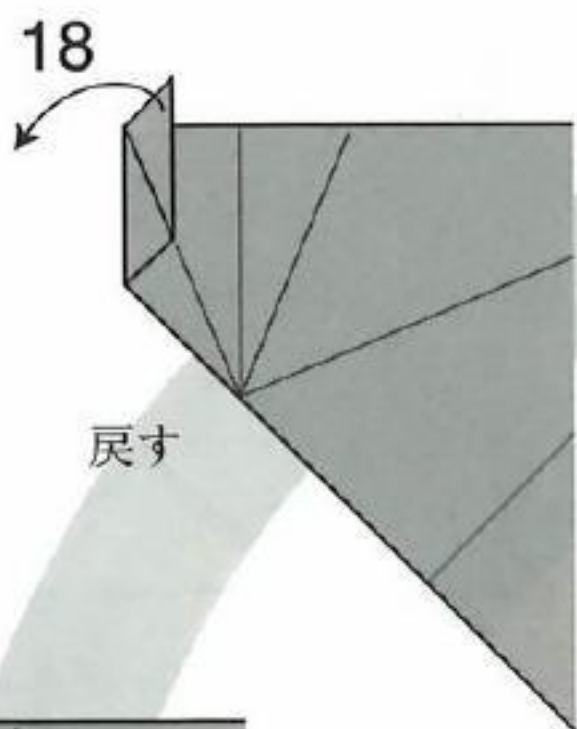
8



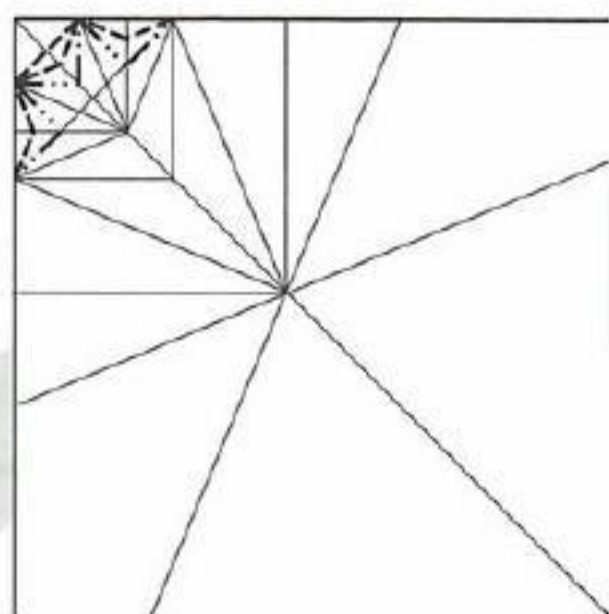
9



角度を半分に折る



21

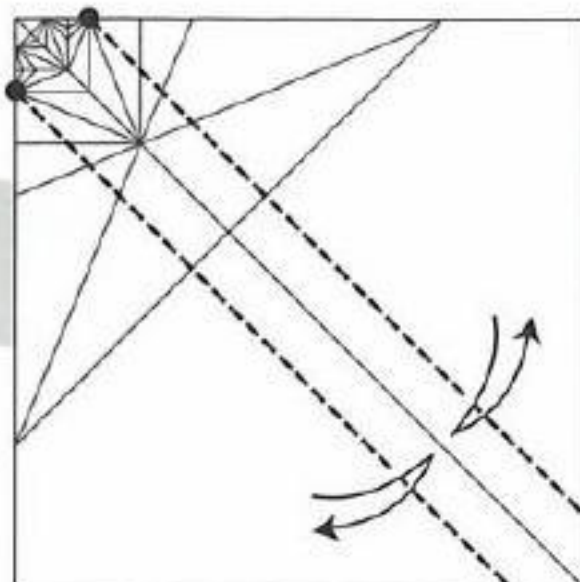


折りすじを追加する

22

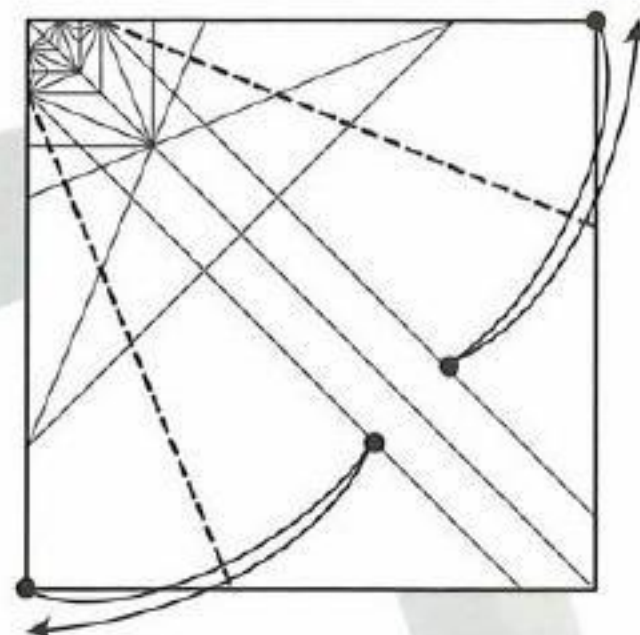


全体表示



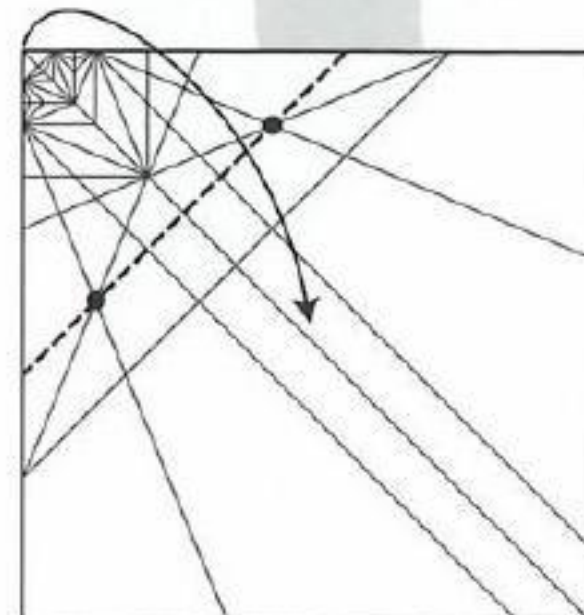
折りすじをつける

23

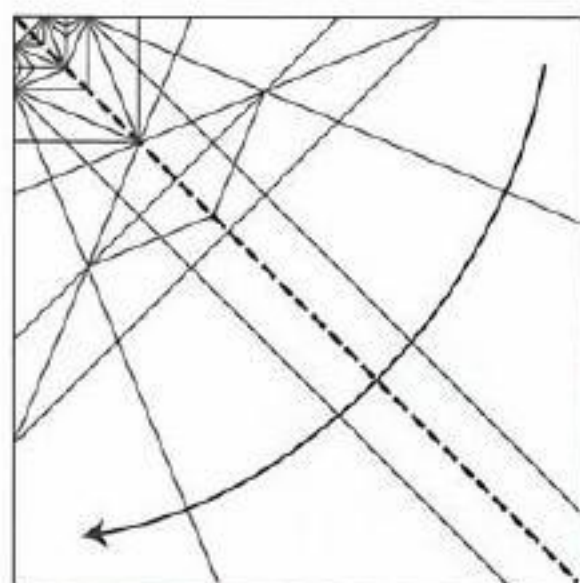


折りすじをつける

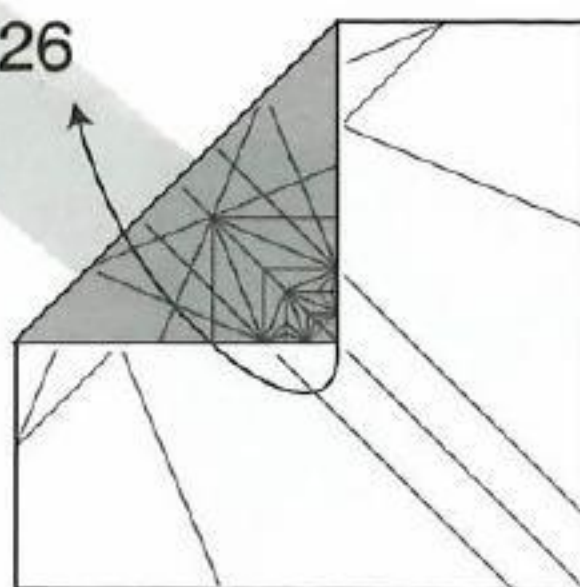
24



27

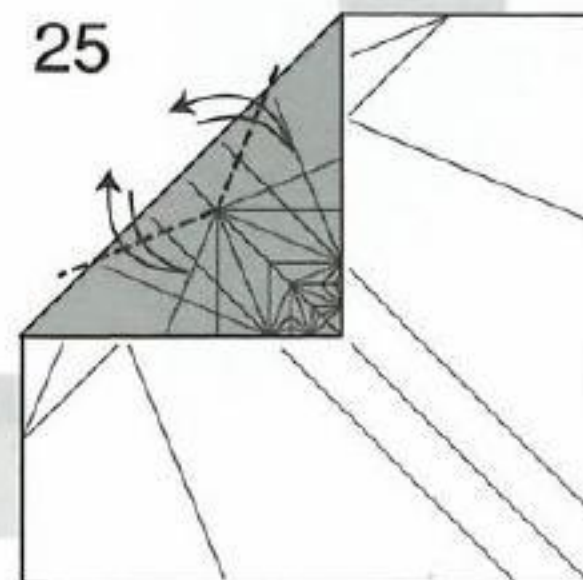


26



広げて戻す

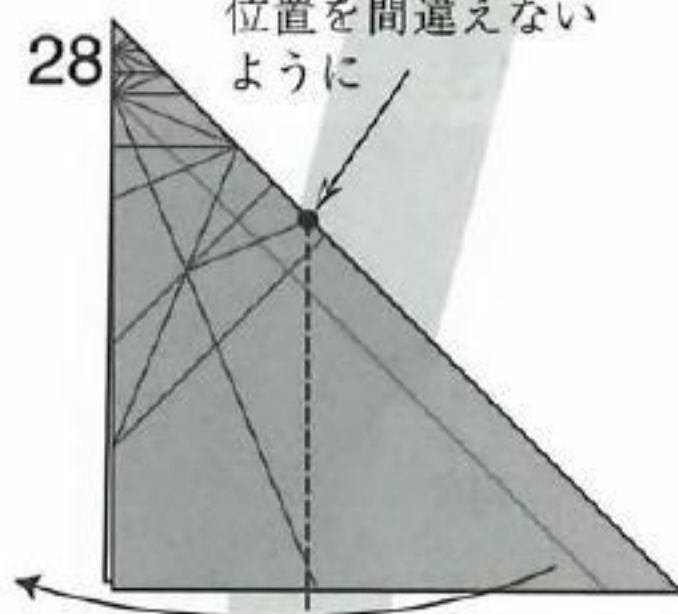
25



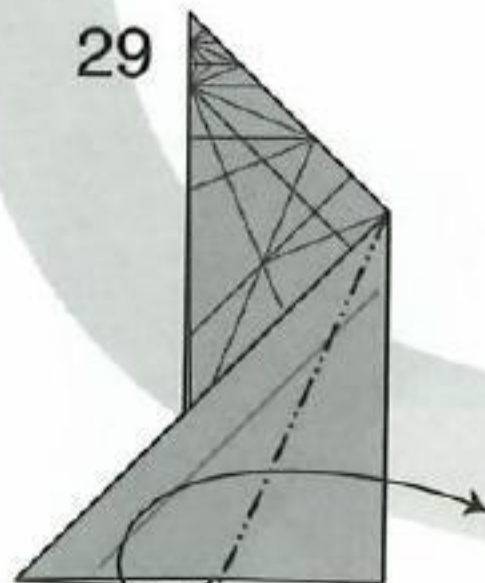
2枚重ねて折りすじをつける

28

位置を間違えないように

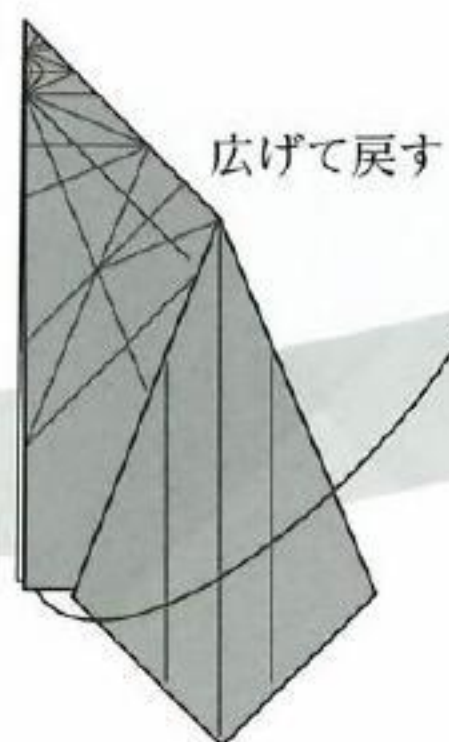


29



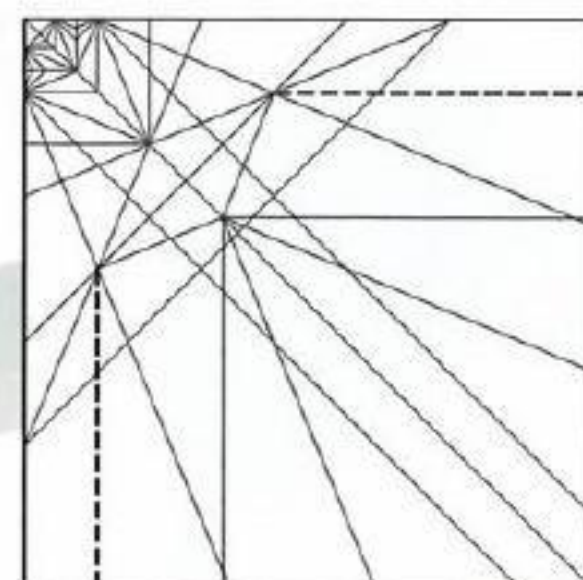
広げてつぶす

30

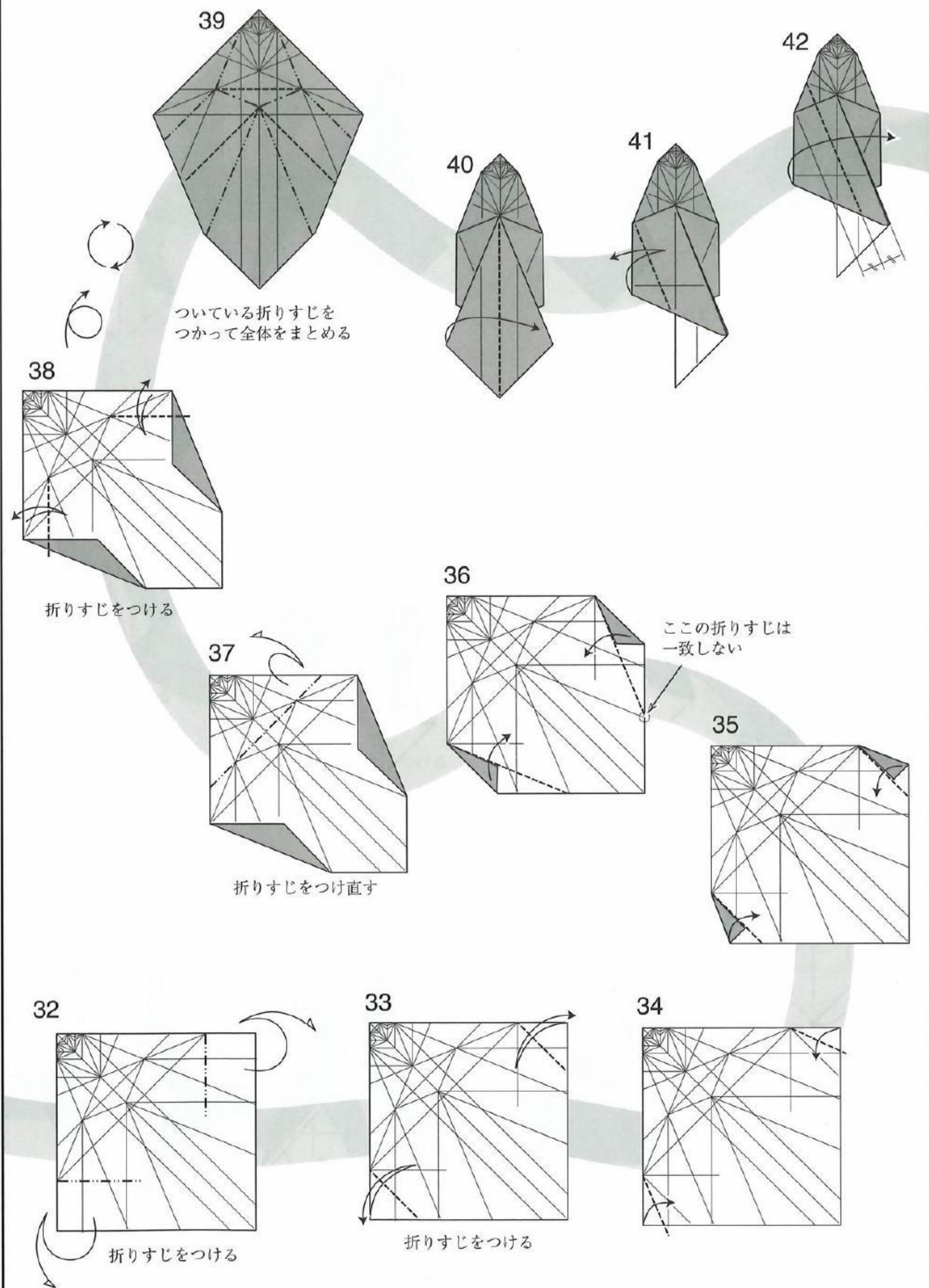


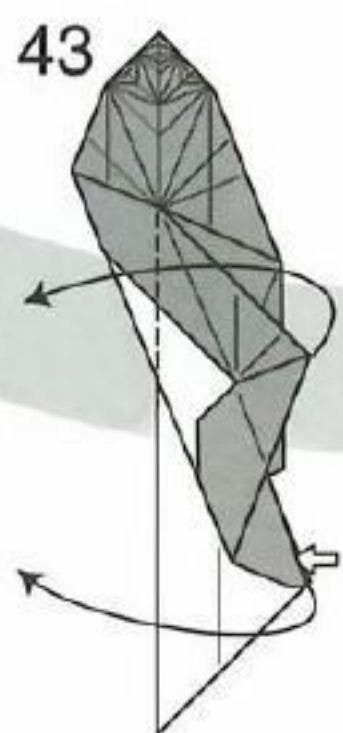
広げて戻す

31



折りすじをつける

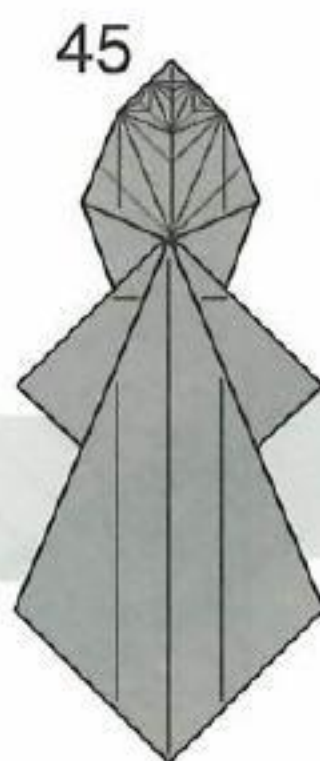




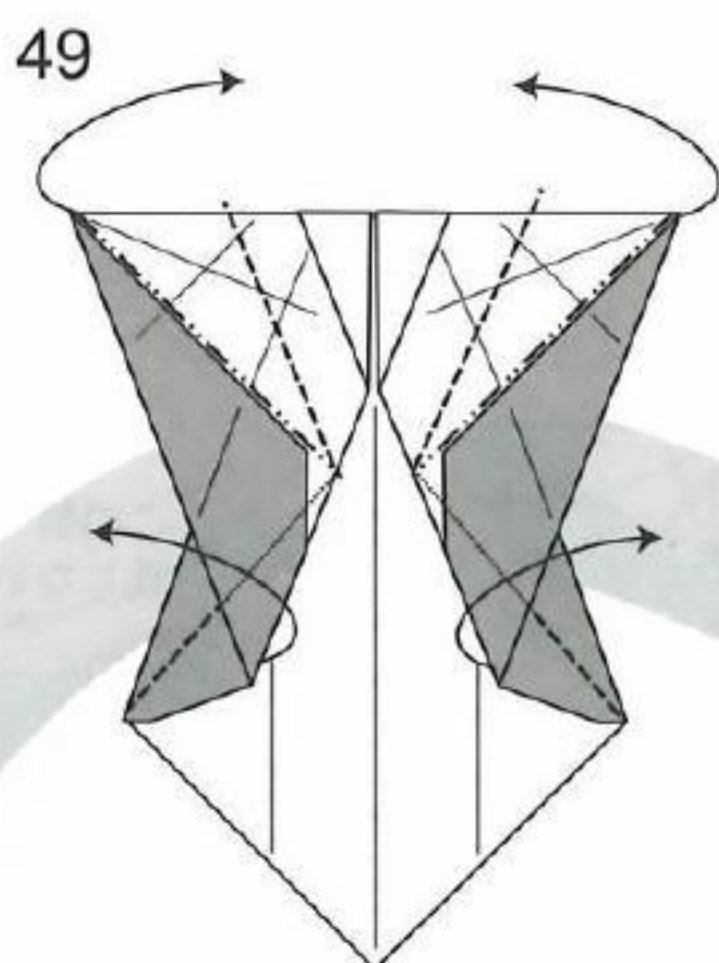
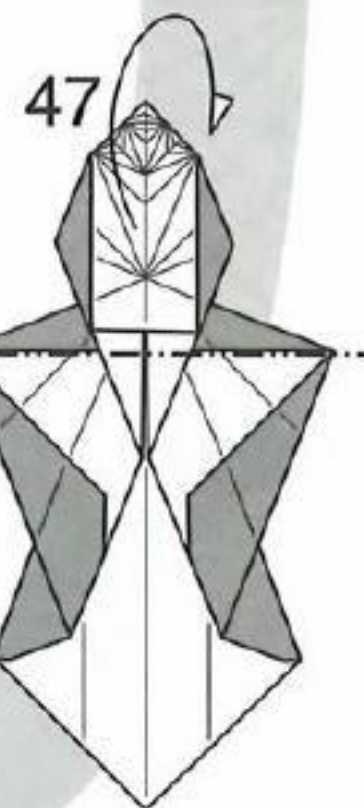
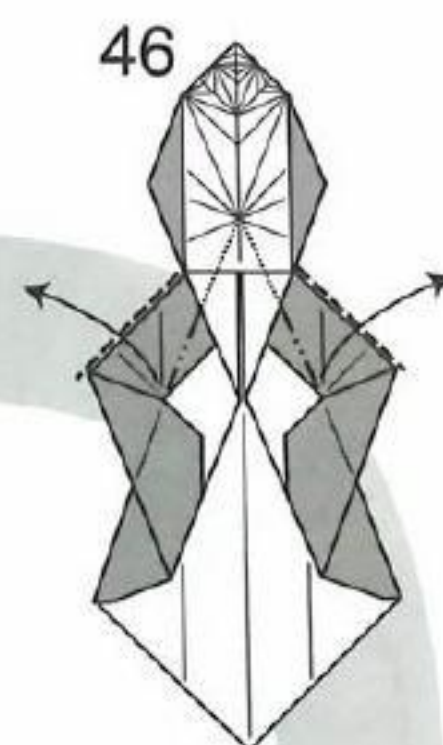
折った所を重ねた
まま折り返す



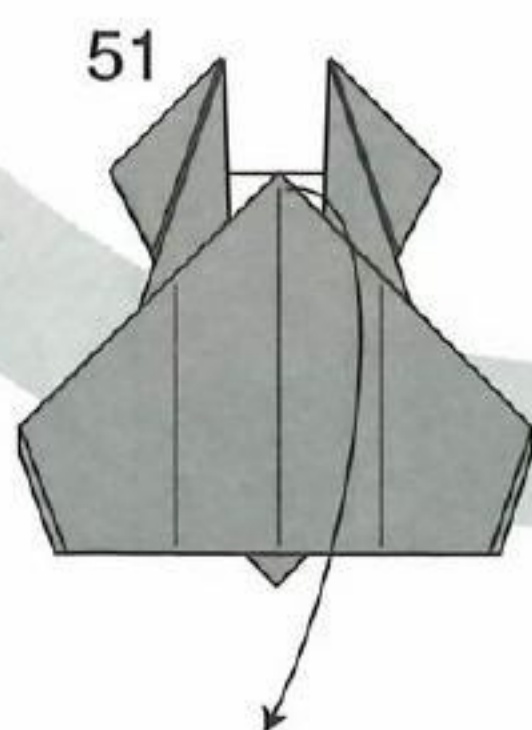
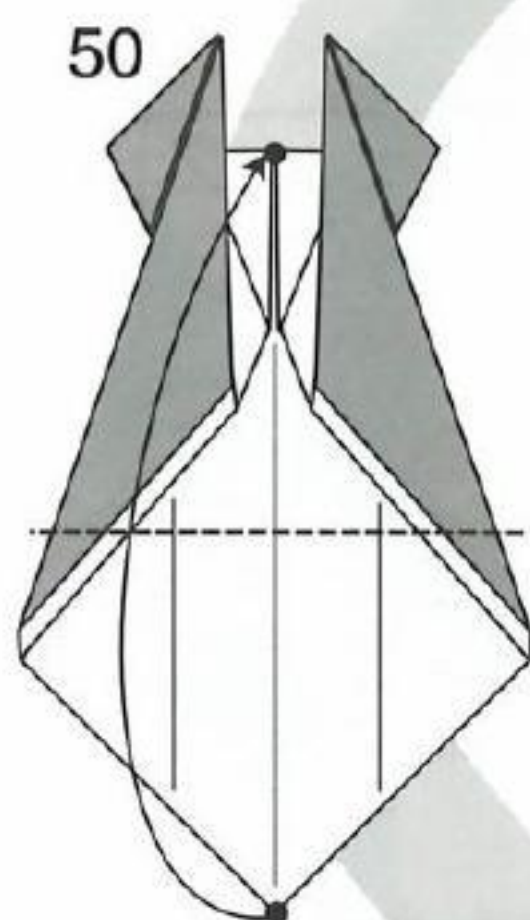
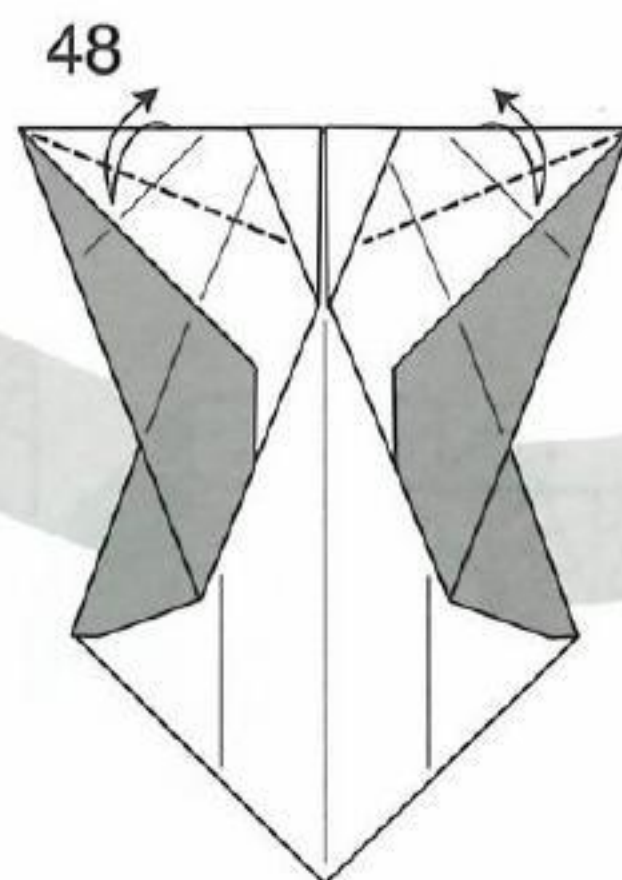
右側も40~43と
同じように折る



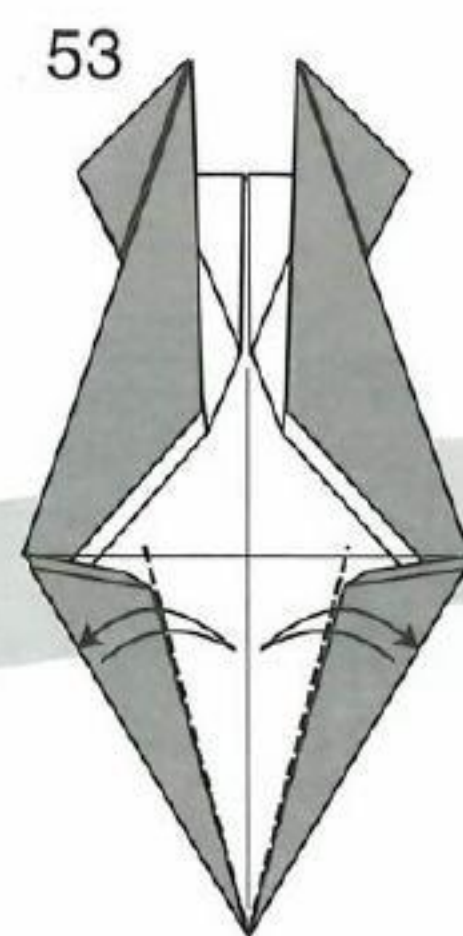
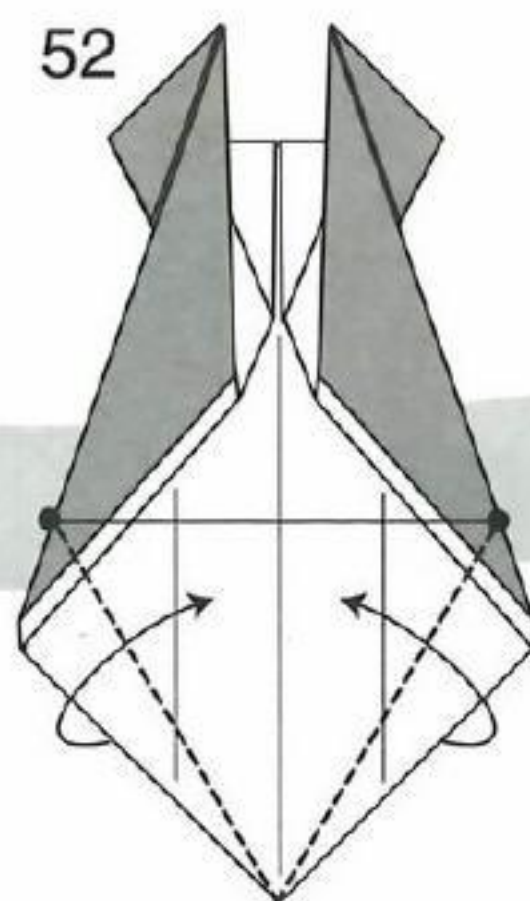
44まで折った形



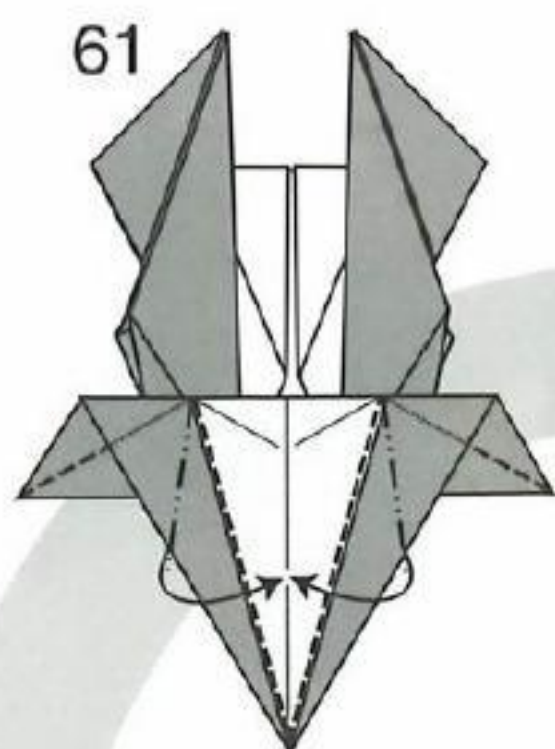
引き寄せるように折る



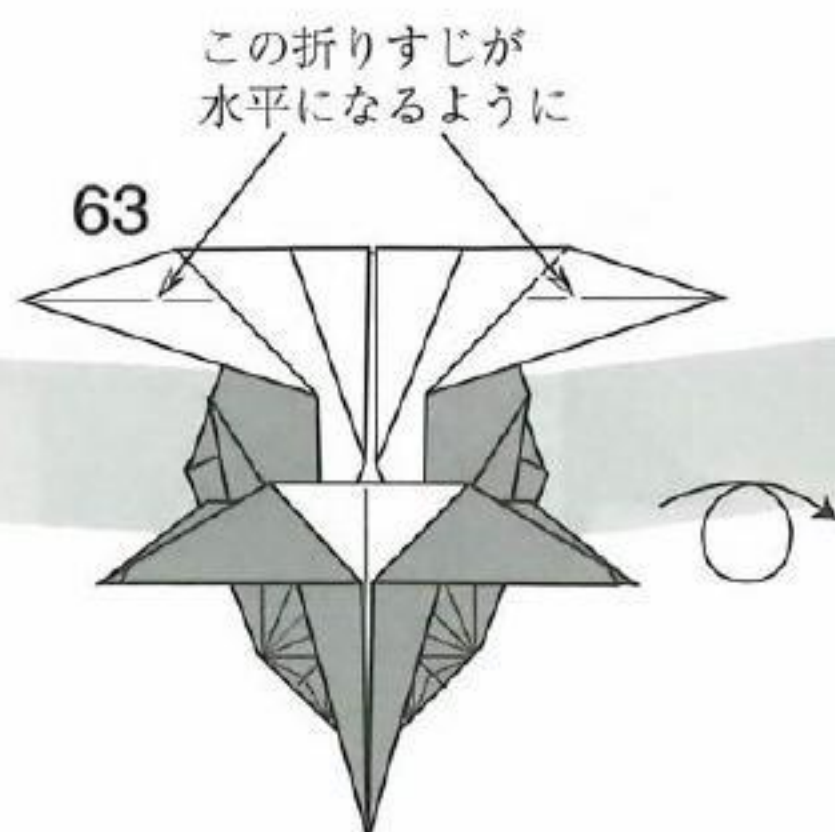
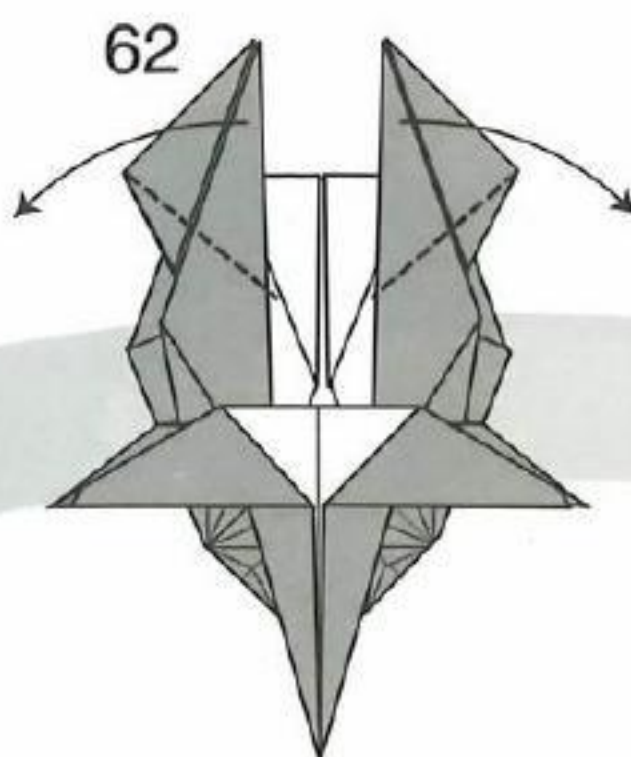
戻す



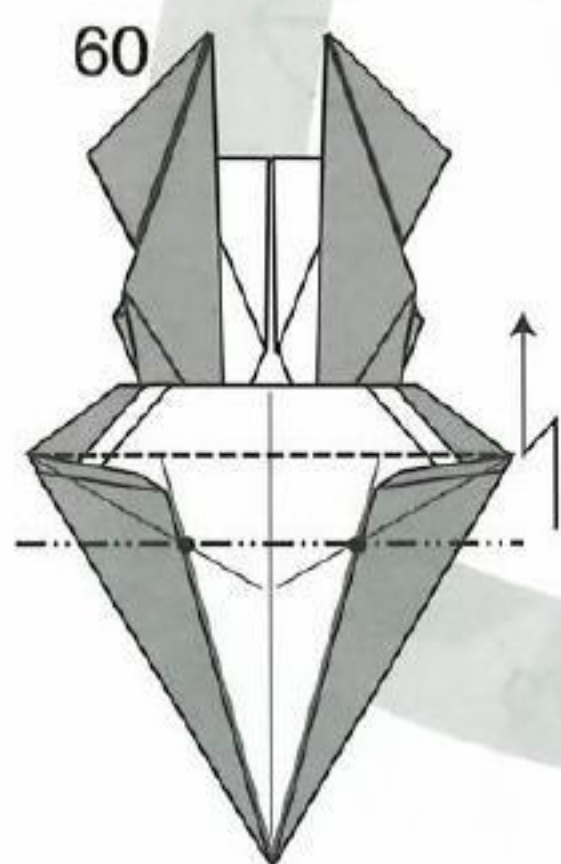
折りすじをつける



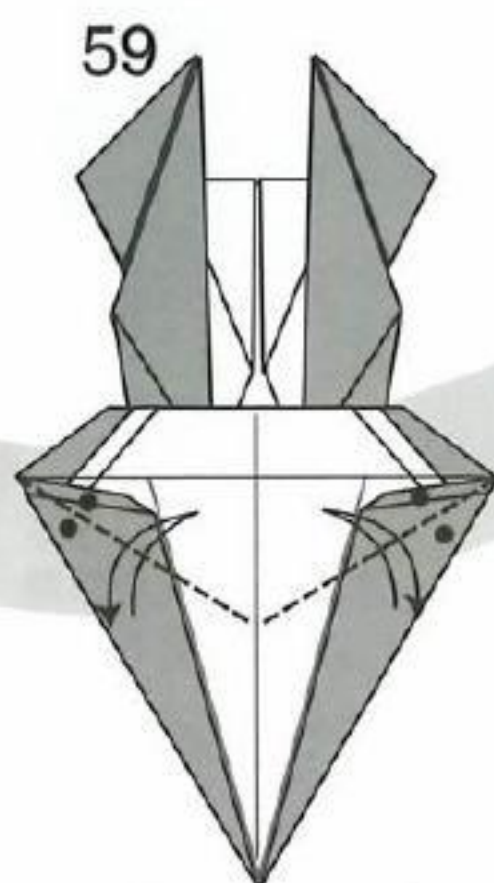
引き寄せるように折る



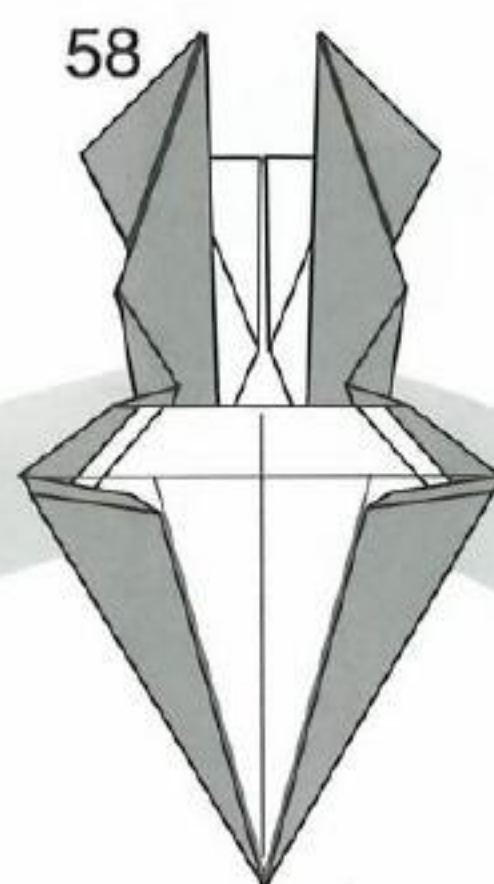
62まで折った形



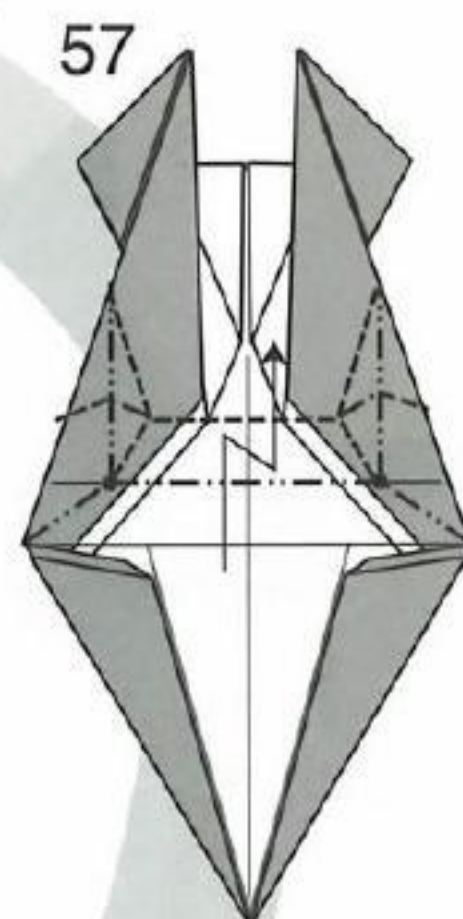
段に折る



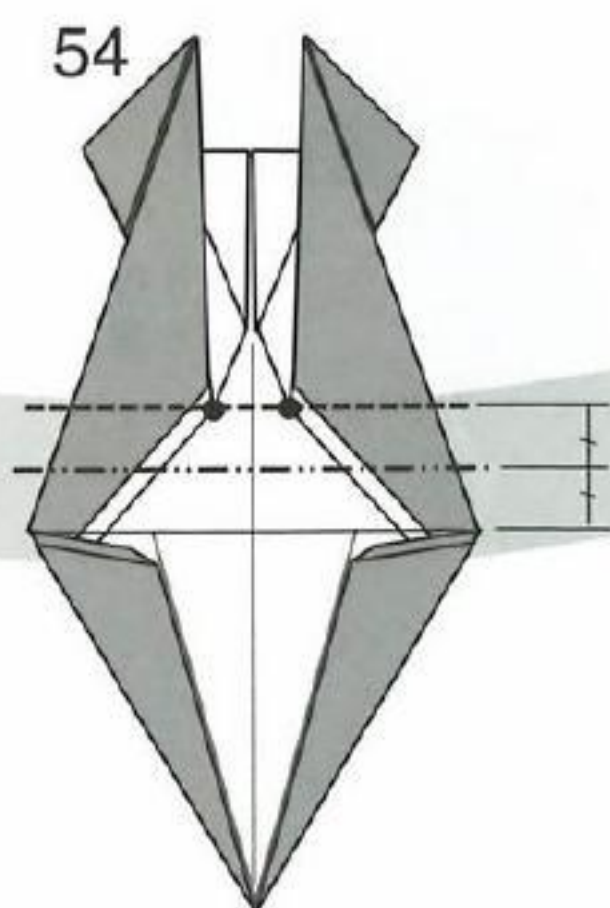
折りすじをつける



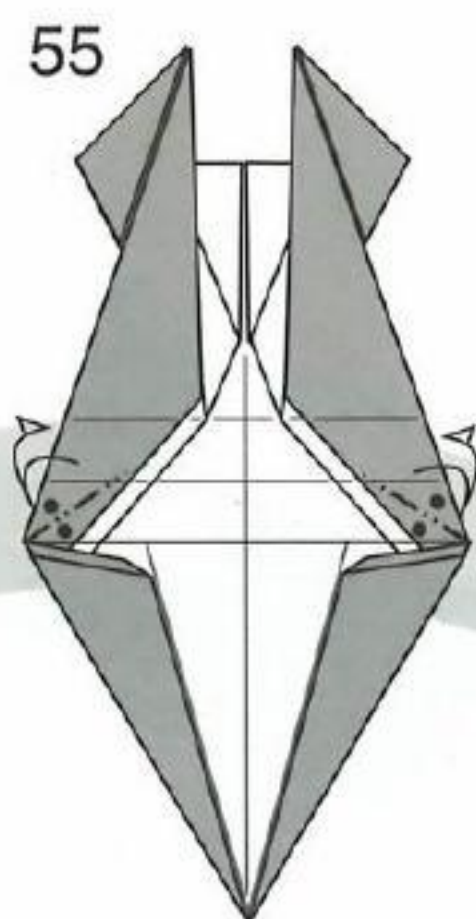
途中図



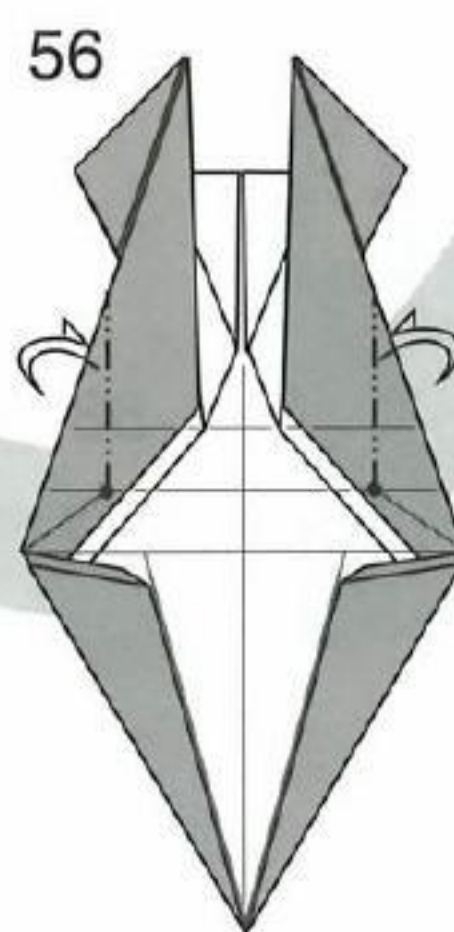
ついている折りすじを利用して全体をまとめる



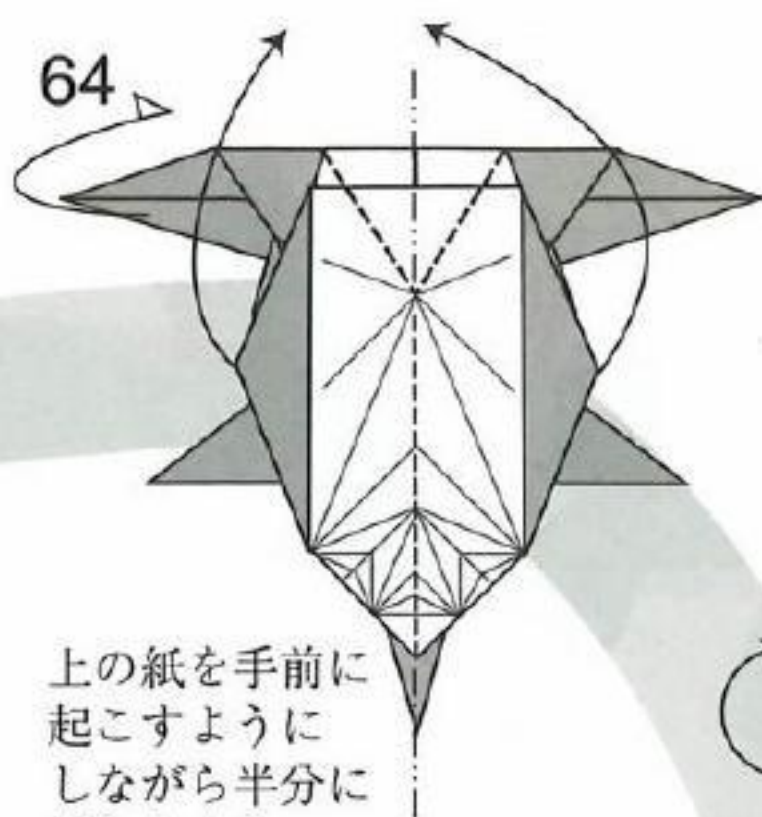
折りすじをつける



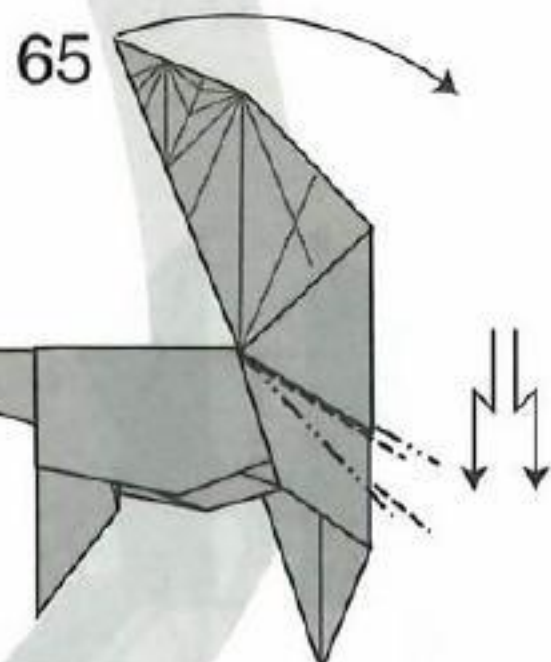
折りすじをつける



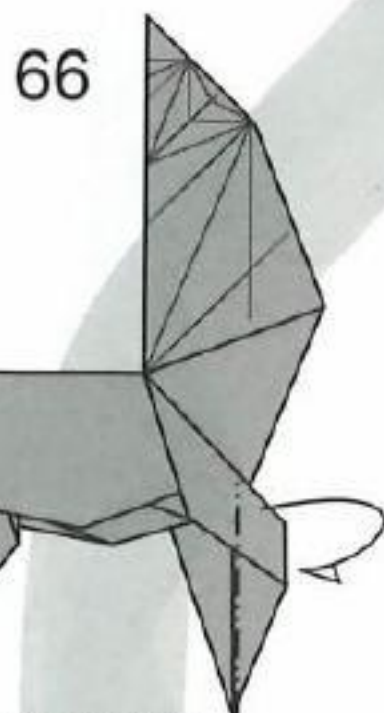
折りすじをつける



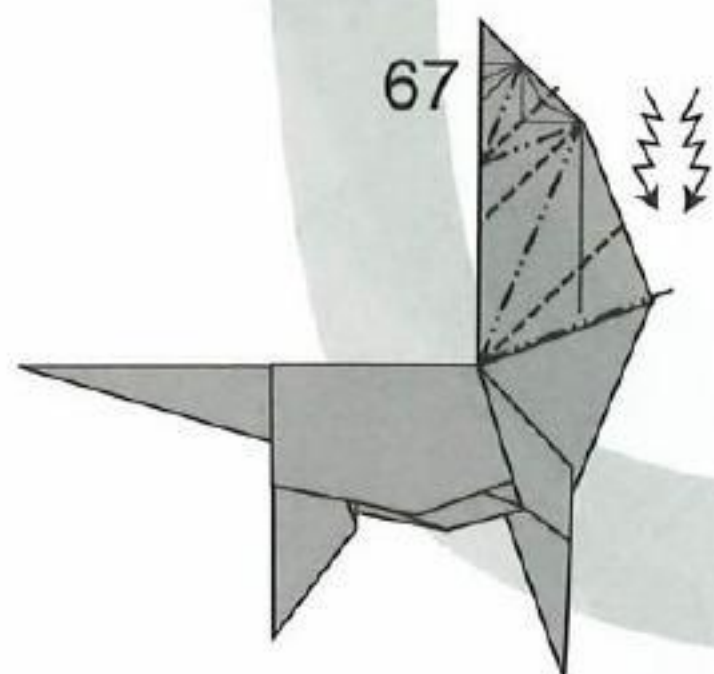
上の紙を手前に
起こすように
しながら半分に
折りたたむ



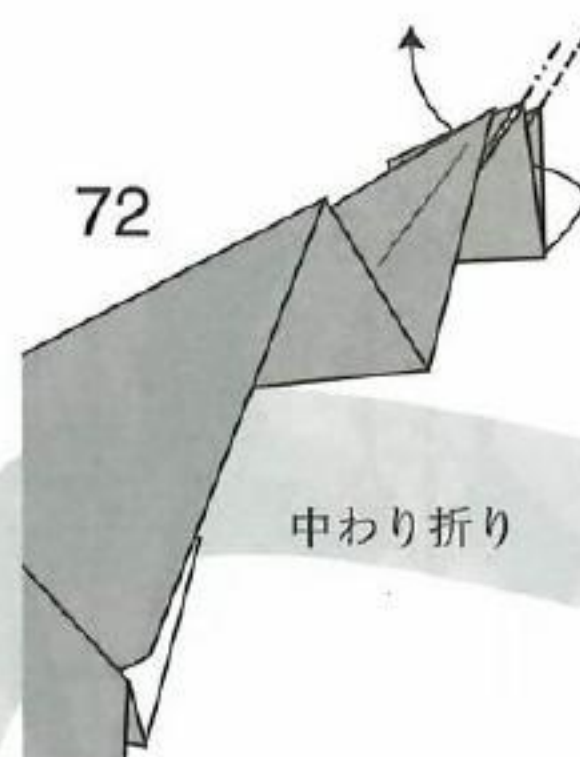
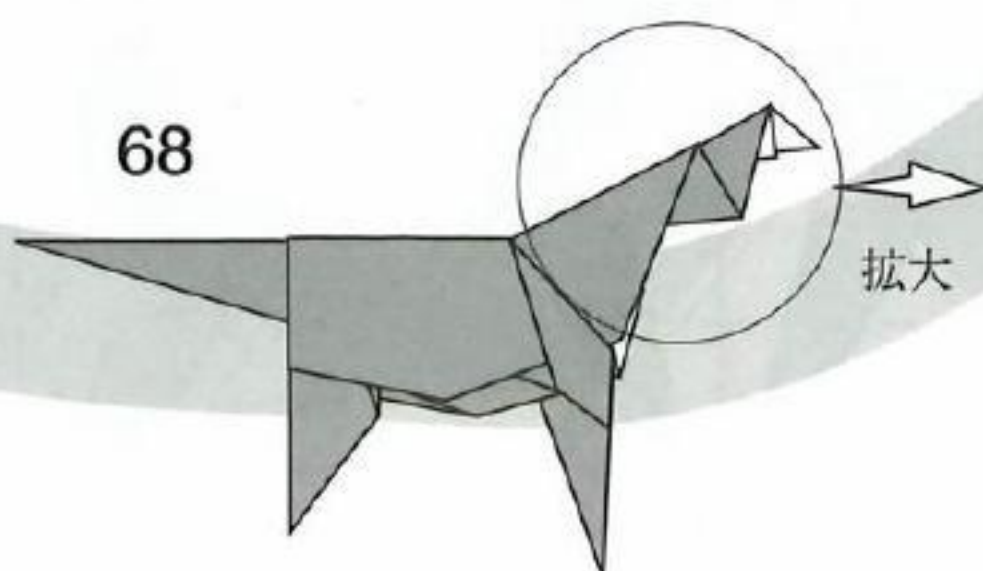
ついている折りすじ
を使って段に折る



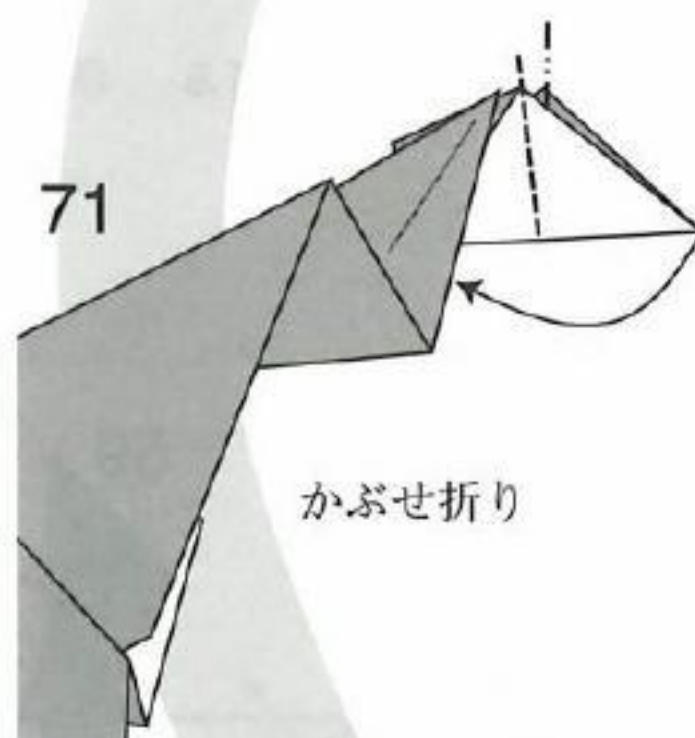
内側に中わり折り
するように折り込む
向こう側も同じ



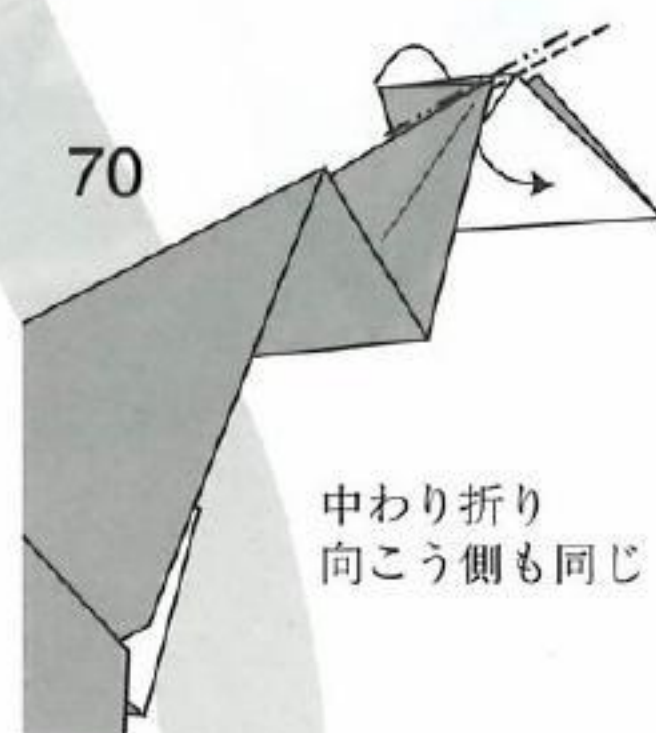
ついている折りすじを
つかって段に折っていく



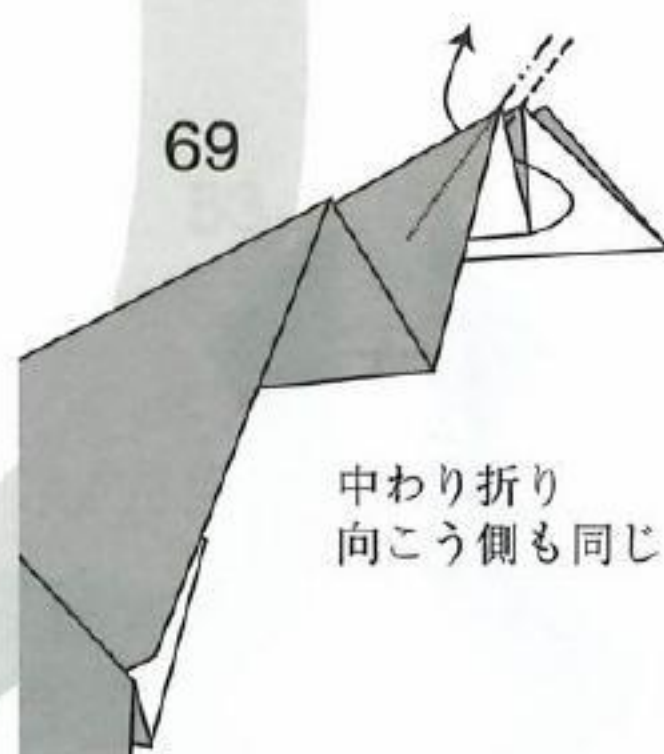
中わり折り



かぶせ折り



中わり折り
向こう側も同じ



中わり折り
向こう側も同じ

73

中わり折り

74

段折り

75

段折り

76

ヒゲを左右に広げる

79

顔のできあがり

78

左右に引っ張り
顔に丸みをつける
向こう側も同じ

77

中わり折り
向こう側も同じ

80

足の先を中わり折り

81

尾を立てて、体全体に丸みをつける

82

出来上がり

ちびフクロウ2

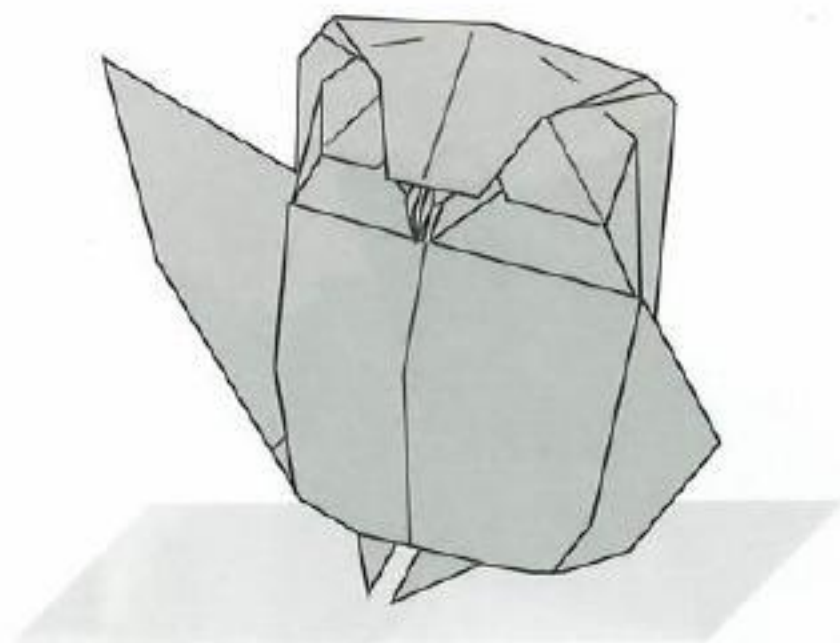
Owlet 2

勝田恭平

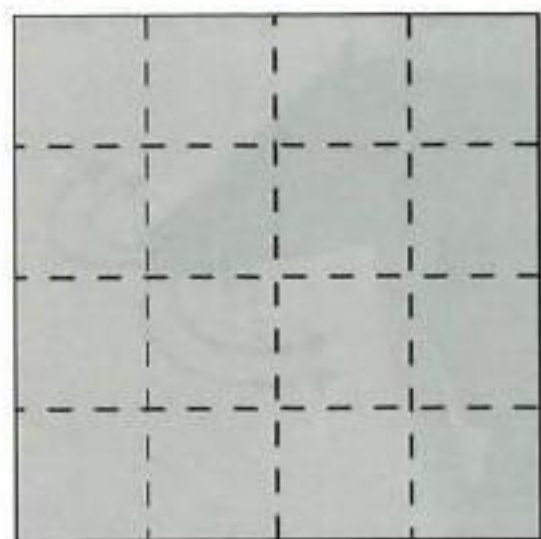
Katsuta Kyohei

作：2007/4/3

図：2007/4

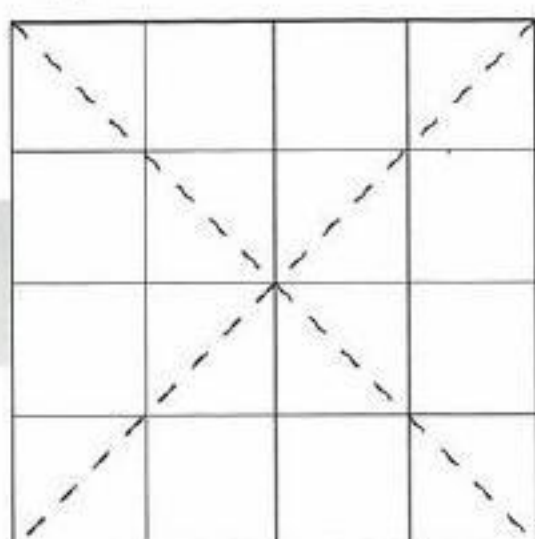


1



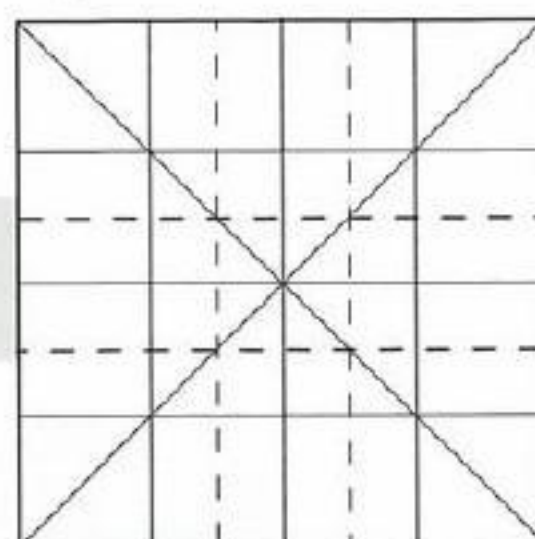
4等分の線を付ける

2



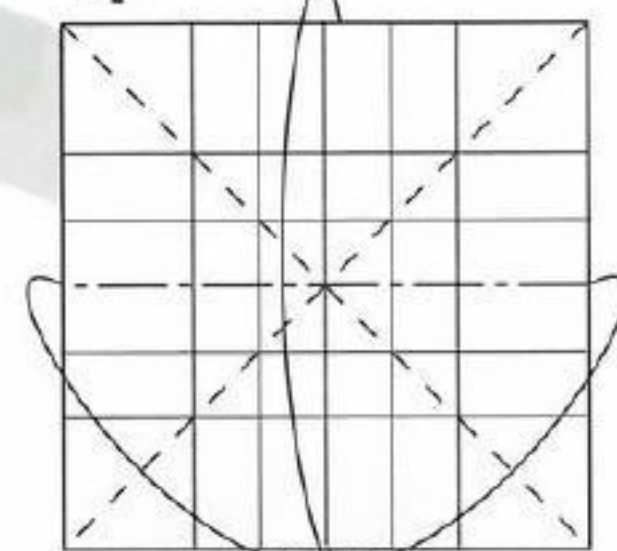
対角線に線を付ける

3



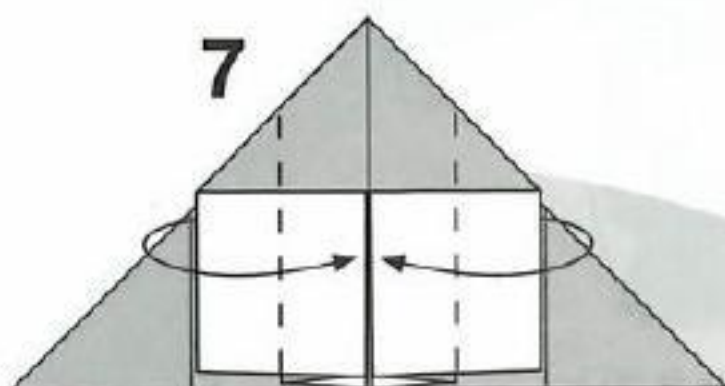
内側だけ8等分の線を付ける

4



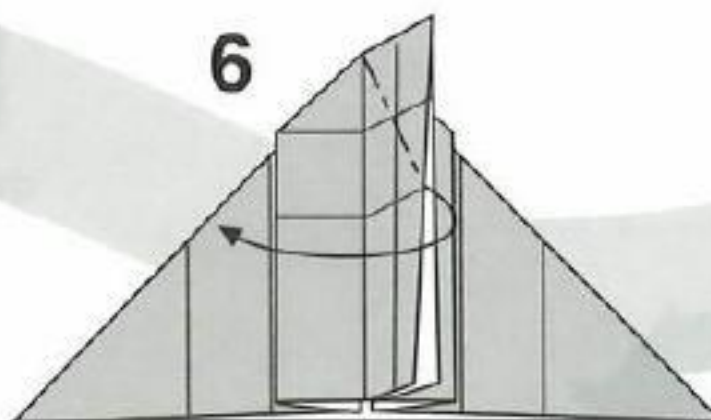
風船の基本形を折る

7



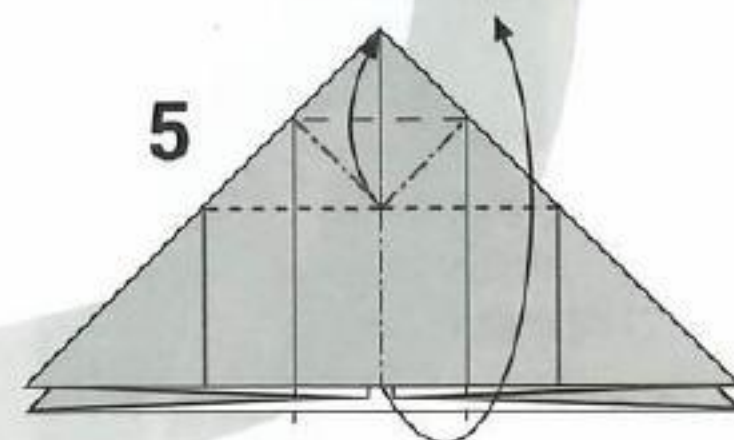
中心に合わせて折る

6



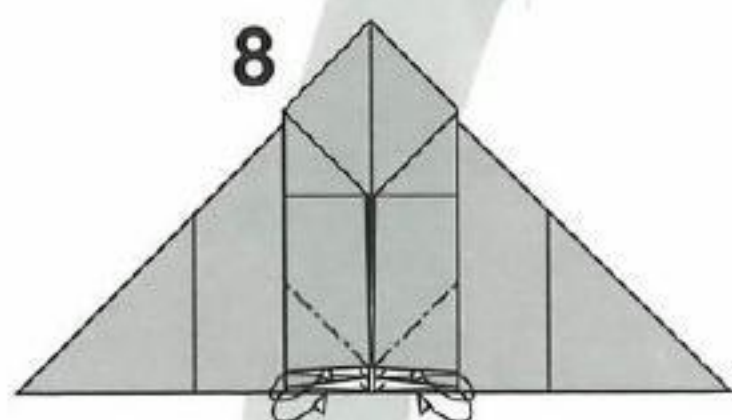
開いて潰す

5



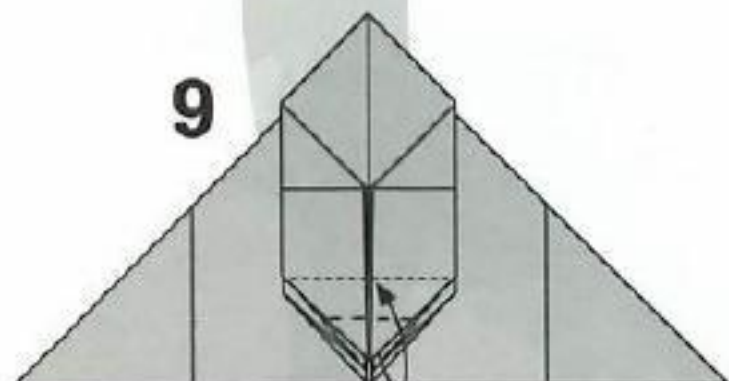
つまみながら持ち上げるように折る

8



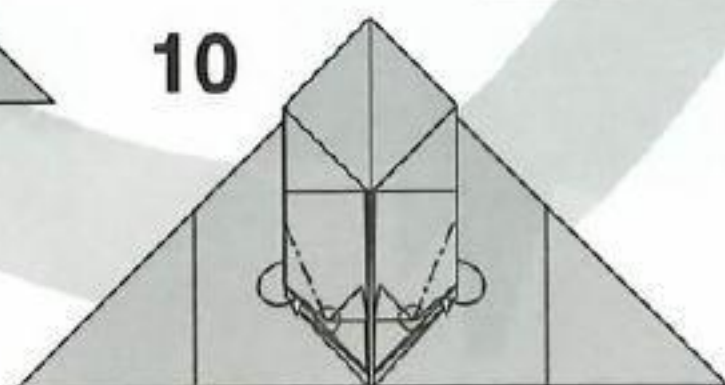
中割り折り×4

9



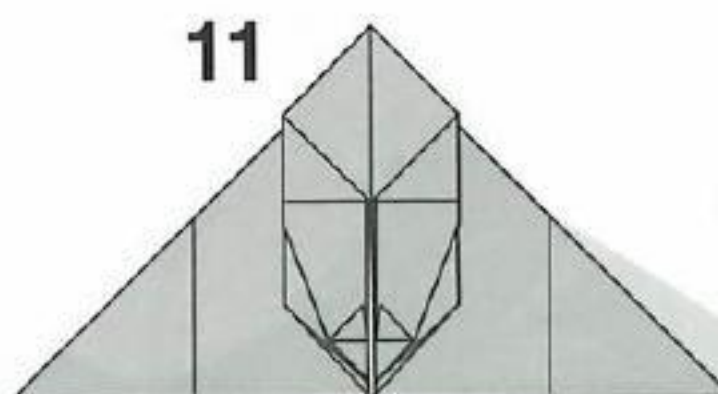
内側の紙を基準に折る

10

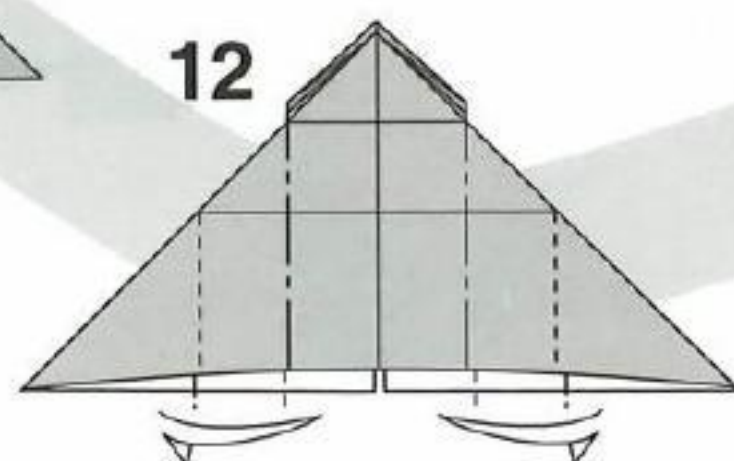


後ろに折りこむ

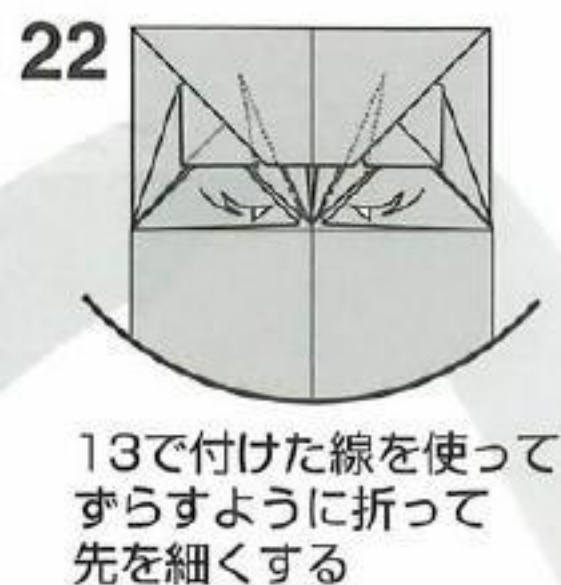
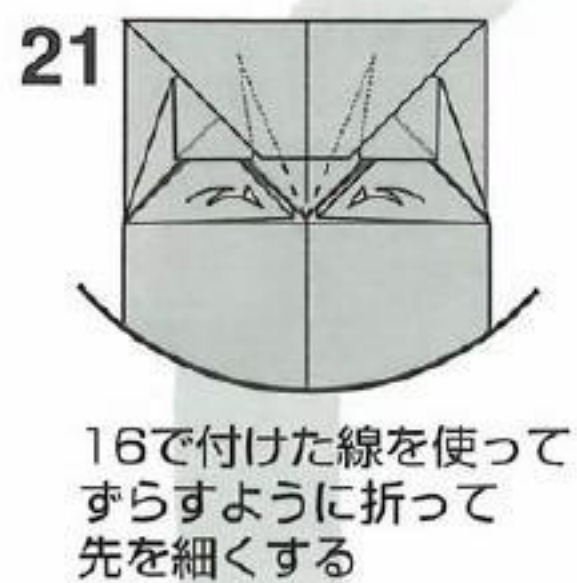
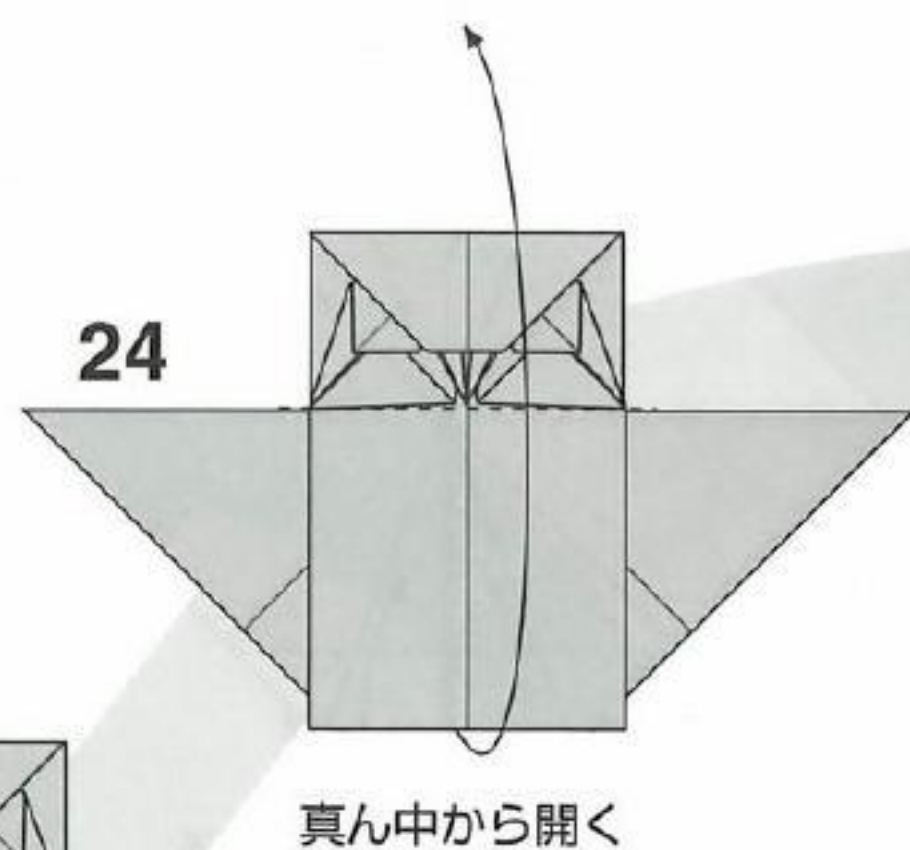
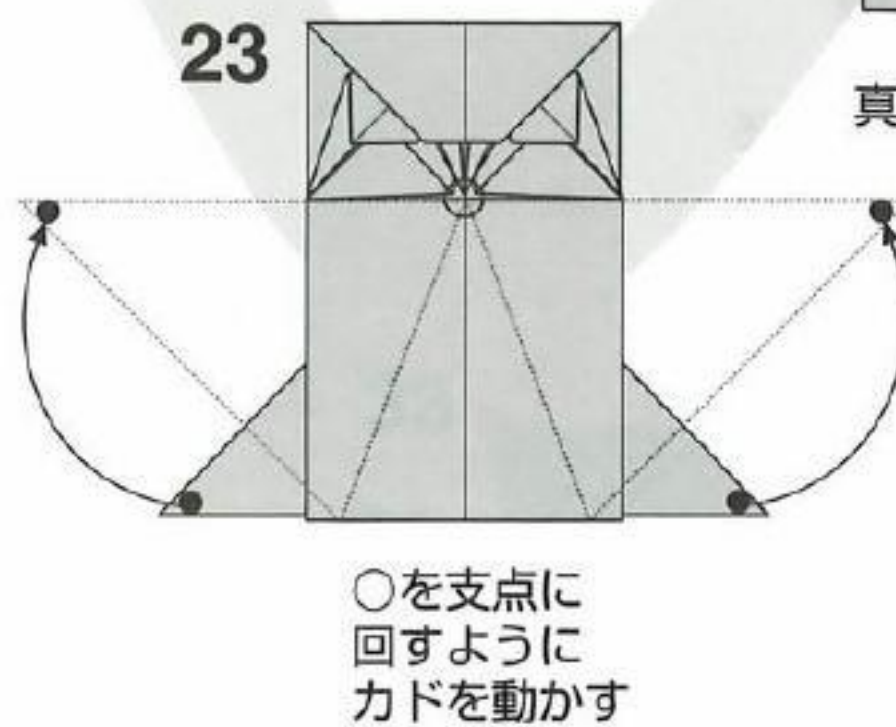
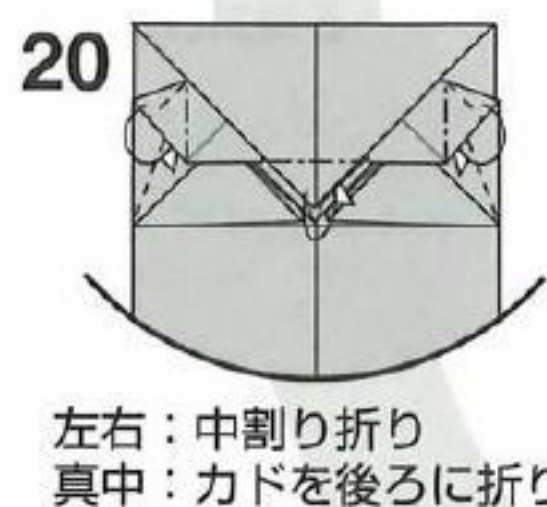
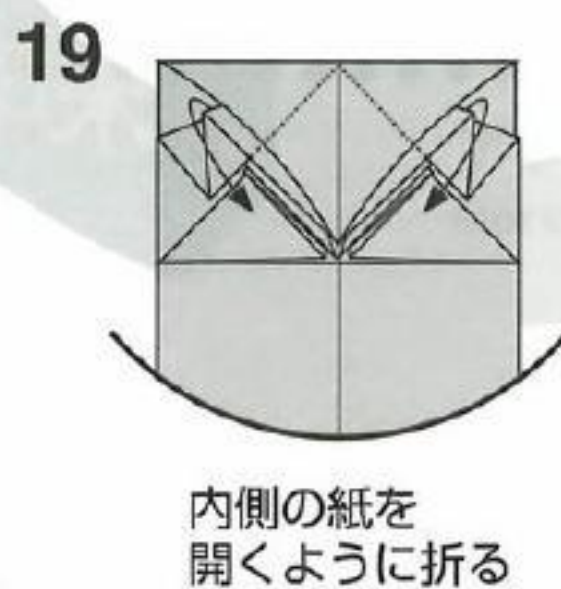
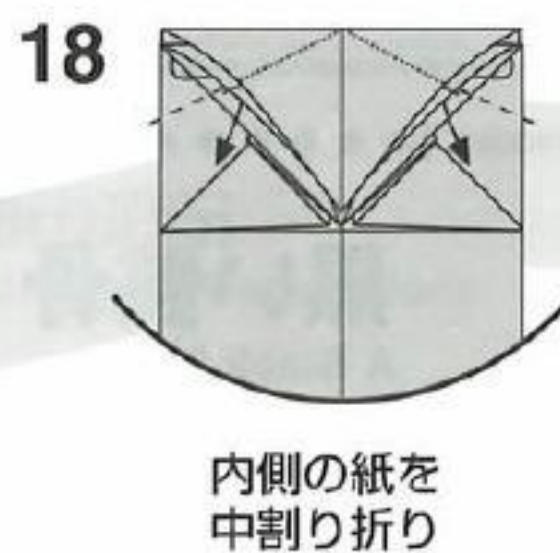
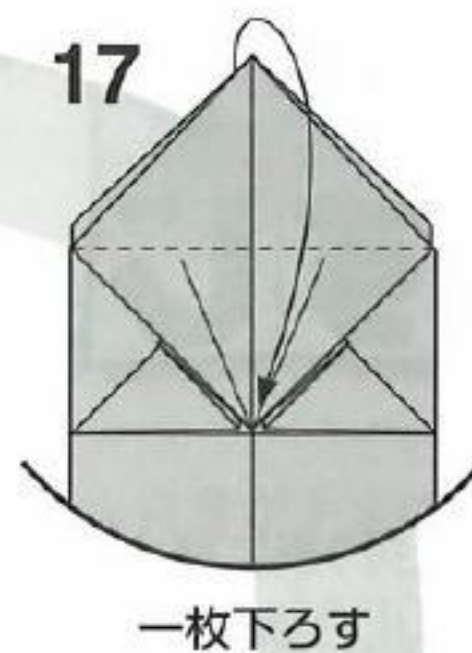
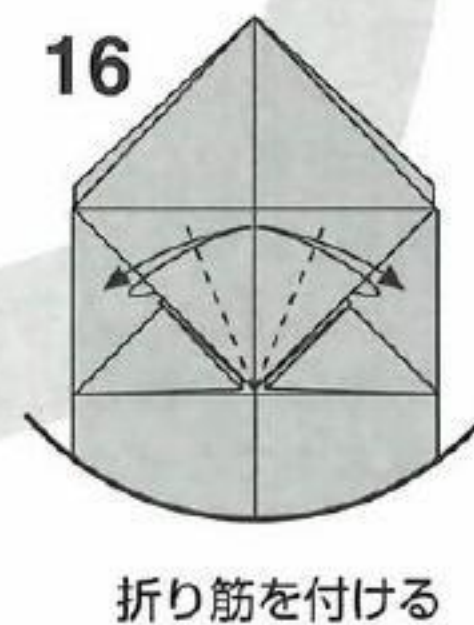
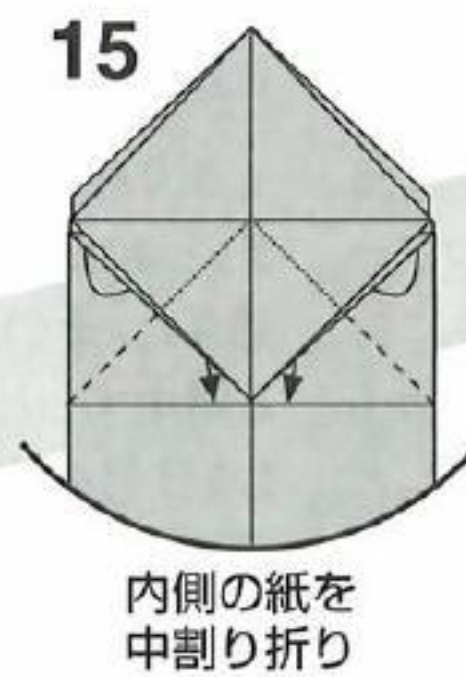
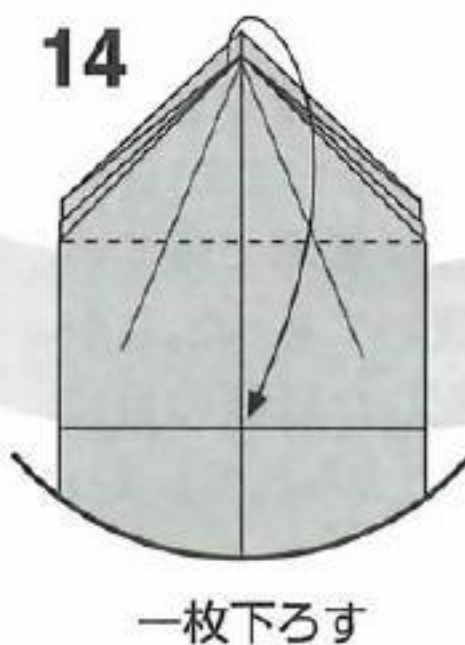
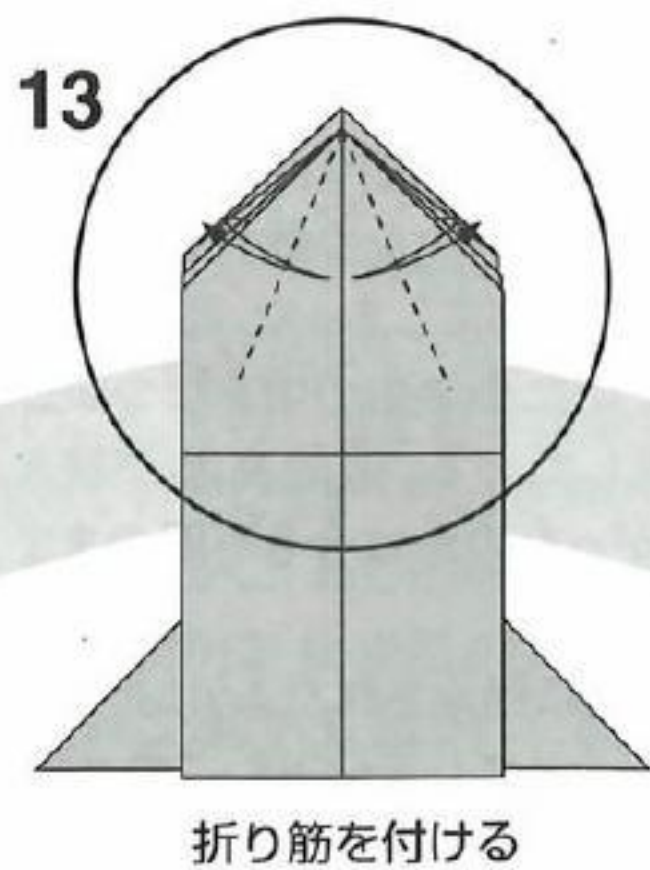
11

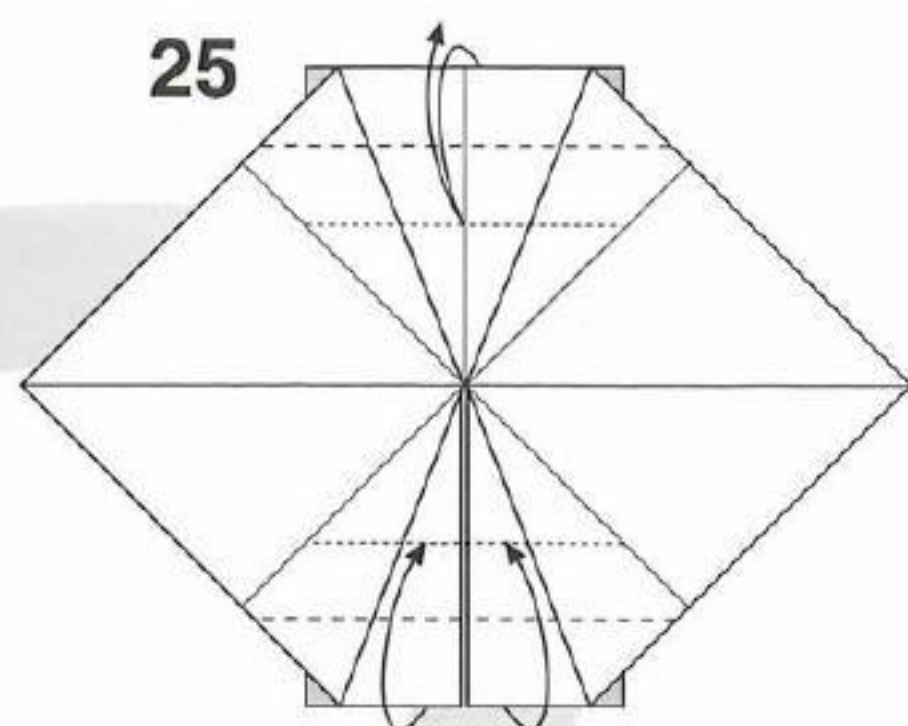


12

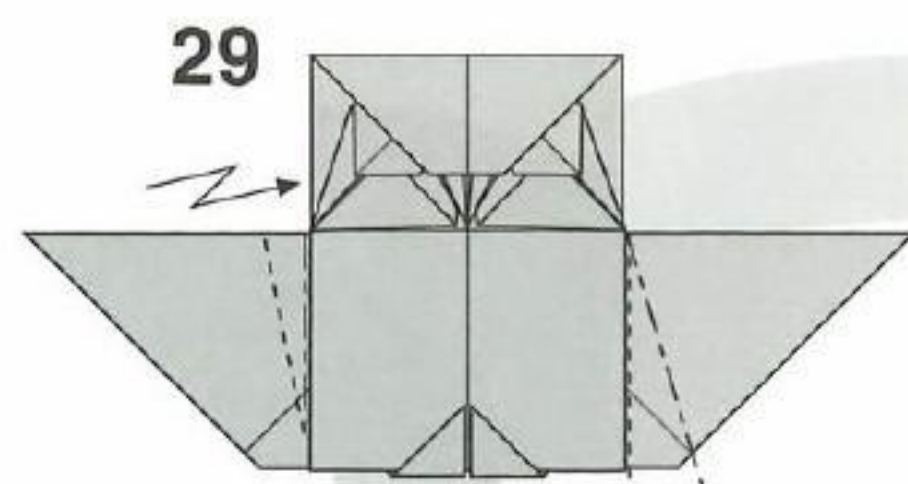


中割り段折り×2

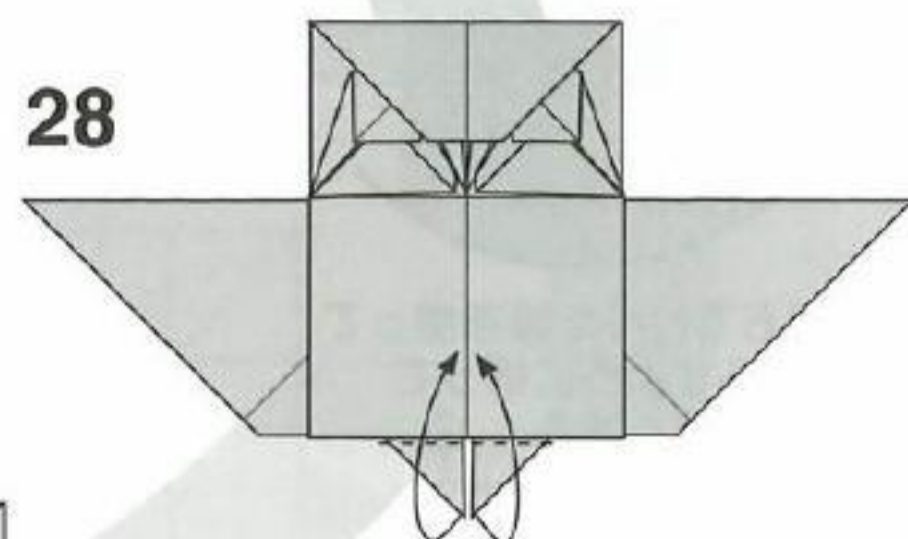
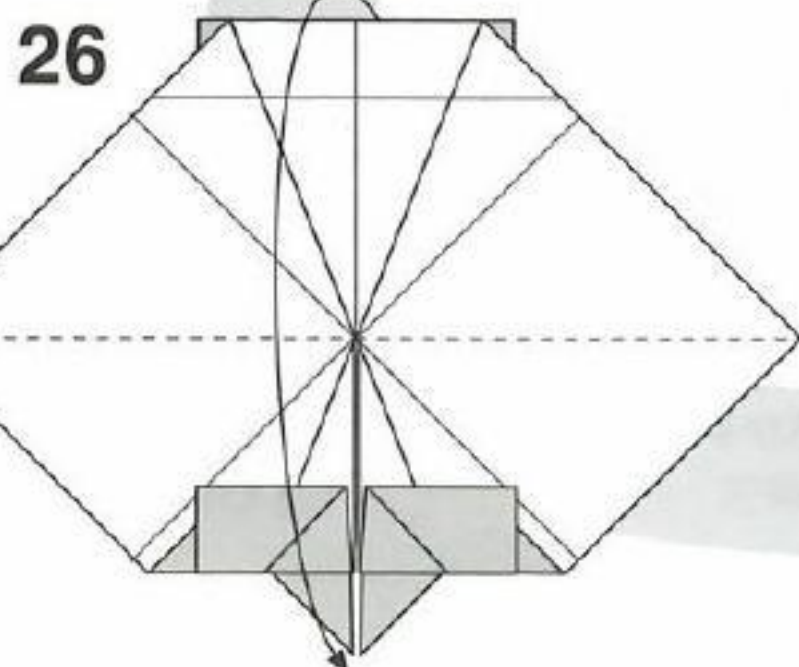




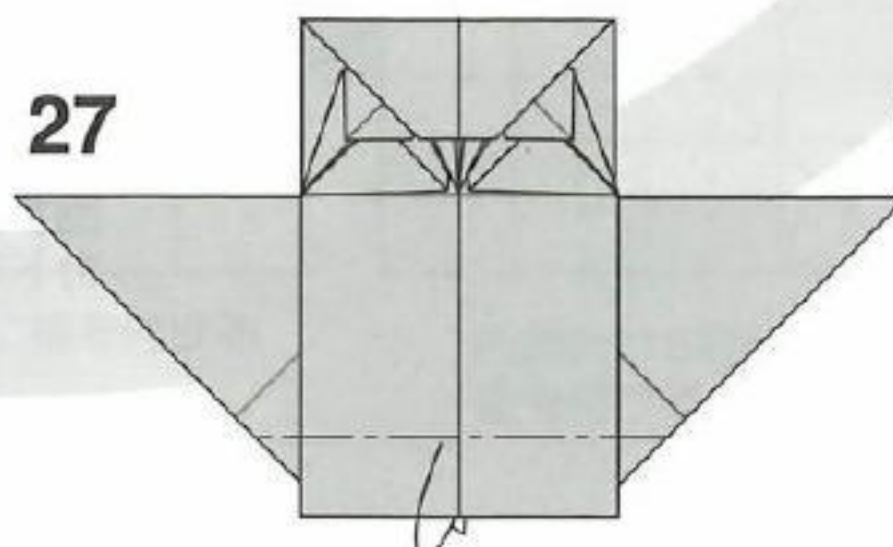
内側の紙を基準に折る



左右をそれぞれ段折り



縁に合わせて折る



25で付けた線で
カドとの隙間に差し込む



Orisuzi ("Fold-Creases")

黒い骸骨 A Black Skull

人見 亨
Hitomi Toru

折り紙に夢中になっていた小学4年生の頃のことだ。

図書館の本を借りつくし、母親が『宝島』という折り紙の本を買ってきたことがあった。

ページをめくると、R・L・スチーブンソンが書いた『宝島』の登場人物や帆船、宝箱などが載っていた。ストーリーに沿って人物や道具箱、海の生物などの魅力的なキャラクターが並ぶ中でなぜか骸骨を無性に折りたくなったことを覚えている。しかも白いはずの骸骨を黒い折り紙で。どうして黒い骸骨を折ってみたいと思ったのかは、自分でもよくわからないのだが……(恐竜の折り紙を飽き

るほど折り続けた反動なのだろうか?)。

当時は技量の足りなかったせいで、全身までとはいかず頭蓋骨と背骨だけの骸骨であったが、かなり気に入っていて、とうとう枕元に置いて寝る始末だった。

リアルな印象を与える作品は、今思うとかなり気味が悪かった。

折りあげた翌日から風邪をひいてしまい、40度の熱が下がらないまま3日が過ぎた。その黒い骸骨は風邪で寝ている間中ずっと枕元に置いてあった。しかし3日目の夕方、心配した母親の目に留まり、何処かへと葬り去られてしまった……。

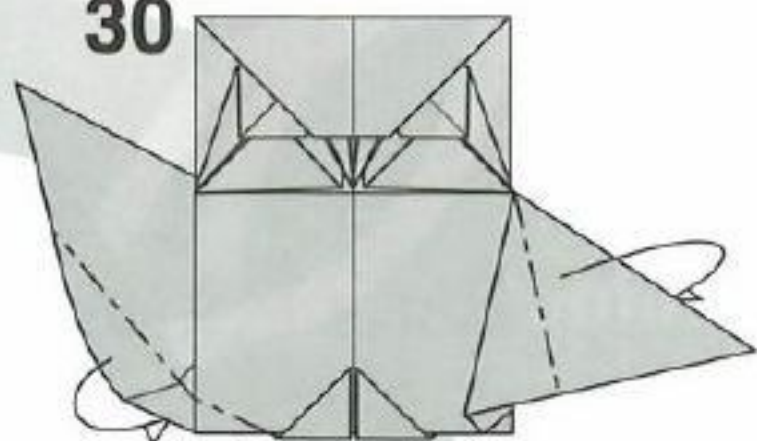
4日目、急速に熱は下がり学校へ行

ける程に回復したのだが、しばらくその本を開くことはなく、折り紙を折ることも親に止められた。

桃谷好英さんのファンタジックおりがみ『宝島』は、主人公ジム少年になって折り紙作品で遊べるように工夫されていたが、他の作品を折ることなく黒いオリジナルの骸骨を折ったことで封印されてしまった。時々無心で折っていた小学生の頃をなつかしく思い返している。何故高熱が続き急に下がったのかは今も不明のままである。

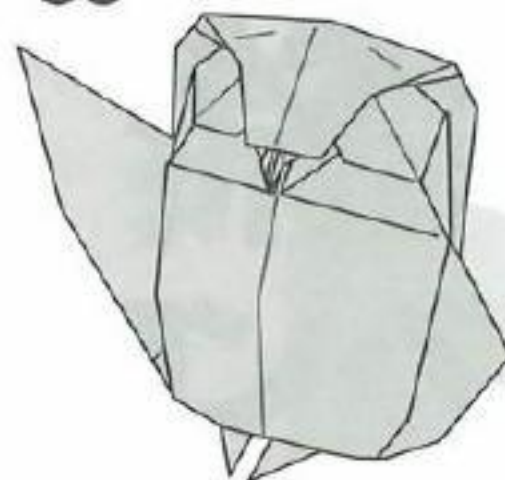
時折、熱に浮かされたように折り紙を折りたくなってしまうのは、このせいなのだろうか……。

30



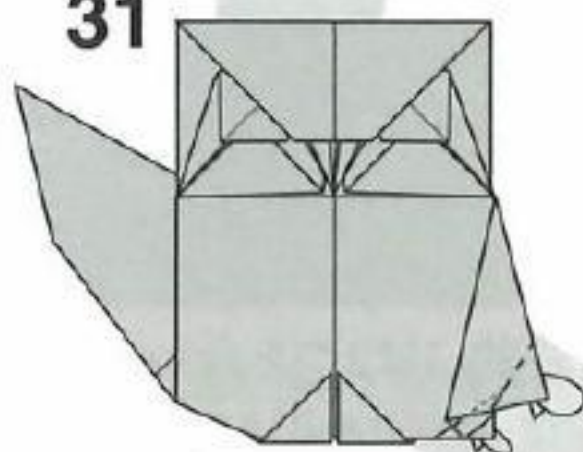
左：立体的になった部分を裏に折る
右：後ろに折る

35



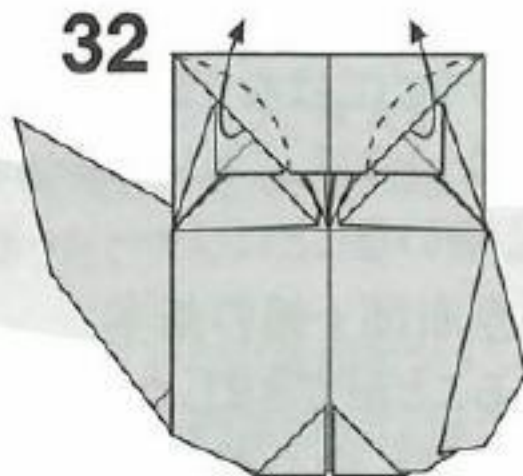
できあがり

31



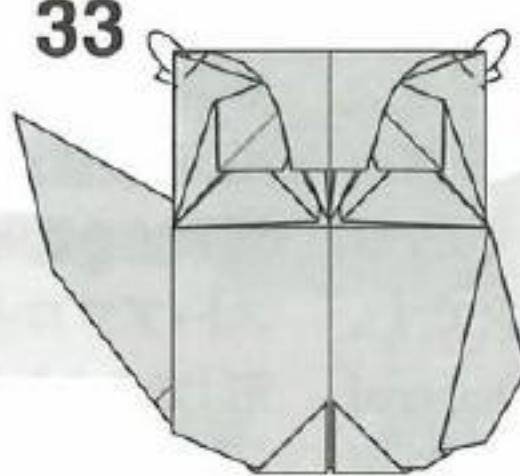
後ろに折る

32



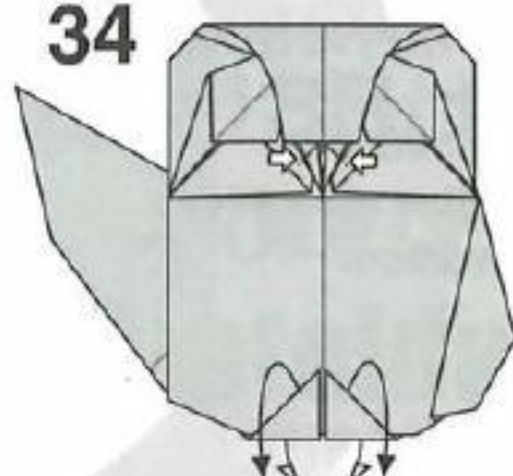
紙を開くように折る
立体的になる

33



先を後ろに折る

34



脚を立てる

折紙三昧

36

Origami-Zanmai (This Origami and That)

アジサイ折り追記

More on Hydrangea Tessellations

101号で「藤本修三研究3」として、アジサイ折りを取り上げましたが、藤本さんのアジサイ折りのルーツ不明瞭としていました。その後、探偵団読者の岡崎市の斎藤聡子さんから、藤本さんのねじり折りに関する貴重な情報をいただきました。斎藤さんは、藤本さんのねじり折りに関する3つの資料をお持ちで、藤本さんの了承を得て「ねじり折り(1)、(2)、(3)」としてコピー増刷されたとのこと。その一部を日本折紙学会に送っていただきました。3資料のうち、2つは明らかに「ねじり折り(1)」および「ねじり折り(2)」と表題されたものですが、「ねじり折り(3)」とされたものは折り図原稿といった体裁で、藤本さんがま

とめた順序が実際に(2)→(3)であるかは定かではありません。内容的には(3)→(1)→(2)のような感じもします。さて、その中の「ねじり折り(1)」に明確に“アジサイ折り”の標準型を見つける事が出来ました。しかも面白い事に、この時点では“じゅうたん”と題されているのです。構造的には明らかに“アジサイ折り”ですが、紫陽花の見立てはこの時点では表現されていません。実はこの「ねじり折り(1)」は、「ねじり折り(1)1981年増補版」と称すべきもので、1978年の「ねじり折り(1)初版」が存在するようです。しかしながら、“じゅうたん”が初版からあったものかどうかは不明です、この資料は、昨年、ロバート・ラングさんたちと藤本さんのお宅を訪

ねた際に、もう藤本さん自身が手元に持っておられなかった資料です。この「ねじり折り(1)1981年増補版」には初歩的な“漸近等分法”の記載もあります。98号の「藤本修三研究1」に、私の記憶を元に、少なくとも1983年の「創造性を開発する ねじり折り(2)」の1年前にはあったとした“漸近等分法”は更に1年遡る事が出来ました。これも「ねじり折り(1)初版」に遡れるかどうかは残念ながら不明です。本書には $1:\sqrt{2}$ の紙型の特徴を活かした立体(部分凹の菱形十二面体など)の紹介などもあり興味深い貴重な一冊です。情報をいただいた斎藤さんに感謝いたします。

西川誠司 Nishikawa Seiji

展開図折りに挑戦

Crease Pattern
Challenge!

第47回

サメ

Shark

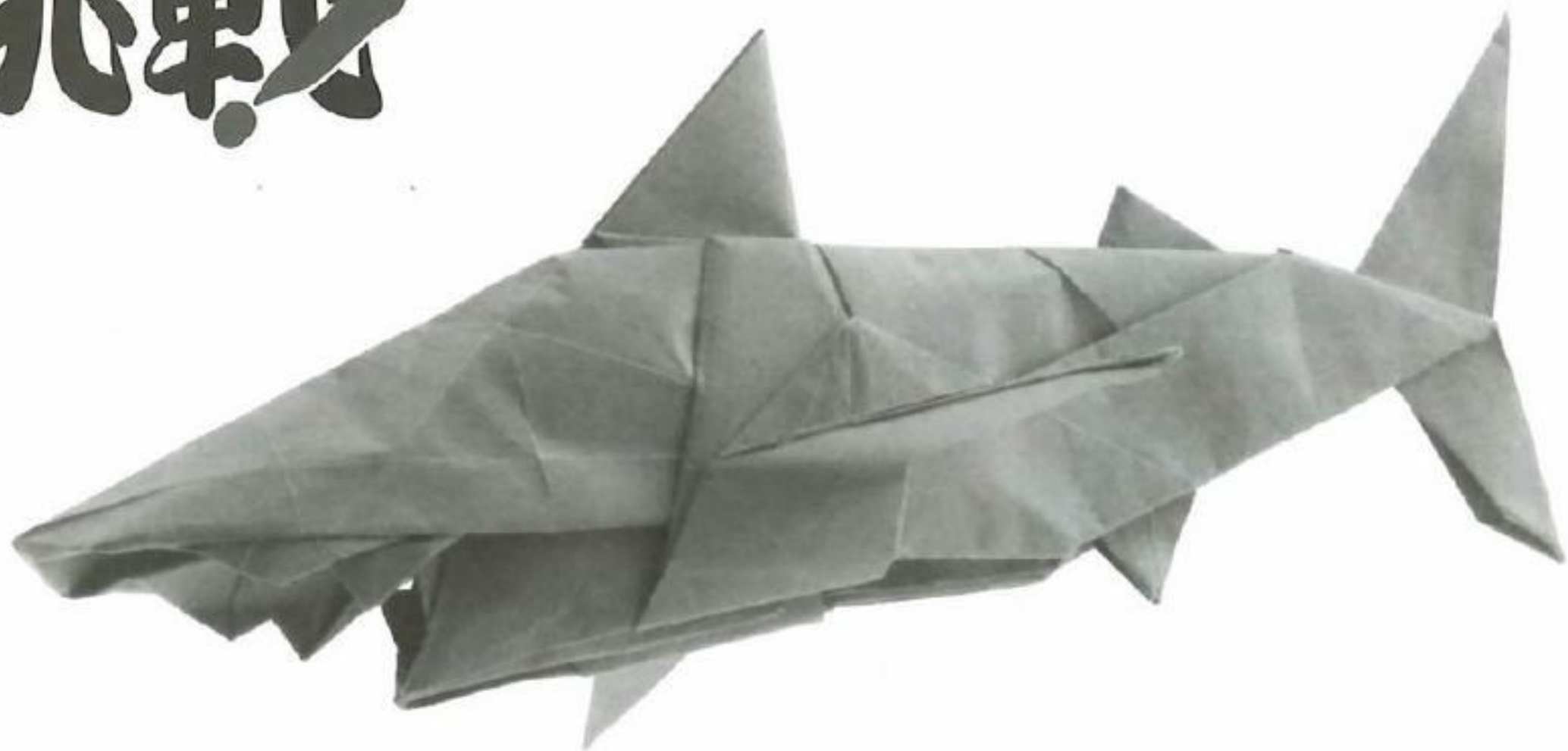
宮島 登

Miyajima Noboru

Created: 2007.02

Paper Size: 40×40cm

Length: 23cm



動 物等を創作するとき、カド配置などを決める前に背骨をどの方向にとるかを決めなければいけません。つまりDiagonal型とBook型の選択です。背骨を対角線方向にとるのがDiagonal型(図1)、辺から垂直方向にとるのがBook型(図2)です(ロバート・J・ラング氏の著書より)。

一般的なのはDiagonal型ですね。世に数多ある動物作品は多くがDiagonal型で、Book型は圧倒的に少ないように思われます。その理由を自分なりに考えると、まずDiagonal型はカドで頭部を折れるので、頭部の造型のバリエーションが豊富になります(一方、辺で頭部を折り出さなければならないBook型の労苦は言うまでもありません)。また全体構造でみたとき、Diagonal型は領域の拡張(継ぎ足し)が容易ですが、Book型の場合はそれが非常に困難です。この点についてはここで詳述するだけの紙幅がありませんが、このことから私はBook型に苦手意識を持っています。少なくとも私の場合、Book型を選択するのは、頭部付近にカドを2つ持ってこなければならない場合など(マンモスとか)なにかしら強い理由がある場合に限定されます。

さて、本作は見ての通りBook型。理由は大きい尾ひれを折るにはカド1つでは足りないからで、逆に胸びれはカドなくても辺で十分だと判断したからです。前述のように、領域が足りなくなっても後から継ぎ足すことは困難なので、一

発勝負で構造を決めなくてはなりません。経験値がほとんどないので、これには緊張感を覚えました。幸いなことにファースト・アプローチの「座布団+鶴の基本形」でなんとかまとめることができました。

最後にカド配置の解説。中心部の格子が蛇腹っぽいですが、おおむね22.5度系レプタイルでまとまっています(一部崩れてます)。紙の中心部が背びれ。下の2つのカドが尾ひれ。上のカド2つは下

顎となり最終的には2つを合わせます。歯は上部の辺を段折りや引き寄せ折りを繰り返して折り出します。

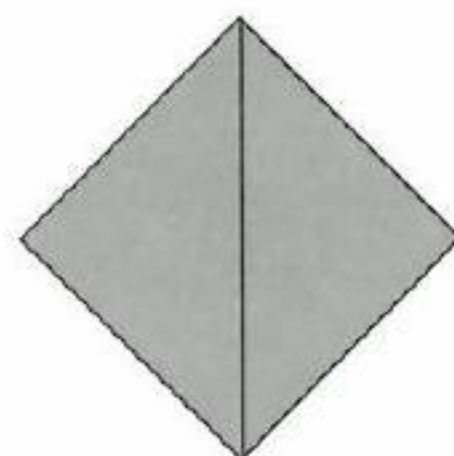


図1.Diagonal型

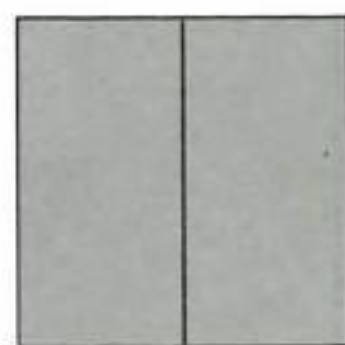
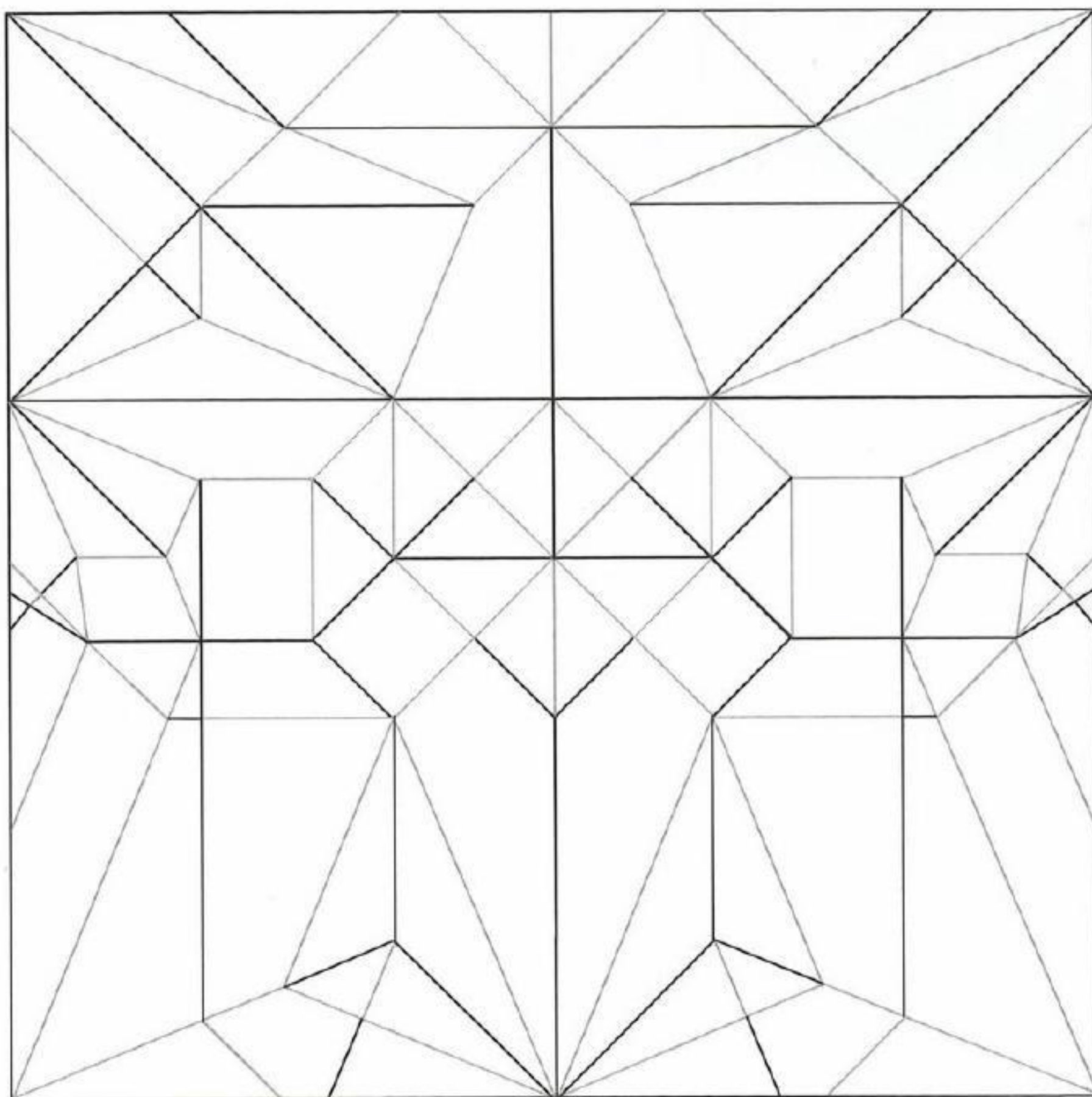


図2.Book型





Rabbit Ear

つまみおり

Information

一時的に会場を移して開催された昨年のコンベンション。今大会は、例年通り使い慣れた東洋大学に戻って開催される。お盆の時期ということで、多くの参加者が見込まれそうだ。

◆参加者募集

本誌到着から受け付け開始となる。同封の申込用紙に必要事項を記入し、郵送またはファックスで日本折紙学会事務局までお送りください。

事務局＝〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216 TEL&FAX/03-5684-6080

本誌の購読等にかかわらずどなたでも参加できるので、お知り合い同士声をかけての参加をお待ちしている。申込用紙が複数必要な場合は、コピーをとって使用のこと。

今回は、教室受付の順位の付け方が変更される。まず、6月25日到着分までの申し込みで1回目のシャッフルをして、教室受付順位をつける。この順位は初日と2日目では逆順になる。それ以後の申し込みについては、締切の8月10日に2回目のシャッフルをして残りの番号を振り、この番号も初日と2日目では(このグループ内で)逆順になる。これは関西コンベンションの方式を一部取り入れた新しい試みだ。いずれにしても申し込みはお早めに。

◆初日特別講演会

吉野基金招待者のふたり、スペインのコンプレックスモデル作家として著名なマヌエル・シルゴ氏とアメリカの大学生ベン・マラー氏のお二人による講演がある。また、折紙学会図書館スタッフである小松英夫氏による図書館便りの講演も予定している。シルゴ氏からは、著書を会場で希望者に販売し

たいとの意向をうけている。

特別講演会は参加無料だが、事前登録が必要。特別講演のみ参加希望の方は切手を貼った返信用封筒(住所、名前を明記)を同封の上、郵送で申し込みのこと。

◆折り紙教室

シンプルなお品からスーパーコンプレックスまで、バラエティに富んだ講習がいっぱい。作者自ら講師になる教室では、最新作や未発表作品に直接触れることができる。また、探偵団ならではの展開図折り教室に加え、今年の関西コンベンションで充実していた講義(折紙と数学、著作権など)も企画されている。

教室は定員制で、受講申し込みは当日になる。教室受付の優先順位については、◆参加者募集の項を参照のこと。希望の講習を受けるためには、参加申し込みは早めが基本となる。

◆講師大募集

自信作をお持ちのあなた、お気に入り作品があるあなた、コンベンションで講習をしてみませんか。初めての方も大歓迎だ。自分の創作作品ではないがあの作品を教えたいという方には、JOASが作者の使用許可を取るためのお手伝いをするので、遠慮なくお問い合わせをいただきたい。

もちろん講師経験者も大歓迎。折紙指導員資格を持っている方なら、実力を発揮す

第13回

折紙探偵団 コンベンション 参加募集開始

2007年 8月17日(金)、18日(土)、
19日(日) 会場:東洋大学(東京・文京区)

13th Origami Tanteidan Convention

2007 August 17-19 at Toyo University, Tokyo.

るまたとない機会に違いない。

詳しくは、同封されている「講師参加のご案内」をご覧ください。

◆指導員受験者募集

東京、神戸、名古屋の各地で開催される折紙探偵団コンベンションでは日本折紙学会が認定する「折紙指導員」の資格を取ることができる。現在、指導員資格を取得している方も57名となり、各地で活躍している。今回のコンベンションでも受験者を募集している。受験資格は日本折紙学会の会員であること。受験料は無料だが、合格後の登録料として3,000円が必要となる。

◆お楽しみ懇親会

懇親会会場は、東洋大学のキャンパス内にあるスカイホールになる。スカイホールは高台にある校舎の16階で、夜の街並みがとてもきれいに見える場所だ。

老若男女の区別なく折り紙の話題で盛り上げられるひととき。言ってみれば、折り紙好きのための親睦パーティーです。

懇親会恒例となっているのが全員参加型のゲームだ。今年は5人1組で競う伝承作品早折りゲームを予定している。ランダムに選ばれた作品を各チーム一人ずつ対戦して早折り勝ち進むというルール。賞品も用意しているので、懇親会に参加される方は、伝承作品をひととおり予習しておくことをおすすめする。

■会場 東洋大学
(東京都文京区白山)
地下鉄三田線
白山駅下車徒歩5分

■日程

- 8月17日(金) 特別講演会
受付=12:00~
講演=13:30~17:00
(講演会のみ参加=無料、
但し、事前申し込みが必要)
- 8月18日(土)
受付=9:00~

折り紙教室=13:10~17:00
お楽しみ懇親会=18:00~
●8月19日(日)
受付=9:00~
折り紙教室=10:40~16:20
オークション他=16:30~

■参加費(折り紙用紙、バッジなど含む)
大人=5,000円
学生(小、中、高、大学生)=4,000円
※折り図集別売:予価2,000円
親子割引:保護者に同伴される小学生以下
の児童は半額となります。但し、折り紙

用紙等の配布はされません。

■お楽しみ懇親会(希望者のみ)

- 8月18日(土)18:00~
- 参加費= 大人5,000円(予定)
小学生以下4,000円(予定)

■宿泊(希望者のみ)

1泊素泊まり=5,500円(予定)
17日・18日及び前泊、後泊を含めて予
約を受け付けます。

※やむを得ない事情により、プログラ
ム、料金等の予定が変更される場合
があります。予めご了承ください。

13th Origami Tanteidan Convention

We Japan Origami Academic Society is going to hold The 13th Origami Tanteidan Convention on **August 17-19 at Toyo University, Tokyo**. More than 350 origami-lovers will enjoy many origami classes, classes in origami studies, and attractive events. In addition, you can share origami experiences with advanced designers or eager beginners.

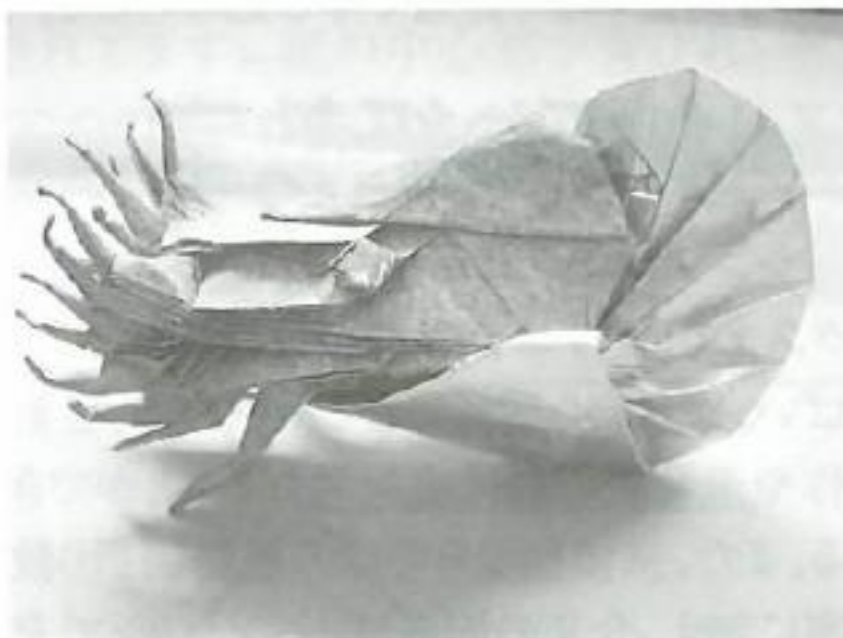
We exempt all foreigners from the admission fee of the 13th convention. We will welcome all of you to our convention 2007.

Further information will be available in the magazine and our web site.

Also you can contact us by e-mail at webman@origami.gr.jp.

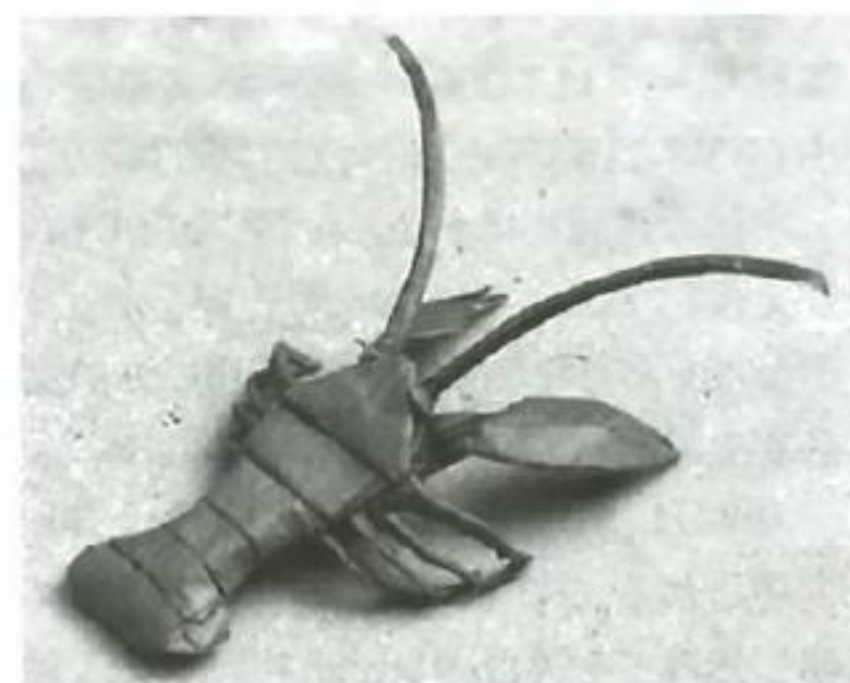
◆第11回吉野一生基金招待者決定

第11回目を迎える今年は、アメリカ、イギリス、チリ、ウルグアイから6名の応募があった。皆強者揃いといったメンバーであったが、選考委員の投票の結果、スペインのマヌエル・シルゴ(Manuel Sirgo)氏(39)、アメリカのベン・マラー(Ben Muller)氏(19)の2名に決まった。昆虫作品を得意とするシルゴ氏は、コンベンション折り図集のここ数年の常連となっているので、お馴染みの方も



上、マヌエル・シルゴ氏の「オウムガイ」
右、ベン・マラー氏の「ザリガニ」

も多いかと思う。本国では著書もあり、著名な作家である。もうひとりのマラー氏は現在19才、2年前にはロバート・ラング氏が推薦してきていた期待の若手だ。昨年申請してきていたが持ち越されていた。本誌82号のインタビューでは、高校を卒業したら探偵団コンベンションに行ってみたいと語っており、その夢が実現することになった。



第13回「コンベンション折り図集」 原稿大募集

コンベンションに合わせて発行される折り図集への作品投稿を広く一般から募集しています。国内外を問わず年を追うごとに投稿作品数が多くなり、主催者としてとても喜ばしい限りです。自慢の楽しい作品(折り図)をお寄せください。

●応募資格 特になし。アマ・プロ、年齢不問。本誌購読者及び日本折紙学会会員である必要なし。採用者(ページ数の条件あり)には、掲載作品数に関係なく『第3回折紙探偵団コンベンション折り図集』を1冊進呈。

●応募作品の条件 創作もしくはアレンジの作品で、自作の折り図に限る。(アレンジ作品の場合は、オリジナルの創作者の了解を取った上で、名前も明記すること。)原稿はデジタルデータが基本となります。手描きの場合は状況(編集作業工程の問題で)によってとなります。

●「折り図投稿マニュアル」入手方法

ダウンロード=折紙探偵団ウェブサイト「新着情報」ページから/郵便での取り寄せ=返信用封筒に80円切手を貼って送り先を記入の上、請求のこと。

Convention Book Vol.13

We are accepting diagrams for Origami Tanteidan Convention Book volume 13. The selected models will be published in this book. The format of diagrams is available from our web site. They can be computer-generated or handwritten.

●問い合わせ先
TEL&FAX:03-5684-6080(事務局)
URL: <http://www.origami.gr.jp/>
e-mail: conv@origami.gr.jp

◆第1回JOAS創作折り紙コンテスト

テーマは「スポーツ」

第13回折紙探偵団コンベンションにあわせて、創作折り紙コンテストを開催する。2004年に第10回コンベンションの記念イベントの一環として行われた「妖怪折り紙コンテスト」の好評を受け、今後の定例化を視野に入れての実施となる。第1回のテーマは「スポーツ」に決定。皆さんの自由な表現をお待ちしている。

●主催 日本折紙学会

●応募資格 国籍・年齢・経験等一切不問。本誌購読者及び日本折紙学会会員である必要なし。コンベンション参加不問。

●応募作品の条件 「スポーツ」をテーマとした未発表の創作折り紙。技法は不問。8月17日以前に、出版物・ウェブ等で公表された作品は審査の対象外となるので注意すること。

ひとりにつき1作品のみ応募できる(情景作品の場合は、情景全体で1作品として扱う)。原則として、縦・横・高さ各

30cm以内に収まる大きさであること。

●応募方法 作品募集要項(応募用紙付)を、折紙探偵団ウェブサイト上または郵送で取り寄せの上、規定の手続きを行う。郵送希望の場合は、返信用封筒に80円切手を貼って送り先を記入の上請求のこと。

●表彰 以下の3賞を設け、各1作品を選出・表彰する。

◇JOAS賞:日本折紙学会評議員が審査する。造形の完成度だけでなく、構造の合理性や手法の新規性なども評価の対象となる。

◇おりがみはうす賞:「ギャラリーおりがみはうす」の協賛による賞。おりがみはうすが審査する。以下は代表の山口真氏によるコメント。「一枚折りにこだわらず、すっきりとした映えるデザインを高く評価します」

◇人気投票賞:コンベンション期間中に、参加者による投票を行い決定する。

JOAS賞・はうす賞の受賞者には、記念の楯ならびに副賞として賞金1万円が授与される(受賞者が中学生以下の場合、副賞は図書券)。投票賞の受賞者には、賞状ならびに副賞として次回コンベンション参加券が授与される。

●日程

募集期間:2007年6月1日~7月31日

結果発表:コンベンション閉会式(8月19日)にて発表および表彰。

◆2007 オリガミ・デザイン・チャレンジ

テーマは「植物」

2004年よりロバート・J・ラング氏が中心となり行われ、いくつもの傑作を生みだしているオリガミ・デザイン・チャレンジが今年も参戦者を募集している。

今年2007年のテーマは「植物」。コケ、シダ、草、木など自由に選んでかまわない。ただし、花や葉などの一部分ではなく植物全体を折った作品であること。根や植木鉢、地面などを折っても(折らなくても)よい。不切正方形一枚折りであることが条件となる。投稿された作品は、OrigamiUSAと日本折紙学会のコンベンション等で展示される予定。

過去に行われたテーマの作品は、ラング氏のウェブサイトで見ることができる(<http://www.langorigami.com/art/challenge/challenge.php4>)。参戦するとラング氏のサイトに掲載されるかも?

※事務局ではオリガミ・デザイン・チャレンジへの参加をお手伝いします。作品を展示用の札を同封の上、日本折紙学会事務局宛にお送り下さい(6月15日必着)。投稿された作品はOrigamiUSAの

コンベンションに参加する山口真氏が運ぶ予定です。



▲昨年のテーマ「帆船」に参戦したブライアン・チャン氏の"Attack of the Kraken"

◆折紙学会図書館資料検索ページ公開

図書担当スタッフ

4月末に、所蔵している資料の検索サービスをウェブ公開いたしました。現在、592点の資料がデータベースに登録されており、題名、編著者名、出版社名、シリーズ名、ISBNなどから検索できるようになっています。どうぞご利用ください。

図書担当チームでは、引き続いて未整理の資料の登録作業を行ってまいります。また、利便性とマンパワーのバランスを見計らいつつ、より充実した運用を目指します。今後ともご支援よろしくお願い

いたします。

折紙学会図書館ウェブページ:

<http://www.origami.gr.jp/Libra/>

＜折紙学会図書館利用案内＞

◇場所:日本折紙学会事務局

東京都文京区白山1-33-8-216

ギャラリーおりがみはうす内

◇利用資格:日本折紙学会会員

◇特徴:内外の折り紙に関する書籍、定期行物を幅広く収集しています。

◇利用日:第1週を除く毎週土曜日

13:00-17:00(臨時に変更になることがあります)

◇利用手続:あらかじめ、メールまたは電話にて、日本折紙学会事務局までご連絡ください。

専用アドレス:

E-mail:library@origami.gr.jp

電話:03-5684-6080

◇利用形態:

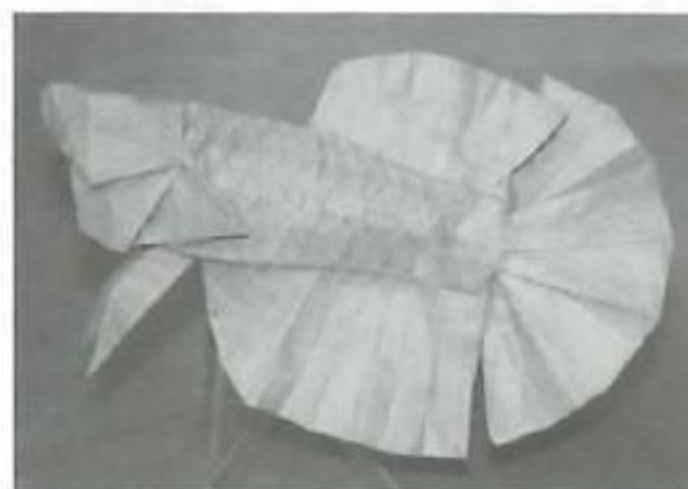
資料の貸し出し、コピーはできません。資料を閲覧しながら、折り紙を折ったり、メモを取ることはできます。

昨年に続き神戸女学院大学文学館で開かれた第8回関西コンベンション。入り口では、関西コン名物の巨大折り紙(「ティーバッグのトナカイ」前川淳氏・創作、中村和也氏・製作)が参加者を出迎えた。

今年のスペシャルゲストは、毎年東京のコンベンションでお馴染みのジューン・サカモト氏。折り紙半生を語った講演「My Life with Origami」は同時通訳付きで行われた。講演の後の質疑応答では、質問でなく講演している人がいたが、これはこれで会場を和ませていたようだ。



▲中村氏による巨大折り紙、今回はなんと「ティーバッグのトナカイ」



▲初参加、五十嵐智祐氏の「鱈折り」(鯛魚(ベタ))



▲全体会場



▲人気投票で一位となった松田景吾氏の「ガメラ」



▲小松英夫氏の「いのしし」

▲宮島登氏の新作「パンダ」

佐賀でおりがみ展

日本折紙協会佐賀支部「おりがみSAGA」と川村みゆき氏によるおりがみ展が行われる。詳細は下記の通り。

会場=NHK佐賀 NHKギャラリー(佐賀市城内2-15-8) / 会期=5月29日(火)~6月11日(月) 10:00~17:00

います。/G205教室/作品、講師未定。

●7月21日(土)(予定)会場=名古屋芸術大学 西キャンパスG棟204・205 / 作品、講師未定。

関西友の会 ※折り紙は各自持参

●6月30日(土) / 会場=長岡京市産業文化会館(予定) / 14:00~17:00 / 参加費=高校生以上500円 / 講師:森下洋子 / 作品:花火

静岡友の会 ※折り紙は各自持参

●7月1日(日) 会場=「紙友館ますたけ」増武ビル3F / 参加費=500円 / 時間=10:30~12:00 / 問い合わせ: 054-254-4541 (増武内 山口16~20時)

▼宮本真太郎氏の「コレット」



▲木村良寿氏の大作「ゲッターロボG」

JOASホール今後の予定

◆6月16日(土)「知子の部屋」布施知子 / 参加費=2,500円 / 12:30-16:00

◆7月21日(土)「知子の部屋」布施知子 / 参加費=2,500円 / 12:30-16:00

◆7月29日(日)「ある折紙作家の教室」神谷哲史 / 参加費=3,000円 / 11:00-16:00 / 講習作品「ライオン」

■参加の申し込みはFAX(03-5684-6080)か、メールinfo@origamihouse.jp宛でお願いします。これをできない場合は電話でも受けます。上記の予定は講師の都合により変更される場合があります。事前にお問い合わせください(03-5684-6040)。

編集後記

■コンベンションが盛んだ。■今号を入稿と同時にパリへ(MFPPに参加)。■6月にはニューヨークだ(OUAに参加)。■7月は韓国でもある。ここは宮本真太郎君と安西真君の二人がスペシャルゲスト。若者がこういう形で出ていくのは気持ちのいいものである。■8月にはJOAS最大のイベント、折紙探偵団コンベンションが控えている。■さらに続く、9月はBOS40周年記念のコンベンションに参加。■11月はイタリア、オーストラリアの後にはカナダ(バンクーバーのPCOCに参加)と続き、最後に名古屋コンベンションだ。■オー目が回るというより体が持たないなキット。

ホームページ

折紙探偵団 <http://www.origami.gr.jp/>
 団員パスワード/Pyramid(大文字・小文字別)

折紙探偵団

2007年5月25日発行 第18巻1号通巻103号
 発行所/日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人/前川 淳

編集人/山口 真

編集スタッフ/松浦英子・神谷哲史

デザイン/おりがみはうす

翻訳/立石浩一

発売元/おりがみはうす

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

定価635円(本体605円)

広告のコーナー



おりがみはうす商品案内

website = <http://www.origamihouse.jp/>

E-mail = info@origamihouse.jp

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only.
For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.

限定版 折紙探偵団Tシャツ

折紙探偵団のロゴが入ったTシャツ。
Origami Tanteidan Convention
Tokyo Nagoya Kobeの文字が
入っています。色は黒のみで布は厚手。
XS,S,M,L,XL各サイズ 定価
2,000円/2着まで送料500円
数に限りがありますので、ご注文の際には在庫を確認してください。



胸のロゴ
Origami Tanteidan Convention
Tokyo Nagoya Kobe
後ろの首のところに
左右7センチのロゴ

I ♥ ORIGAMI

書籍名/著者・編者	価格(税込)	送料	内 容
神谷哲史作品集 神谷哲史 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,000円	国内一律 1冊 420円 (梱包込) ※ 複数冊は 異なります	B5判/全228頁/カラー口絵4頁/19作品収録 超複雑系折り紙の創作活動8年間の集大成。
西川誠司作品集 西川誠司 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,200円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/32作品収録 シンプルからコンプレックスまで幅広く楽しめる本
折紙図鑑「昆虫1」 川畑文昭・西川誠司 共著 山口 真 編	3,100円		B5判/全196頁/カラー口絵 4頁/17作品収録 '93~'94年の「昆虫戦争」で誕生した作品の記録
折紙図鑑「昆虫2」 ロバート・J・ラング 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,500円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/18作品収録 初心者お断り、世界で一番難しい昆虫折り紙の本
折り紙色紙百花 田中具子 著 山口 真 編	2,500円		B5判/全120頁/カラー口絵8頁/31作品収録 色紙に貼り込んで飾る花の折り紙作品集
一生 スーパーコンプレックス 吉野一生 著 完売御礼 おりがみ	—		B5判/全200頁/カラー口絵8頁 トリケラトプス全身骨格を含む14作品収録
面~The Mask~ 布施知子 著 山口 真 編	3,300円		B5判/全200頁/全27作品カラー写真紹介 作者がユニットに出会う前の、お面だけの作品集
空想おりがみ 川畑文昭 著	2,900円		B5判/全180頁/カラー口絵4頁/18作品収録 1995年6月初版発行の恐竜と空想動物の本
第12回折紙探偵団 折り図集vol.12 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作52作品を収録
第11回折紙探偵団 折り図集vol.11 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作55作品を収録
第10回記念 折紙探偵団 折り図集vol.10 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作50作品を収録
第9回折紙探偵団 折り図集vol.9 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作45作品を収録

※第1回~第8回の折り図集は全て絶版です

※書籍は郵便の「冊子小包」で発送しております。送料には梱包材代が含まれています

冊の送料
書籍複数

書籍2冊の送料は530円/書籍3冊の送料は670円(例外を除く・下記参照)

例外:「折り図集」又は「色紙百花」だけを3冊の場合(例:折り図集8、9と色紙百花各1冊)のみ530円

上記以外の場合はお問い合わせください/書籍と紙製品は別発送となりますのでご了承ください

商品名	価格(税込)	送料	内 容
恐竜柄おりがみ用紙	1,000円	国内一律 1~2セット 440円	35×35cm/10枚入/70kgの 洋紙に細かい恐竜模様を印刷
恐竜柄おりがみ用紙 3種類から 折り図つきセット 選べます	1,200円	3~5セット 630円※	1. ドラゴン(北條高史作) 2. ティラノサウルス(神谷哲史作) 3. カルノタウルス(神谷哲史作)

※紙製品は定形外郵便で発送しております(書籍とは別発送になります)。送料には梱包材代が含まれています

『折紙探偵団』専用ファイル

変形B5判/箔押しロゴ入/雑誌
「折紙探偵団」1年分(6冊)収録用
1冊750円

送料: 1冊250円(合計1,000円)
2冊350円(合計1,850円)
3冊470円(合計2,720円)

※ファイルは定形外郵便で発送しております
(書籍・紙とは別発送になります)
送料には梱包材代が含まれています

商品の申し込み方法

冊数と料金をよくお確かめの上ご注文ください。

先に**郵便振替**か**現金書留**で料金(商品価格+送料)をお送り下さい。入金を確認後、商品を発送させて頂きます。ご希望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の「通信欄」に記入)をお忘れのない様お願いします。

郵便振替番号 **00120-9-715400**

加入者名 **おりがみはうす**

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。
※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。
※現金書留の場合は左記の住所へお送りください。
※商品のお届けは通常、送金から約1週間~10日です(お盆・年末年始等を除く)。

只今制作中 発行日は未定です。気長に待っていて下さい

小松英夫折紙作品集/小松英夫・著 サプライ図をお楽しみに
北條高史折紙作品集/北條高史・著 あの名作の折り図も掲載予定
折紙図鑑「犬」/佐野康博・著 犬の折り紙第一人者の作品集

本ページに記載していない商品は、現在取り扱っておりません
ご送金頂いてもお送りできませんのでご注意ください



ギャラリー **おりがみはうす**

〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216

TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080

E-mail: info@origamihouse.jp 10時~18時 日・祝休

四季の千代紙

夏の風物詩を

千代紙にしました・・・

¥200

(税抜き)



スイーガ



虫の舞



夏の緑日



向日葵



株式会社トーヨー

ホームページ <http://www.kidstoyo.co.jp>

●写真は印刷ですので実際の商品とは色は違う場合があります。
※表示価格には消費税は含まれておりません。※内容・デザインは一部変更になることがあります。

本社 〒120-0044 東京都足立区千住緑町2-12-12 TEL03-3882-8161
大阪支店 / 名古屋営業所 / 福岡営業所 / 札幌出張所 / 松山出張所